

とり い ど い せき  
鳥井戸遺跡

令和3年9月

宇都宮市教育委員会

# 序

今回の発掘調査は、交通渋滞の緩和や物流の効率化を図ることを目的に計画された瑞穂野バイパスと鬼怒テクノ通りを結ぶ市道5340号線の改良工事に先立ち行われました。

調査の結果、鬼怒川東岸の清原南部地域では調査事例が少ない古代の集落跡が確認されました。出土した遺物の中には、人間にとって必要不可欠な塩を入れて運んだと思われる塩壺が2点あり、当時の人々の生活の一端をうかがい知ることができる資料です。

本書はそれらの成果をまとめたものであり、市民をはじめ多くの皆様が、本市の埋蔵文化財について理解と関心を深める手がかりとしてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取扱い協議から発掘調査に多大なるご協力とご理解をいただきました、関係機関並びに関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和3年9月30日

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀 茂雄

# 例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市上籠谷町1912他に所在する鳥井戸遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、宇都宮市道5340号線（みずほの通り）整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として実施したものである。
- 3 本調査は平成20～27年の間に3次に渡って実施したが、それぞれの調査期間・調査面積等は以下のとおりである。

調査次	調査期間	調査面積
第1次調査	平成20年8月4日～平成21年3月27日	5,750㎡
第2次調査	平成22年5月14日～7月27日	350㎡
第3次調査	平成27年2月25日～3月23日	120㎡

- 4 発掘調査における測量及び写真撮影等は前原義之・君島直人が、また報告書作成に伴う遺構・遺物の整理及び写真撮影等は、永岡亜紀・森千鶴子の協力を得て、田續麻友子・梁木誠がこれにあつた。
- 5 本書の編集・執筆は、清地良太との協議を踏まえ、梁木と田續がこれにあつた。
- 6 本遺跡出土の遺物及び図面・写真等の記録類は、宇都宮市教育委員会で保管している。
- 7 発掘調査の関係者は次のとおりである。

## 〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員 塙 静夫（平成20年9月30日まで）

〃 竹澤 謙（平成20年10月1日から）

〃 橋本澄朗

## 〔事務局〕

### 〈平成20年度〉

教育長：伊藤文雄、教育次長：高井 徹、文化課長：檜原貞亮、文化課長補佐：篠原 豊  
文化財保護係長：大塚雅之、文化財保護係：神野安伸、今平利幸、君島直人、須田浩太郎、  
前原義之、井上俊邦、黒須 寛、鈴木浩史、寛 芳子

### 〈平成22年度〉

教育長：伊藤文雄、教育次長：岡本典幸、文化課長：高橋充史、文化課長補佐：阿部紀夫  
文化財保護係長：大塚雅之、文化財保護係：江川尚美、神野安伸、今平利幸、君島直人、  
前原義之、阿部雅子、近藤 真、柴 正美、降幡敏彦

### 〈平成26年度〉

教育長：水越久夫、教育次長：檜原貞亮、文化課長：赤石澤亮、文化課長補佐：岡地 宏  
文化財保護グループ係長：今平利幸、文化財保護グループ：江川尚美、石川和弘、君島直人、  
前原義之、近藤 真、降幡敏彦、竹下 亘、仲沢 隼、高橋 慧

### 〈令和3年度・報告書作成時〉

教育長：小堀茂雄、教育次長：青木容子、文化課長：山口達雄、文化課主幹：今平利幸  
文化財保護グループ係長：前原義之、文化財保護グループ：清地良太、近藤 真、星野治彦、

田中宏迪、小曾戸祥彦、柳川実咲、土田創太、高橋直也、高栖良子(再任)、梁木 誠(会職)、  
田續麻友子(会職)

〔発掘調査補助員〕

〈平成20年度〉

入江晴江、大塚一三、大塚啓子、大根田稔子、大根田ノブ、郷間久男、篠崎安子、関口典子、  
高橋節子、手塚悦子、堀中国代、山口郁子、山口りえ子

〈平成22年度〉

大塚一三、大塚啓子、大根田稔子、大根田ノブ、篠崎安子、関口典子、高橋節子、山口郁子、  
山口佳久

〈平成26年度〉

入江晴江、入江通子、菅野 繁

- 8 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに、次の諸機関及び諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表す。(敬称略、順不同)  
栃木県立博物館、(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター

## 凡 例

- 1 挿図の縮尺は、原則として竪穴住居跡を1/60とし、遺物は土器を1/3、鉄製品を1/2、石製品を原寸で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の番号と一致する。
- 2 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 3 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。  
ローム粒：LR、ロームブロック：LB、鹿沼パミスブロック：KPB、今市パミス：IP、  
炭化物：C、炭化物粒：CR、焼土粒：SY、カクラン：K
- 4 遺構においては次の略号を使用した。  
竪穴住居跡：SI、土坑：SK、溝：SD、不明：SX

# 目次

・序	
・例言、凡例	
<b>I はじめに</b>	
1 調査の経過	1
2 遺跡の環境	2
<b>II 遺構と遺物</b>	
1 竪穴住居跡	6
2 その他	11
<b>III おわりに</b>	
1 出土土器群の様相	39
2 集落の構成と変遷	39
・写真図版	
・報告書抄録	

# 挿図目次

第1図 遺跡位置図	1	第20図 SD01	23
第2図 計画路線図と遺跡の位置	2	第21図 SX01	23
第3図 周辺の遺跡分布図	4	第22図 SI03出土遺物	24
第4図 遺構配置図	12	第23図 SI04出土遺物(1)	24
第5図 SI01	13	第24図 SI04出土遺物(2)	25
第6図 SI02	13	第25図 SI05出土遺物(1)	25
第7図 SI03	14	第26図 SI05出土遺物(2)	26
第8図 SI04	14	第27図 SI06出土遺物	26
第9図 SI05	15	第28図 SI07出土遺物	27
第10図 SI06	15	第29図 SI08出土遺物	28
第11図 SI07	16	第30図 SI10出土遺物	29
第12図 SI08	17	第31図 SI11出土遺物	28
第13図 SI09	18	第32図 SI13出土遺物	30
第14図 SI10	18	第33図 SI14出土遺物	30
第15図 SI11	19	第34図 SI15出土遺物(1)	31
第16図 SI12	19	第35図 SI15出土遺物(2)	32
第17図 SI13	20	第36図 SI15出土遺物(3)	33
第18図 SI14	21	第37図 SI15出土遺物(4)	34
第19図 SI15	22		

# 表目次

第1表	周辺の遺跡一覧……………	5	第7表	SI08出土遺物観察表……………	36
第2表	SI03出土遺物観察表……………	34	第8表	SI10出土遺物観察表……………	36
第3表	SI04出土遺物観察表……………	34	第9表	SI11出土遺物観察表……………	36
第4表	SI05出土遺物観察表……………	34	第10表	SI13出土遺物観察表……………	37
第5表	SI06出土遺物観察表……………	35	第11表	SI14出土遺物観察表……………	37
第6表	SI07出土遺物観察表……………	35	第12表	SI15出土遺物観察表……………	37

# 図版目次

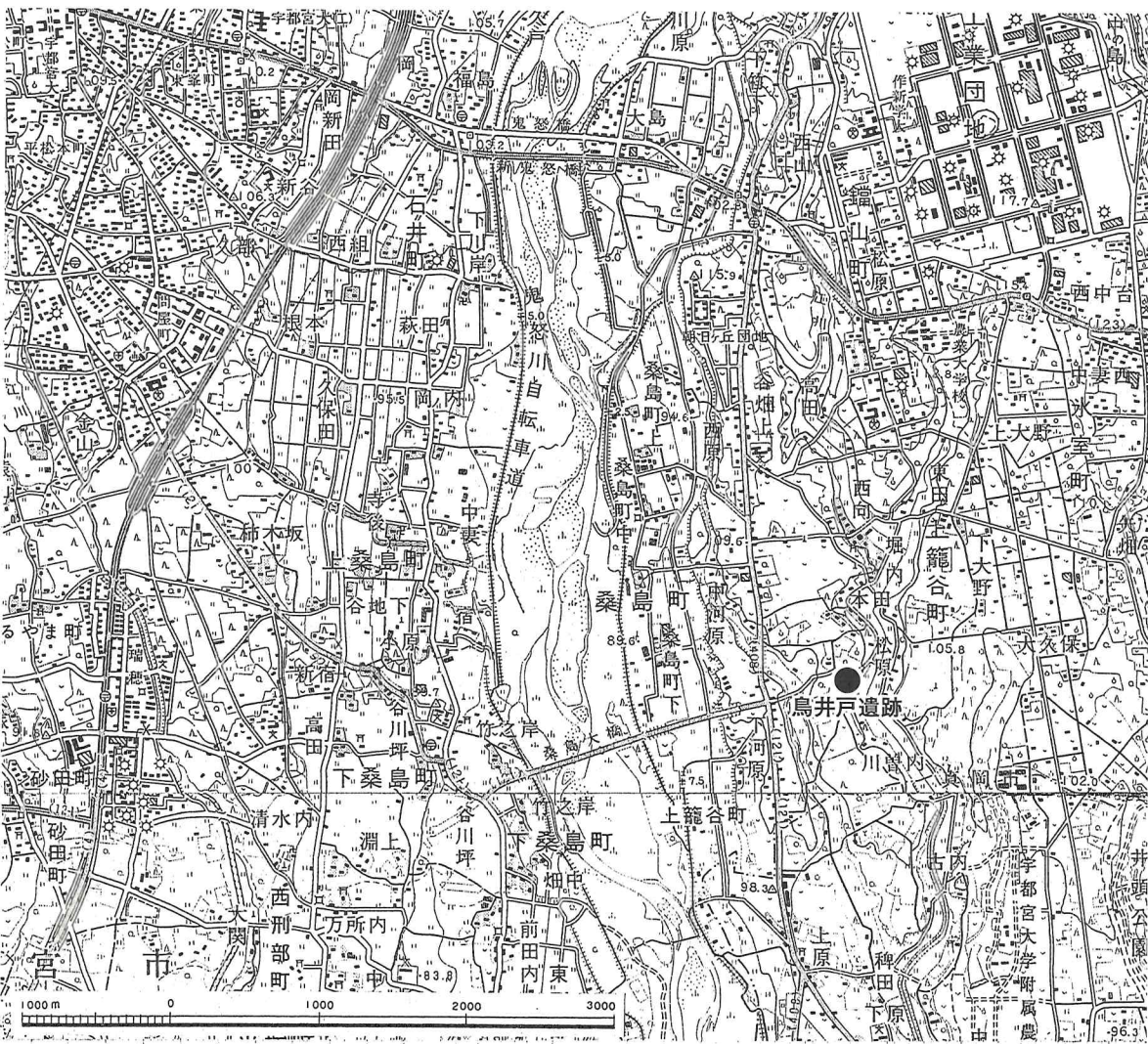
P L 1	調査地区表土除去状況、遺構確認状況	P L 8	SI12土層断面、SI12完掘状況、SI13調査風景、SI13土層断面、SI13土師器甕出土状況、SI13完掘状況、SI13調査区遠景、SI14土層断面
P L 2	調査区全景、調査区全景	P L 9	SI14完掘状況、SI15遺物出土状況、SI15完掘状況、SI15調査区遠景、SD01土層断面、SD01完掘状況、SD01完掘状況、SX01完掘状況
P L 3	SI01土層断面、SI01完掘状況、SI01カマド、SI02土層断面、SI02完掘状況、SI03土層断面、SI03完掘状況、SI03カマド	P L 10	SI03出土遺物、SI04出土遺物、SI05出土遺物
P L 4	SI04土層断面、SI04遺物出土状況、SI04北東コーナー部遺物出土状況、SI04完掘状況、SI04カマド、SI05土層断面、SI05遺物出土状況、SI05完掘状況	P L 11	SI06出土遺物、SI07出土遺物
P L 5	SI05カマド、SI06土層断面、SI06遺物出土状況、SI06土師器甕出土状況、SI06完掘状況、SI06カマド、SI07土層断面、SI07遺物出土状況	P L 12	SI08出土遺物、SI10出土遺物
P L 6	SI07完掘状況、SI07カマド、SI08土層断面、SI08鉄器出土状況、SI08完掘状況、SI08カマド、SI09土層断面、SI09完掘状況	P L 13	SI11出土遺物、SI13出土遺物、SI14出土遺物、SI15出土遺物（1）
P L 7	SI10土層断面、SI10遺物出土状況、SI10須恵器甕出土状況、SI10完掘状況、SI10カマド、SI11土層断面、SI11完掘状況、SI11カマド	P L 14	SI15出土遺物（2）
		P L 15	SI15出土遺物（3）

# I はじめに

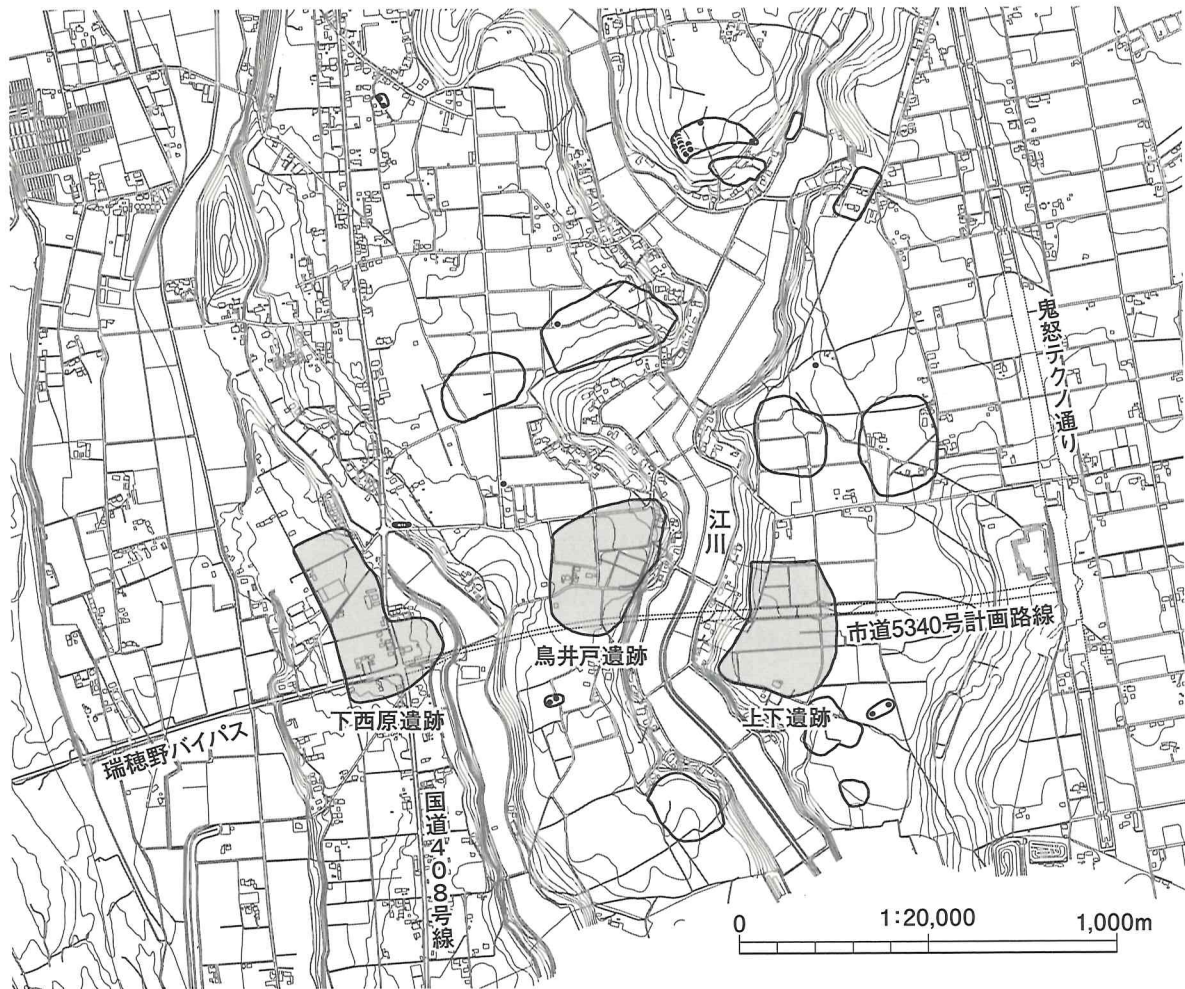
## 1 調査の経過

鳥井戸遺跡は宇都宮市街地の東南東約10km、宇都宮市上籠谷町1912他に所在する埋蔵文化財包蔵地(栃木県登録番号3377)である。今回の調査は、本遺跡内に計画された宇都宮市道5340号線(みずほの通り)の改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。

市道5340号線改良工事は、宇都宮環状道路から東進する瑞穂野バイパス(国道121号線)と鬼怒テクノ通り(国道408バイパス)を結び、市街地の交通渋滞緩和や物流の効率化等を図ろうとするものである。この計画路線上には西から下西原遺跡(栃木県登録番号3376)・鳥井戸遺跡(栃木県登録番号3377)・下上遺跡(栃木県登録番号3378)の3遺跡の所在が確認され、工事により影響を受ける部分については順次記録保存のための発掘調査を実施することとなった。なお、各遺跡の発掘調査は、区間の工事工程に先行し、下西原遺跡が平成19年度、鳥井戸遺跡が平成20年度、下上遺跡が平成22年度にそれぞれ着手している。



第1図 遺跡位置図



第2図 計画路線図と遺跡の位置

鳥井戸遺跡の発掘調査は平成20年度に着手し、平成27年度まで3次に渡って実施しているが、年次ごとの概要は以下の通りである。

**第1次調査** 道路本体部に関わる調査区である。対象面積は約5,750㎡で、東西約180m、南北約30mの範囲である。調査期間は平成20年8月4日～平成21年3月27日の約8ヶ月間。遺構は調査区東寄りの江川沿いに集中する形で、竪穴住居跡（古墳時代後期～平安時代初期）11軒・円形周溝遺構1基・溝1条等が確認されている。

**第2次調査** 北からの進入道路に関わる調査区で、対象面積は約350㎡。南北約80m、幅数mの道路敷範囲である。調査期間は平成22年5月14日～7月27日の約1.5ヶ月間。遺構は調査区南半部から、道路本体部の竪穴住居跡群に連なるものとみられる竪穴住居跡2軒が確認されている。

**第3次調査** 南からの進入道路に関わる調査区で、対象面積は約120㎡。南北約30m、幅数mの道路敷範囲である。調査期間は平成27年2月25日～3月23日の約1ヶ月間。確認された遺構は竪穴住居跡2軒で、道路本体部の竪穴住居跡群に連なるものである。

## 2 遺跡の環境

宇都宮市は関東平野の北端に位置し、北西部には日光・足尾の山地帯から延びる丘陵地が連なり、中南部から東部にかけては関東ローム層の台地が発達する。これらは南流する河川によって区切られ、西



から鹿沼台地・宝木台地・岡本台地・宝積寺台地などと呼ばれている。本遺跡が立地するのはこの内最も東に位置する宝積寺台地上で、鬼怒川の左岸に形成されたものである。さらにこの台地内部は小河川や開析谷による樹枝状の地形の発達が特徴的であるが、本遺跡も鬼怒川の支流である江川によって形成された細長い台地の東縁辺寄りに立地している。ちなみに本遺跡周辺は標高105m前後で、江川低地面とは10数mの比高差がみられる。

次に周辺の遺跡の分布状況であるが、最も多いのは本遺跡近辺の江川沿岸で、右岸・左岸ともに密集度が高い。これに続くのが東の刈沼川沿岸であるが、密集度はそれほど高くはないようである。なお江川と刈沼川の間には台地が幅広く連なるが、中央部にはほとんど遺跡が確認されていないのが特徴的である。以下時代毎に遺跡の状況を概観してみたい。

**旧石器時代** 確認されているのは僅かに宇都宮大学農学部附属農場地内遺跡（38）のみで、ナイフ形石器1点が出土している。

**縄文時代** 前代に比べると遺跡数は大きく増加し、特に江川の沿岸部には分布が多くみられる。本遺跡から南原用水・江川を挟んで東方約1kmに位置する下上遺跡（3）では、平成22年度の発掘調査により、後期の集落跡が発見され、竪穴住居跡40軒、敷石住居跡及び土坑多数が確認されている。

**弥生時代** 遺跡数は3カ所と非常に少なく、時期や内容なども不明な点が多いが、井頭遺跡（39）では昭和48年の発掘調査で後期の集落跡が発見され、竪穴住居跡4軒等が確認されている。

**古墳時代** 奈良・平安時代に次いで遺跡の多い時代である。またその分布をみると、縄文時代が江川沿岸中心であったのに対し、東の刈沼川沿岸にも拡大している様子が確認される。この内古墳そのものがみられるものは大杉神社古墳（8）はじめ7遺跡あるが、いずれも小規模な円墳又は円墳群である。また、本遺跡の西方約500mに位置する下西原遺跡（2）では平成19・29年度の発掘調査により、竪穴住居跡を中心とした集落跡が確認されている。

**奈良・平安時代** 各時代を通じて遺跡数が最も多い。分布は古墳時代とほぼ同様に、多くが継続して発展的に営まれていた様子が窺われる。前述の井頭遺跡（39）では、奈良時代から平安時代前半にかけての集落跡が発見され、多数の竪穴住居跡とともに掘立柱建物跡もまとまって確認されている。

**中・近世** 中世の遺跡は残念ながら確認することはできないが、近世とみられ供養塚・高塚等が一定数散見される。

（参考文献）

栃木県教育委員会 1975 『井頭』

宇都宮市教育委員会 1983 『宇都宮の遺跡—宇都宮市埋蔵文化財等遺跡詳細分布確認調査報告書—』

宇都宮市教育委員会 2017 『宇都宮市遺跡分布地図』



第3図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地（代表地番）	種別	時代	内容その他
1	鳥井戸遺跡	宇都宮市上籠谷町4542-1	集落跡	古墳・奈良平安	2008・2010・2015年発掘
2	下西原遺跡	宇都宮市上籠谷町3183	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	2007・2017年発掘
3	下上遺跡	宇都宮市上籠谷町4598-88	集落跡	縄文・奈良平安	2009・2010年発掘
4	草倉坂下遺跡	宇都宮市鐮山町673	集落跡	縄文	
5	根木内遺跡	宇都宮市鐮山町617	集落跡	奈良平安	1996年確認調査
6	鐮山東原遺跡	宇都宮市鐮山町146-3	集落跡	縄文・奈良平安	
7	白内遺跡	宇都宮市氷室町1026-2	集落跡	縄文・奈良平安	
8	大杉神社古墳	宇都宮市氷室町1671-3	古墳	古墳	円墳1基
9	家内神遺跡	宇都宮市氷室町1667-4	集落跡	弥生・奈良平安	
10	西原庚申塚群	宇都宮市上籠谷町2035	塚	近世	塚2基
11	夕顔内遺跡	宇都宮市上籠谷町1169-5	集落跡	縄文・奈良平安	
12	中極高塚群	宇都宮市上籠谷町1100	塚	近世	
13	東田南遺跡	宇都宮市上籠谷町1050-1	集落跡	奈良平安	
14	東田遺跡	宇都宮市上籠谷町1039	集落跡	縄文	
15	シドミ久保遺跡	宇都宮市上籠谷町723-1	集落跡	縄文・古墳	
16	千波稲荷神社古墳	宇都宮市氷室町2923-5	古墳	古墳	円墳1基
17	おひじり塚古墳	宇都宮市氷室町1599-10	古墳	古墳	円墳1基
18	小松原高塚	宇都宮市氷室町1596-1	塚	近世	塚13基
19	小松原遺跡	宇都宮市氷室町1587-7	集落跡	奈良平安	
20	中台遺跡	宇都宮市氷室町1137	集落跡	古墳	
21	矢畑遺跡	宇都宮市氷室町323-3	集落跡	古墳・奈良平安	
22	上籠谷笹塚古墳	宇都宮市上籠谷町4408	古墳	古墳	円墳1基
23	西向遺跡	宇都宮市上籠谷町4445	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	
24	番匠塚遺跡	宇都宮市上籠谷町4461-1	集落跡	古墳・奈良平安	
25	坂下古墳	宇都宮市上籠谷町705-1	古墳	古墳	円墳1基
26	小泉庚申塚群	宇都宮市上籠谷町1794	塚	近世	
27	上籠谷和尚塚	宇都宮市上籠谷町4480	塚	近世	
28	鷺内ノ上遺跡	宇都宮市上籠谷町4638	集落跡	縄文・奈良平安	
29	上籠谷坂下遺跡	宇都宮市上籠谷町699-1	集落跡	古墳・奈良平安	
30	下原古墳群	宇都宮市上籠谷町1832	古墳群	古墳	円墳2基
31	下山上遺跡	宇都宮市上籠谷町1923-4	集落跡	縄文・奈良平安	
32	対ノ内遺跡	宇都宮市上籠谷町68	集落跡	奈良平安	
33	無宗古墳群	宇都宮市上籠谷町104	古墳群	古墳	円墳2基
34	川曾内遺跡	宇都宮市上籠谷町62	集落跡	弥生	
35	星の宮遺跡	宇都宮市氷室町69-51	集落跡	古墳	
36	北原遺跡	真岡市下籠谷町	集落跡	古墳・奈良平安	
37	塚原遺跡	真岡市下籠谷町	集落跡	縄文	
38	宇大農場地内遺跡	真岡市下籠谷町	集落跡	旧石・縄文・奈良平安	
39	井頭遺跡	真岡市下籠谷町	集落跡	弥生・古墳・奈良平安	1974年発掘調査

## II 遺構と遺物

今回鳥井戸遺跡においては、第1～3次合わせて6,220㎡(東西約180m・南北約140m)が発掘調査の対象となった。地形的には西から東への緩やかな傾斜地(標高差約2m)で、調査前の土地利用は大部分が畑地及び果樹園等であった。発掘調査の結果、竪穴住居跡15軒・円形周溝遺構1基・溝1条が確認されたが、これらは全体に調査区の東寄り、すなわち江川右岸の台地縁辺寄りに分布しており、その範囲は東西約100m・南北約90mであった。

### 1 竪穴住居跡

#### SI01(第5図)

**概要**：北壁にカマドを有する小規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-2°-Eである。ゴボウトレンチャーによる掘削で、全体に破損が著しい。**位置**：今回確認された竪穴住居跡群中、最も西に位置する。**規模**：南北2.92m×東西3.61mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.25m前後である。**覆土**：自然堆積で、全体にローム粒が多く含まれている。**床面**：ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子はみられない。**柱穴・壁溝・貯蔵穴等**：確認されていない。

**カマド**：北壁のほぼ中央に位置するが、煙道部の壁への掘り込みはほとんど確認されない。袖部は粘土を主体に造られたもので、幅90cm・奥行き40cmほどの大きさである。燃烧部は浅い窪みとなるが、使用した様子はあまりみられない。**出土遺物**：なし。

#### SI02(第6図)

**概要**：北側が大きく攪乱を受けた小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-14°-Eである。**位置**：竪穴住居跡群のほぼ中程に位置し、SI09と近接する。**規模**：南北推定3.30m×東西4.03mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.25m前後である。**覆土**：攪乱が多く不明瞭であるが、自然堆積とみられる。**床面**：ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。**柱穴・貯蔵穴・カマド等**：確認されていない。**出土遺物**：なし。

#### SI03(第7図、第22図、第2表)

**概要**：北壁にカマドを有する長方形の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-17°-Eである。**位置**：竪穴住居跡群のほぼ中程。**規模**：南北3.95m×東西5.34mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.30m前後である。**覆土**：自然堆積で、全体にローム粒が多く含まれている。**床面**：ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。**壁溝**：幅15～20cm・深さ7～10cmの壁溝が、北西部を除きほぼ全周している。**柱穴・貯蔵穴等**：確認されていない。**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部は西側が失われているが、灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き70cm・幅120cm(推定)程の大きさである。**出土遺物**：出土遺物は少なく、図示し得たのは須恵器高台付き坏1点と土師器甕1点だけである。2の土師器甕はカマド付近からの出土である。

#### SI04(第8図、第23・24図、第3表)

**概要**：北壁にカマドを有する小規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-18°-Eである。**位置**：竪穴住居跡群のほぼ中心部。**規模**：南北3.30m×東西3.67mの方形で、確認面から床面までの深

さは0.30m前後である。 **覆土**：自然堆積で、下層には炭化材・焼土等が含まれている。 **床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。 **入口ピット**：南壁下で確認されたP1・P2（直径25cm前後・深さ25～30cm）で、距離は中心間でほぼ50cm。2本セットで使用された可能性も高いものと思われる。 **壁溝**：南東コーナー部は攪乱されているが、幅15～20cm・深さ6～10cmの壁溝が全周していたものとみられる。 **柱穴・貯蔵穴等**：確認されていない。 **カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体にして造られたもので、奥行き30cm・幅110cm程の大きさである。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器甕4点、須恵器坏3点である。2・3の須恵器坏は床面直上、その他もほとんどが覆土下層からの出土である。1須恵器坏の体部外面に墨書「□井」がみられる。

#### **S105**（第9図、第25・26図、第4表）

**概要**：北壁にカマドを有する長方形の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-10°-Eである。 **位置**：竪穴住居跡群の東寄りで、台地縁辺部に近い。 **規模**：南北3.62m×東西5.01mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.35m前後である。 **覆土**：自然堆積で、下層には炭化材・焼土等が少量含まれている。 **床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。 **柱穴**：床面からは6つのピット（P1～P6）が確認されているが、いずれも浅く（7～17cm）柱穴としては心もとないものである。

**入口ピット**：南壁下ほぼ中央で確認されたP7で、深さは33cmとしっかりしている。 **壁溝**：幅20～35cm・深さ6～9cmの壁溝が全周している。 **貯蔵穴**：確認されていない。 **カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を105cm程大きく掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行きが20cm程と短く、幅は100cm弱である。燃焼部は20cmほど掘り窪められたもので、底面からは焼土・炭化物等が多く確認されている。 **出土遺物**：出土遺物は比較的多く、図示し得たのは須恵器坏9点、土師器甕3点及び土師器坏底部を転用した紡錘車1点である。

ほとんどは覆土中層から下層にかけての出土である。

#### **S106**（第10図、第27図、第5表）

**概要**：北壁にカマドを有する小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-5°-Eである。 **位置**：竪穴住居跡群中最も東で、台地縁辺まで数十mの位置である。 **規模**：南北3.65m×東西3.77mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.45m前後である。 **覆土**：自然堆積で、全体にローム粒が多量に含まれている。 **床面**：ほぼ平坦で、良く踏み固められているが、中央南壁寄りに南北1.3m・東西1m・深さ25cm程の不整形な掘り込みがみられる。またカマド前面から北東コーナーにかけても、南北約1m・東西約1.5m・深さ20cm程の不整形な掘り込みが確認される。 **柱穴**：床面から確認されたのは中央南寄り不整形掘り込み中の1本（P1）のみで、直径38cm・深さ48cmである。 **壁溝**：幅10～20cm・深さ5～10cmの壁溝で、カマド及び北東コーナーを除き全周している。 **貯蔵穴**：位置的には北東コーナーの掘り込みが考えられるが、不整形でやや浅い。 **カマド**：北壁東寄りに位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部があったとみられる部分には2つの小ピット（直径20～30cm・深さ15～20cm）が約60cm間隔で確認されている。また燃焼部は20cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器坏1点、土師器甕5点、須恵器壺1点、土師器坏の底部を転用した紡錘車及び鉄鏃2点である。3・5の土師器甕及び8紡錘車は床面直上、6土師器甕と7須恵器壺はカマド内からの出土である。

### S107 (第11図、第28図、第6表)

**概要：**北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-24°-Eである。 **位置：**竪穴住居跡群中のほぼ中央部で、北西コーナーは調査区外である。 **規模：**南北5.94m×東西5.76mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.60m前後としっかりしている。 **覆土：**自然堆積で、全体にローム粒が多量に含まれている。 **床面：**ほぼ平坦で、支柱穴内の中央部からカマド前面にかけては良く踏み固められている。 **柱穴：**支柱穴はP1～P4 (直径35～45cm・深さ43～56cm)の4本で、柱間距離は南北2.65m・東西2.95mと東西がやや長い配置である。ほぼ主軸線上で確認されたP5・P6 (直径40cm前後・深さ25cm前後)はやや浅めの柱穴で、東西支柱のほぼ中間に配されたものである。 **壁溝・貯蔵穴等：**確認されていない。 **カマド：**北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を30cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約1m、幅約2mの大きなものである。燃焼部は15cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。 **出土遺物：**図示し得たのは土師器坏2点、須恵器坏5点、土師器甕1点、須恵器甕2点及び土師器の塩壺1点である。いずれも覆土中からの出土であり、土師器坏2の体部外面には墨書「他田□」がみられる。

### S108 (第12図、第29図、第7表)

**概要：**北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、今回確認された中では最大規模である。主軸の方位はN-1°-Eとほぼ真北を取っている。 **位置：**竪穴住居跡群中の西端部に位置し、さらに西側の台地上は無遺構地域となっている。 **規模：**南北5.64m×東西6.42mのやや東西に長い長方形で、確認面から床面までの深さは0.40m前後である。 **覆土：**ゴボウ栽培により激しく攪乱を受けているが、自然堆積である。全体にローム粒が多量に含まれている。 **床面：**ほぼ平坦で、支柱穴内の中央部からカマド前面にかけては良く踏み固められている。 **柱穴：**支柱穴はP1～P4 (直径35～50cm・深さ52～73cm)の4本で、柱間距離は南北3.29m・東西3.48mと東西がやや長い配置である。P5～P7 (直径30～42cm・深さ10～20cm)は位置的に付け替えも考えられたが、柱穴としては深さが足りないものである。 **壁溝：**幅15～20cm・深さ5cm前後の壁溝が、西壁中央部のみに確認されている。 **入口ピット：**南壁中央沿いからは3個の小ピット (P8～P10) が確認されているが、このうちP8は径32cm・深さ41cmのしっかりしたもので、位置的にも入口ピットに相応しいものと言える。 **貯蔵穴：**北西コーナー付近から南北35cm×東西125cmで深さ51cmの溝状の穴が確認されているが、深さや位置から貯蔵穴と考えられる。 **カマド：**北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を50cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約0.6m、幅約1.8mである。燃焼部は10cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。なお燃焼部の前面には2個の小ピット (直径20cm前後・深さ10cm前後) が60cm程の間隔を置いて確認されている。 **出土遺物：**出土遺物はやや少なく、図示し得たのは須恵器蓋1点、土師器甕2点、土師器壺1点及び刀子1点である。2土師器甕・4土師器壺及び5の刀子は床面直上の出土である。

### S109 (第13図)

**概要：**北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-7°-Eである。旧道に伴うとみられるSD01により南西コーナー部が切られている。 **位置：**竪穴住居跡群のほぼ中央部に位置し、S102と近接する。 **規模：**南北3.75m×東西4.89mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.20m前後と浅い。 **覆土：**自然堆積で、埋土は全体にローム粒を多く含みやや柔らかい。 **床面：**ほぼ

平坦で、カマドの前面は良く踏み固められている。**柱穴**：床面内に支柱穴と思われるものは確認されない。北壁沿いカマド西側のP1(直径25cm・深さ7cm)も柱穴としては浅い。**壁溝**：幅15～20cm・深さ4～6cmの壁溝が、南東コーナーを除きほぼ全周している。**貯蔵穴**：南東コーナー付近で確認されたP2・P3はいずれも深さ10cm前後の浅い穴であるが、P3(南北72cm×東西68cm)は形状的・位置的に貯蔵穴の可能性もあると思われる。**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を55cm程掘り込んで造られている。袖部は西側が失われているが、灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き約0.6m、推定幅約1.4mである。燃焼部は15cmほど掘り窪められたもので、底面は赤く焼き込まれている。**出土遺物**：なし。

#### **SI10**(第14図、第30図、第8表)

**概要**：北壁にカマドを有する小型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-14°-Eである。炭化材等の出土状況から焼失家屋とみられる。**位置**：竪穴住居跡群のやや西寄りに位置し、SI11と近接する。**規模**：南北3.37m×東西3.48mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.40～0.50m前後である。**覆土**：自然堆積で、下層から床面にかけては炭化材・焼土等が多量に確認されている。**床面**：南東部が全体に10cm前後窪んでいるが他はほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。**柱穴**：床面からはP1～P4(直径40～55cm・深さ10～20cm)が確認されているが、いずれも支柱穴としては浅い。**壁溝**：幅20cm前後・深さ5cm前後の壁溝が、西側半分だけ巡っている。**入口ピット**：南壁沿い中央のP4(直径45cm・深さ21cm)は、位置的に入口ピットと思われる。**貯蔵穴**：東壁沿いほぼ中央に位置し、南北約70cm×東西約60cm・深さ43cm不整形なつくりであるが、内部から須恵器の甕が出土したことやカマドとの位置関係から貯蔵穴と判断される。**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を約60cm掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体として造られたものと思われるが、残りはあまりよくない。燃焼部は15cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。**出土遺物**：図示し得たのは須恵器坏1点、同高台付坏1点、土師器甕9点、須恵器器台1点である。4・6の土師器甕は床面直上、5土師器甕と12須恵器器台は貯蔵穴内からの出土である。なお12の須恵器器台は貯蔵穴底面に成立の状態出土したものであるが、大甕の口縁部を焼成前に転用したものと思われる。

#### **SI11**(第15図、第31図、第9表)

**概要**：東壁にカマドを有する中型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-86°-Eである。**位置**：竪穴住居跡群のやや西寄りに位置し、SI10と近接する。**規模**：南北3.62m×東西4.35mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.30m前後である。**覆土**：自然堆積で、埋土は全体にローム粒が多くやや柔らかい。**床面**：ゴボウ栽培により攪乱は受けているもののほぼ平坦で、中央部からカマド周辺は良く踏み固められている。**柱穴**：床面から支柱穴と思われるものは確認されていない。**壁溝**：幅20cm前後・深さ3～6cmの壁溝が、カマド南側を除きほぼ全周している。**貯蔵穴・入口ピット等**：確認されていない。**カマド**：東壁のやや南寄りに位置し、煙道は壁を約30cm掘り込んで造られている。本体は褐色粘土を主体として造られたものと思われるが、残りはあまりよくない。北壁から40cm程の位置で2個の凝灰岩切石が約60cm間隔で確認されている。袖部の芯として使われたものと思われる。燃焼部は15cmほど掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。**出土遺物**：出土遺物は少なく、図示し得たのは須恵器坏1点、同高台付坏1点、同短頸壺1点、同壺1点である。1須恵器坏と4の壺は床面直上、2の須恵器高台付坏はカマド内からの出土である。

### S112 (第16図)

**概要:** 北半部が調査区外となる中型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-9°-Wである。 **位置:** 竪穴住居跡群の北西部に位置する。 **規模:** 南北4.5m以上×東西5.46mの方形で、確認面から床面までの深さは0.30m前後である。なお現表土から確認面までの深さは0.50m前後であった。 **覆土:** 埋土には攪乱が多く見られるが、自然堆積である。 **床面:** ほぼ平坦で良く踏み固められている。なお、中央部に入った斜めの細い溝は後世の攪乱である。 **柱穴:** 主柱穴はP1~P3 (直径30~37cm・深さ30~39cm) の3本で、調査区外に北西のもう1本が残されているものとみられる。柱間距離は南北2.95m・東西3.05mとほぼ正方形の配置である。 **壁溝:** 幅15~25cm・深さ5~10cmの壁溝が、ほぼ全周している。 **入口ピット:** 南壁沿い中央部のP4 (直径40cm・深さ25cm) は、位置的に入口ピットと思われる。 **カマド:** 調査区外の北壁に残されているものと思われる。 **出土遺物:** なし。

### S113 (第17図、第32図、第10表)

**概要:** ほぼ西半分が調査区外となる大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-4°-Wである。 **位置:** 確認された竪穴住居跡群中最も北に位置する。 **規模:** 南北6.30m×東西4.40m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.25m前後である。 **覆土:** 埋土には攪乱が多く見られるが、自然堆積である。 **床面:** 後世の溝で切られているが、ほぼ平坦で良く踏み固められている。 **柱穴:** 北東及び南東コーナー付近からはP1~P4の4本が確認されているが、主柱穴とみられるのはP3 (直径37cm・深さ46cm) のみである。対応する北東の主柱穴は後世の溝で失われた可能性が高い。 **壁溝:** 幅15~25cm・深さ3~5cmの壁溝が、ほぼ全周している。 **入口ピット:** 南壁沿いほぼ中央部のP5 (直径35cm・深さ28cm) が入口ピットと思われる。 **カマド:** 北壁の調査区外に残されているものと思われる。 **出土遺物:** 出土遺物は非常に少なく、図示し得たのは土師器甕1点と同甌の把手とみられるもの1点の2点だけである。1の土師器甕は北壁近くの床面に正位の状態で確認されたもので、すぐ近くには粘土塊も出土している。

### S114 (第18図、第33図、第11表)

**概要:** 南西半分が調査区外となる中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-21°-Eである。 **位置:** 竪穴住居跡群中の南寄りに位置する。 **規模:** 南北推定3.90m×東西推定4.80mの隅丸長方形で、確認面から床面までの深さは0.50m前後である。 **覆土:** 自然堆積で、下層には焼土や炭化物が含まれる。 **床面:** 部分的な確認であるが、ほぼ平坦で良く踏み固められている。 **柱穴:** P1~P3 (直径35~60cm・深さ12~18cm) の3本が確認されているが、いずれも浅めで、主柱穴とは考えられない。 **貯蔵穴:** 北西コーナーに直径約1mの円形土坑が確認されているが、深さは17cmとやや浅い。 **カマド:** 調査区外の北壁に残されている可能性が考えられる。 **出土遺物:** 図示し得たのは、土師器坏2点、須恵器坏1点、同高台付坏1点、同鉢1点及び石鏃1点である。ほとんどが覆土下層からの出土である。

### S115 (第19図、第34~37図、第12表)

**概要:** 北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-3°-Eである。南西部の半分以上が調査区外である。 **位置:** 確認された竪穴住居跡群中最も南に位置する。 **規模:** 南北5.65m×東西3.15m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.55m前後である。 **覆土:** 自然堆積で、下層には焼土・炭化物が多く含まれている。 **床面:** ほぼ平坦で良く踏み固められている。 **柱穴:** 北東コーナー付近で確認されたP1は直径60cm・深さ72cmのしっかりした穴で、主柱穴と考えられる。P2はや



や浅く補助的な穴と思われる。 **壁溝**：幅15～25cm・深さ5cm前後の壁溝が、カマド部分を除きほぼ全周しているとみられる。 **カマド**：北壁に位置し、煙道は壁を50～60cm程掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体として造られたものと思われるが、残りはあまりよくない。燃烧部は10cm程掘り窪められたもので、焼土・炭化物等が多く確認されている。 **出土遺物**：半分以上が未発掘であるにも関わらず、出土遺物は今回確認された竪穴住居跡の中で最も多い。図示し得たものは土師器坏14点、同鉢2点、同碗2点、同小型甕4点、同甕12点、同甑2点及び土師製の塩壺1点の計37点にのぼる。遺物が集中していたのは北東コーナー付近とカマド内である。北東コーナー付近では床面直上から覆土下層にかけて大小様々な土師器坏、同碗、同小型甕などがほぼ一括で出土している。また、カマド内からは大量の土師器甕と同鉢・甑などが出土しているが、土師器甕はほとんどが長胴型のものであり、カマドの構築材としても使用されていたものとみられる。

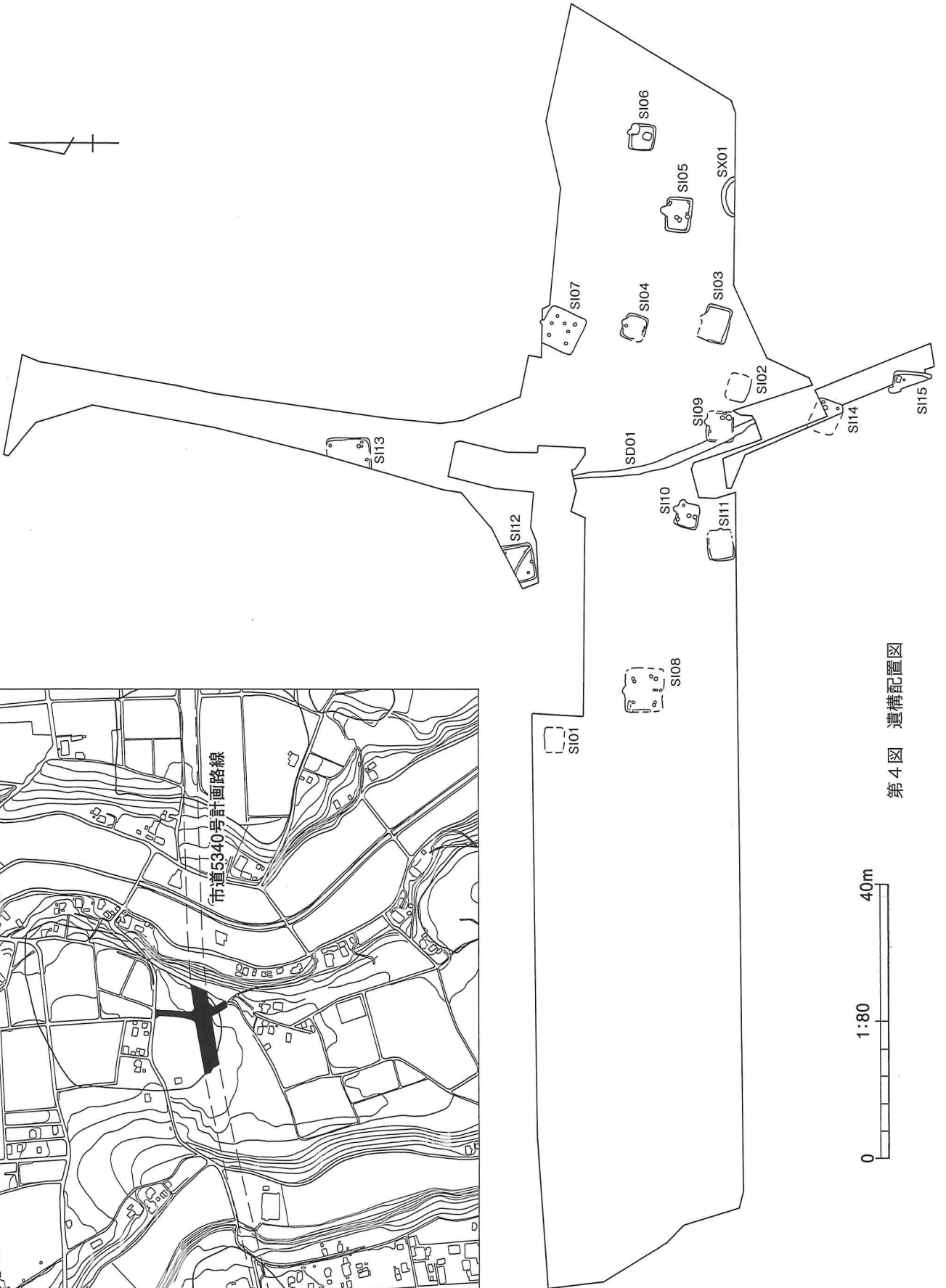
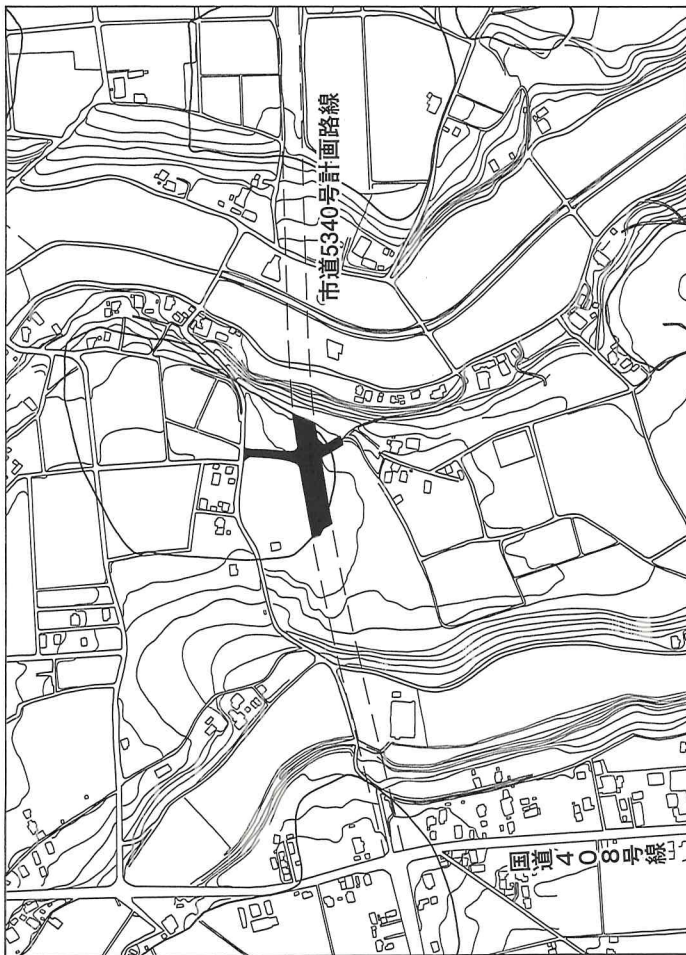
## 2 その他

### 溝・SD01 (第20図)

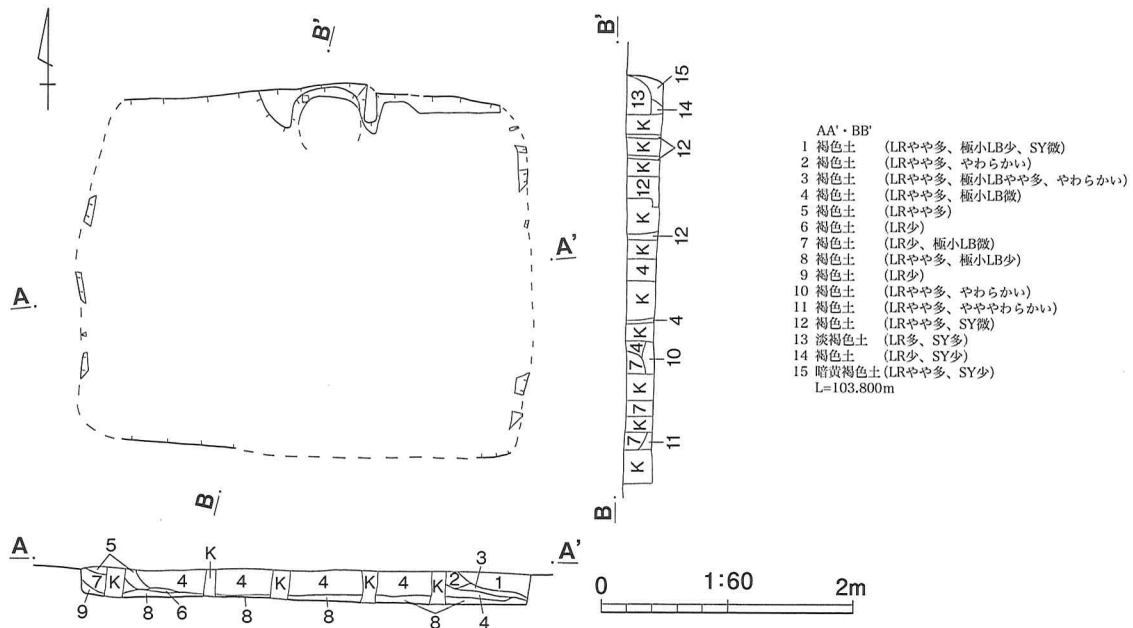
竪穴住居跡群の中央部をほぼ南北に走る溝で、総延長は約28mである。確認面での規模は幅0.5～1.5m・深さ0.3～0.6mで、南部でS109を切っている。埋土は自然堆積で、全体に柔らかい。ほぼ現道に沿って確認されていることから、側溝もしくは地境溝等であったものと思われる。なお出土遺物は確認されていない。

### 円形周溝遺構・SX01 (第21図)

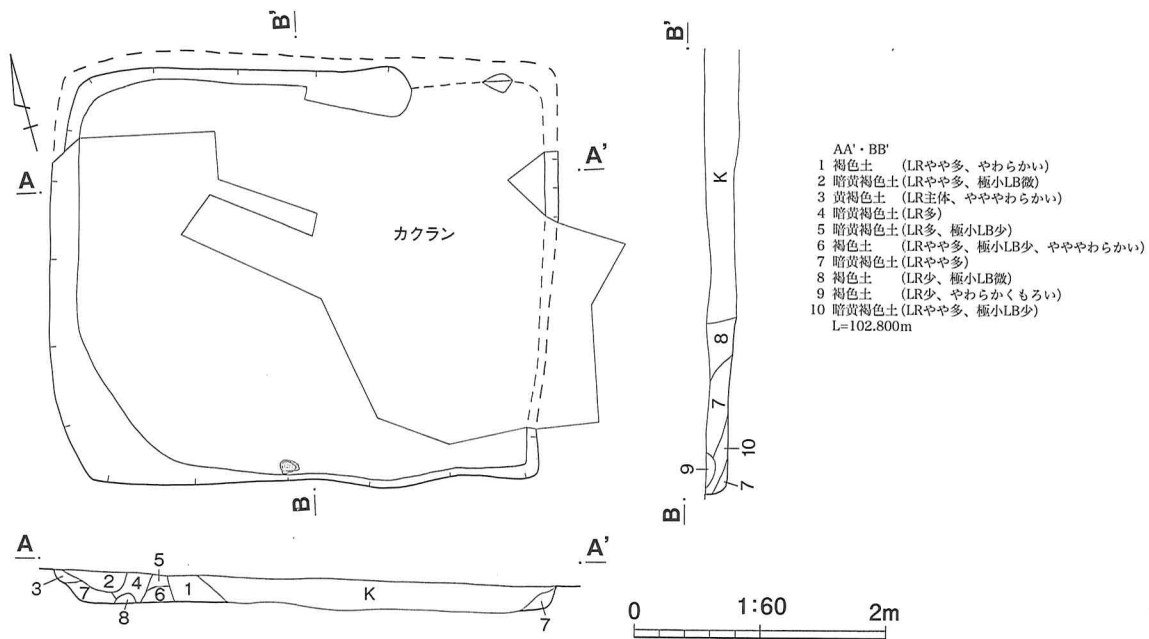
竪穴住居跡群の東側、台地縁辺寄りに位置する。南側半分以上は調査区外であるが、溝が円形に巡る円形周溝遺構とみられる。調査区南限部での径は5.88m(溝外側)であるが、実際の直径はもう少し大きくなるものと考えられる。溝は幅40～60cm・深さ30～35cmの断面箱型で、埋土は自然堆積である。溝の内側ではP1～P3(直径25～32cm・深さ16～24cm)の3つの小穴がほぼ等間隔(2.0～2.1m)で確認されている。やや浅めであるが、柱穴が巡らされていたものとみられる。なお出土遺物は確認されていない。



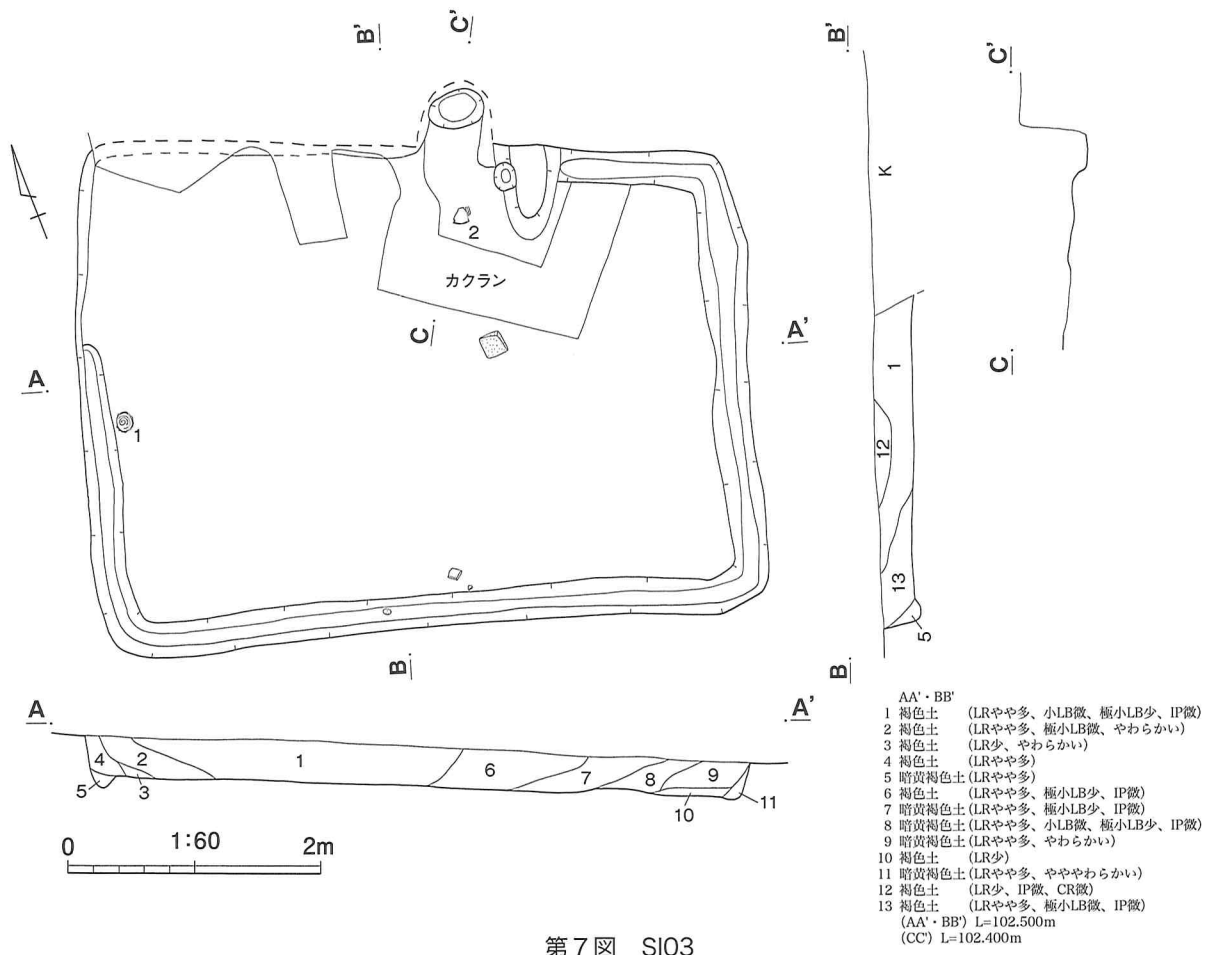
第4図 遺構配置図



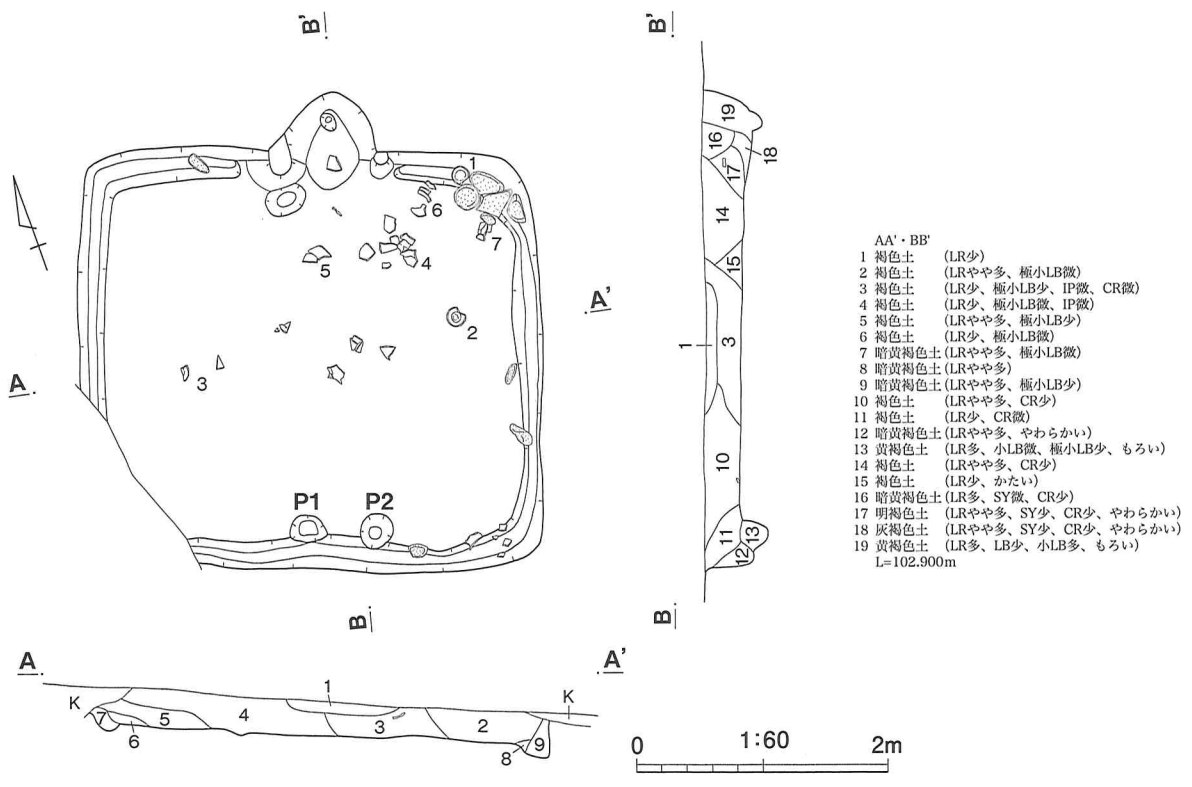
第5図 SI01



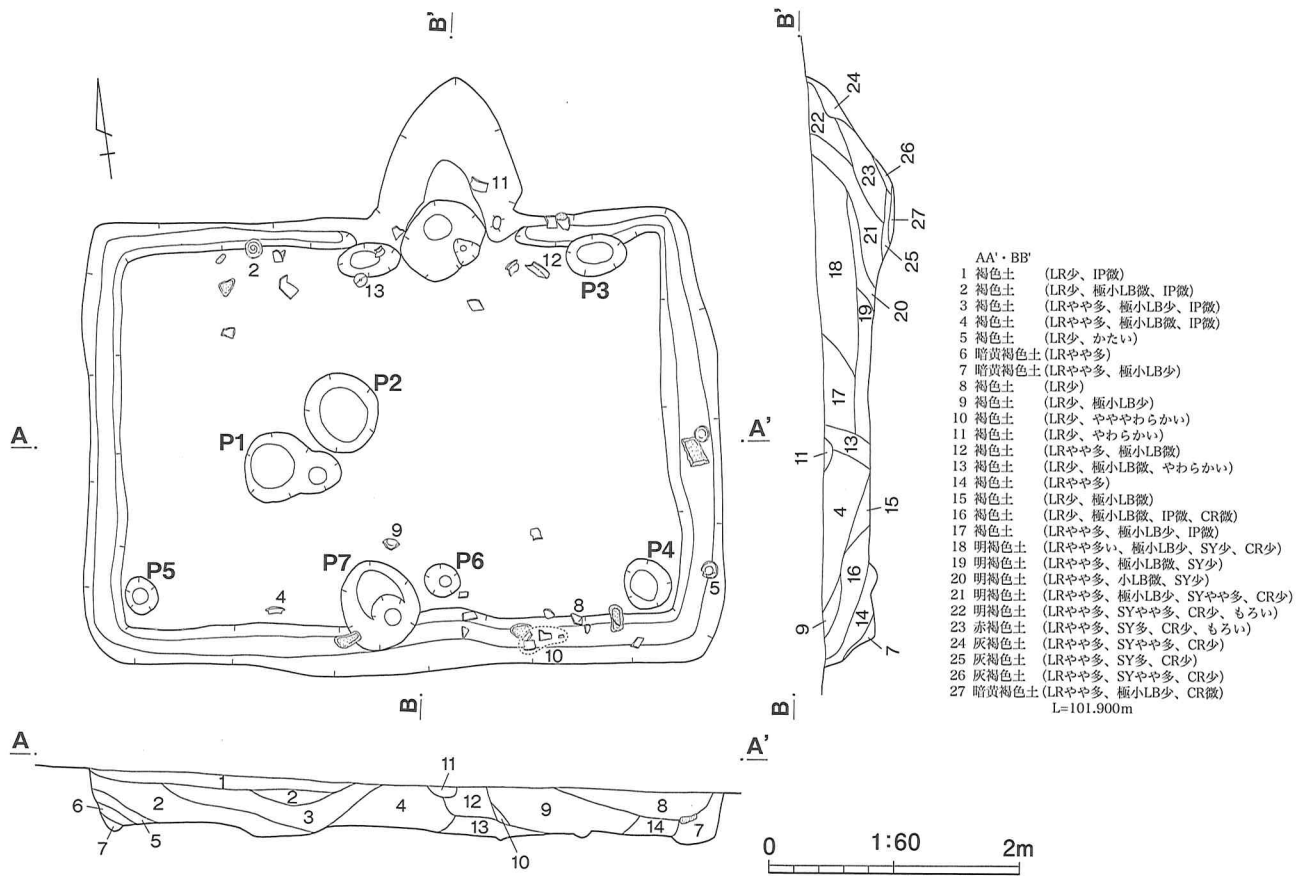
第6図 SI02



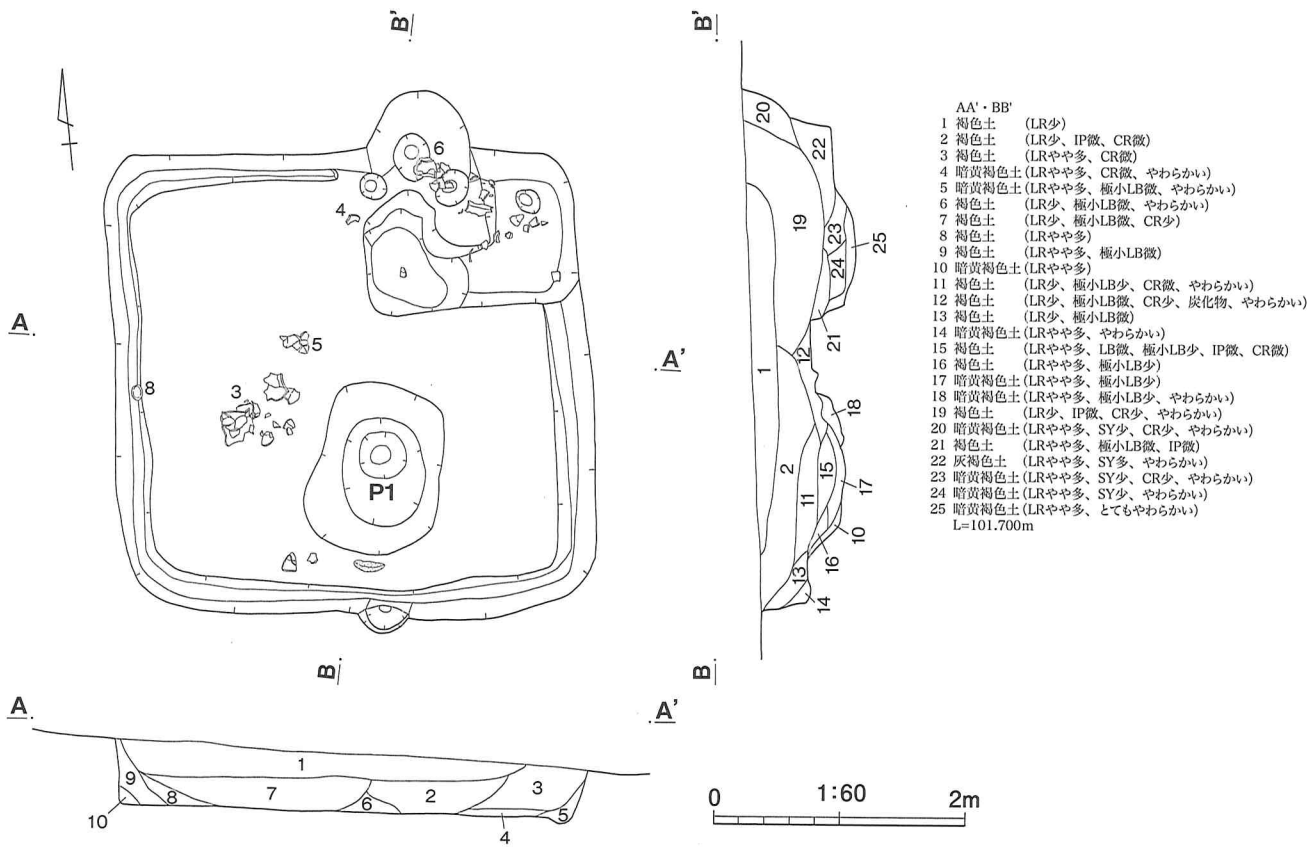
第7図 SIO3



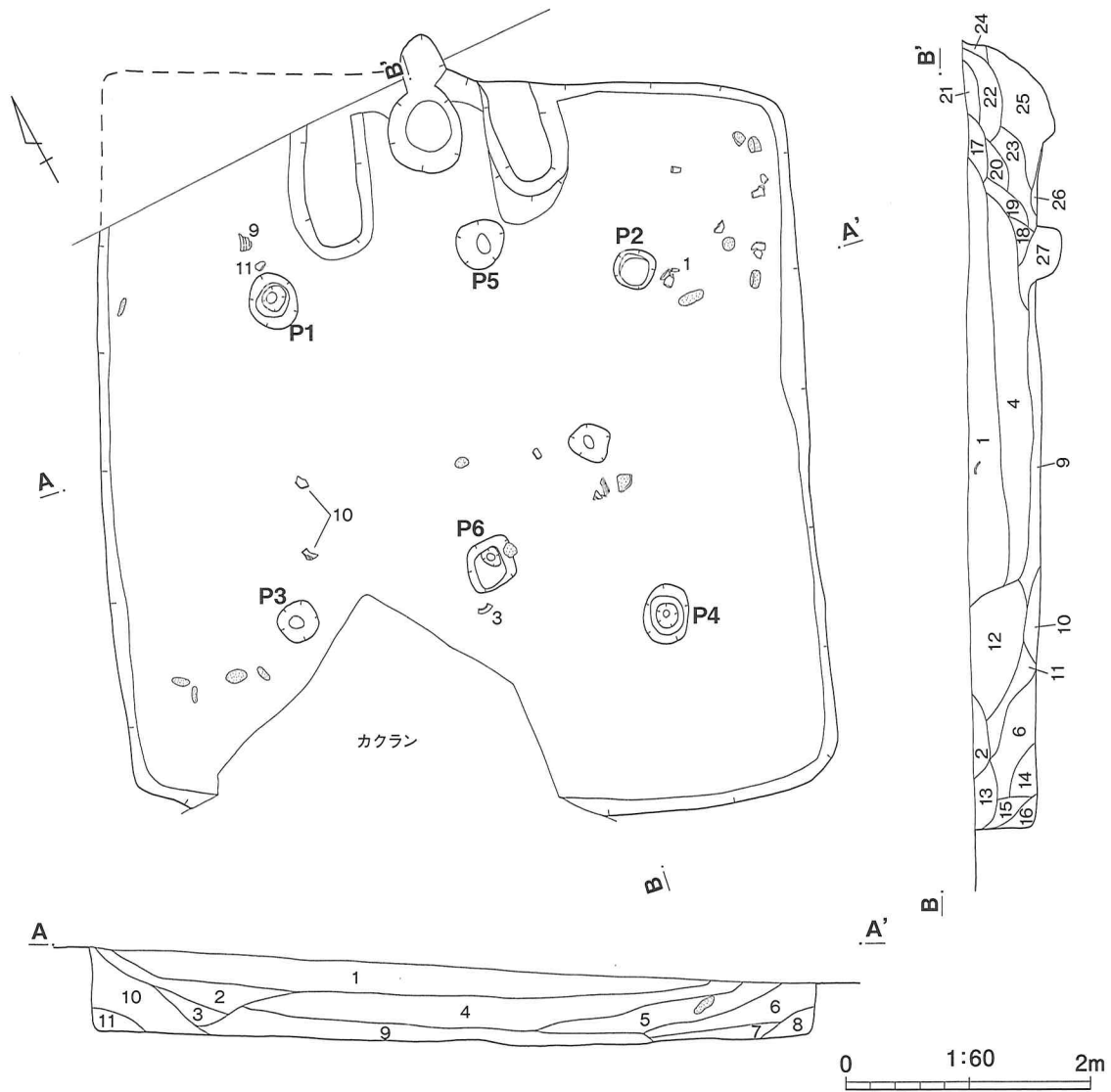
第8図 SIO4



第9図 SI05



第10図 SI06



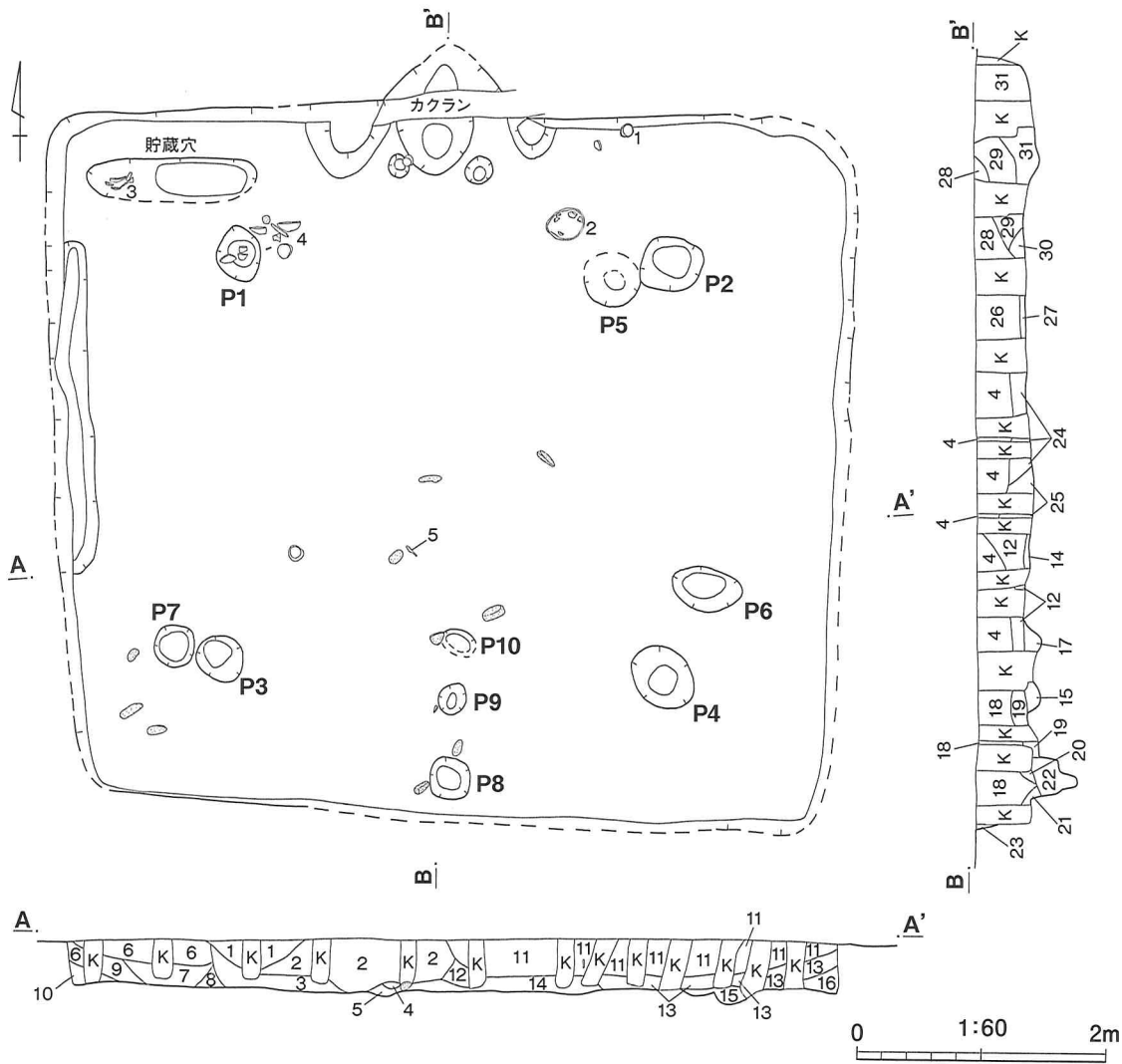
AA'・BB'

- 1 褐色土 (LR少、やわらかい)
- 2 褐色土 (LR少、やややわらかい)
- 3 褐色土 (LRやや多、やわらかい)
- 4 褐色土 (LR少、極小LB微、IP微、CR微)
- 5 褐色土 (LRやや多、CR少)
- 6 暗褐色土 (LRやや多、極小LB微)
- 7 暗褐色土 (LRやや多、やややわらかい)
- 8 暗褐色土 (LRやや多、極小LB少)
- 9 暗褐色土 (LRやや多、極小LB少、IP微)
- 10 暗褐色土 (LRやや多)
- 11 褐色土 (LRやや多)
- 12 褐色土 (LR少、CR微)
- 13 暗褐色土 (LRやや多、やわらかい)
- 14 暗褐色土 (LRやや多、極小LB少)

- 15 褐色土 (LR少)
- 16 暗黄褐色土 (LRやや多)
- 17 明褐色土 (LR少、SY微、CR少)
- 18 褐色土 (LR少、CR少)
- 19 明褐色土 (LRやや多、SY少、CR少)
- 20 明褐色土 (LRやや多、SY微、CR少)
- 21 明褐色土 (LRやや多、SY微、CR微)
- 22 赤褐色土 (LRやや多、極小LB微、SYやや多、CR少)
- 23 赤褐色土 (LRやや多、SYやや多、CR少)
- 24 暗黄褐色土 (LRやや多、SY少、やわらかい)
- 25 赤褐色土 (LRやや多、SY多、CR少、もろい)
- 26 暗黄褐色土 (LRやや多、SY少)
- 27 褐色土 (LRやや多、極小LB微、やわらかい)

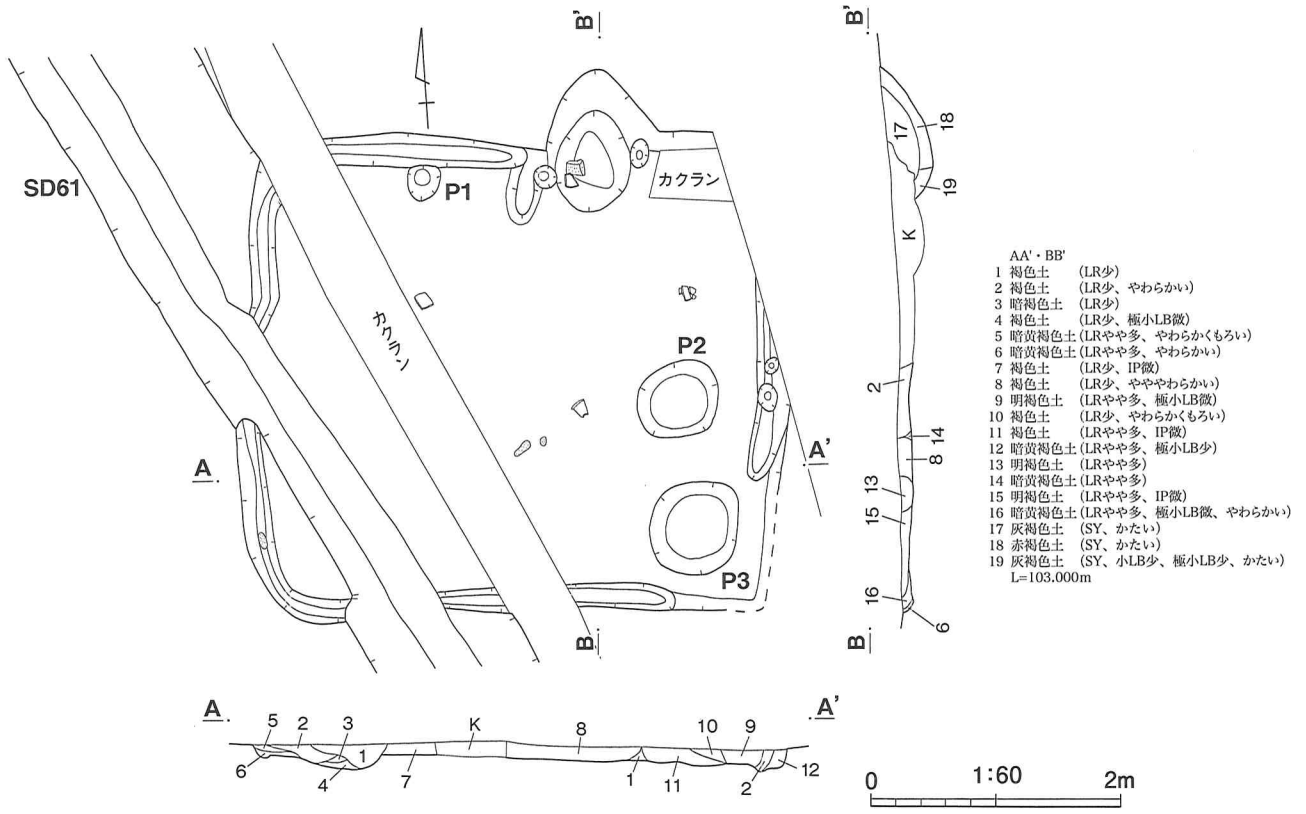
L=103.200m

第11図 SI07

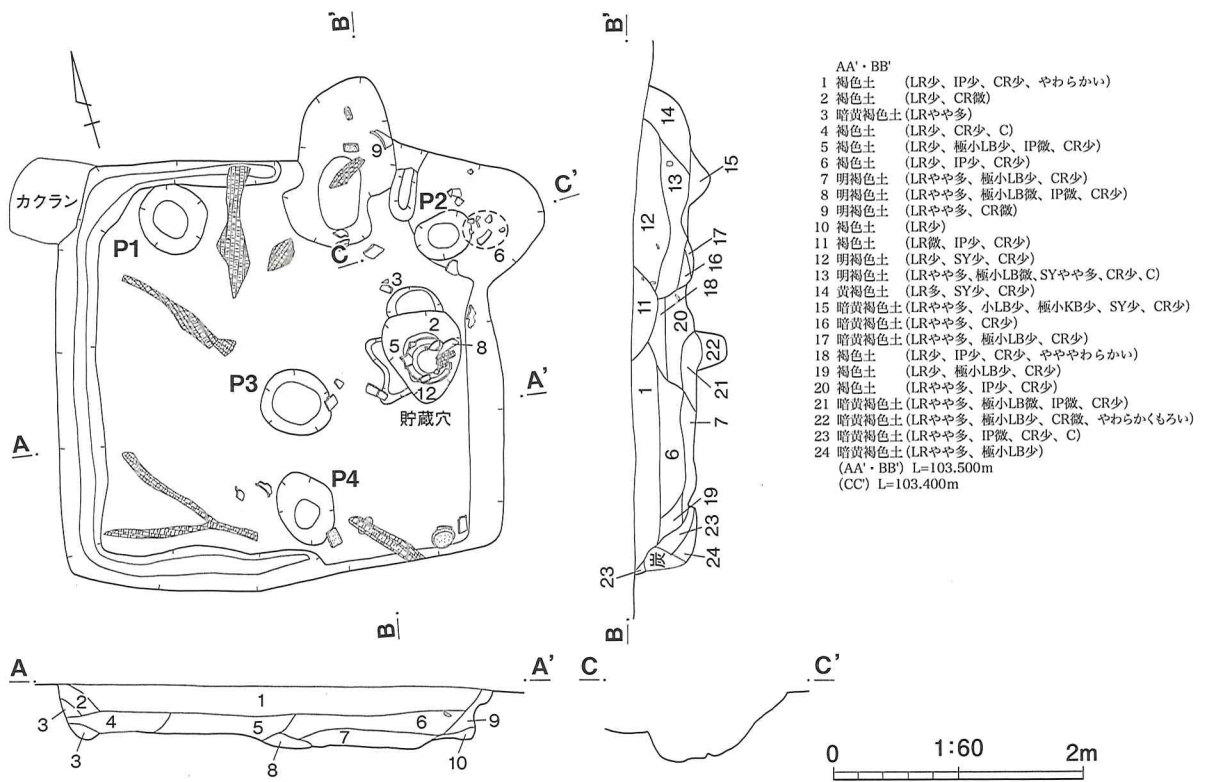


- AA'・BB'
- |                             |                                 |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 褐色土 (LR少、IP微、もろい)         | 17 暗黄褐色土 (LRやや多、やややわらかい)        |
| 2 褐色土 (LR少、極小LB微)           | 18 褐色土 (LR少、極小LB微、IP微、やややわらかい)  |
| 3 明褐色土 (LRやや多、極小LB少、IP微)    | 19 褐色土 (LRやや多、やわらかい)            |
| 4 褐色土 (LR少、IP微)             | 20 暗黄褐色土 (LRやや多、IP微)            |
| 5 暗黄褐色土 (LRやや多、極小LB少)       | 21 暗黄褐色土 (LRやや多、IP微、やわらかい)      |
| 6 褐色土 (LR少、IP微、やわらかい)       | 22 暗黄褐色土 (LRやや多、極小LB微、とてもやわらかい) |
| 7 明褐色土 (LR少、IP微)            | 23 暗黄褐色土 (LRやや多、やわらかい)          |
| 8 暗黄褐色土 (LRやや多、極小LB微、やわらかい) | 24 褐色土 (LRやや多、IP微)              |
| 9 明褐色土 (LRやや多、CR微、やわらかい)    | 25 明褐色土 (LRやや多)                 |
| 10 暗黄褐色土 (LRやや多、やややわらかい)    | 26 褐色土 (LR少、やわらかい)              |
| 11 褐色土 (LR少、IP微、やややわらかい)    | 27 暗黄褐色土 (LRやや多、極小LB少)          |
| 12 褐色土 (LR少)                | 28 明褐色土 (LR少、SY少、CR微)           |
| 13 褐色土 (LR少、極小LB微、IP微)      | 29 明褐色土 (LRやや多、SYやや多、CR少)       |
| 14 暗黄褐色土 (LRやや多、IP微)        | 30 暗黄褐色土 (LRやや多、SY少、CR微)        |
| 15 暗黄褐色土 (LRやや多)            | 31 赤褐色土 (LRやや多、極小LB少、SY多、CR多)   |
| 16 褐色土 (LR少)                |                                 |
- L=103.700m

第12図 S108

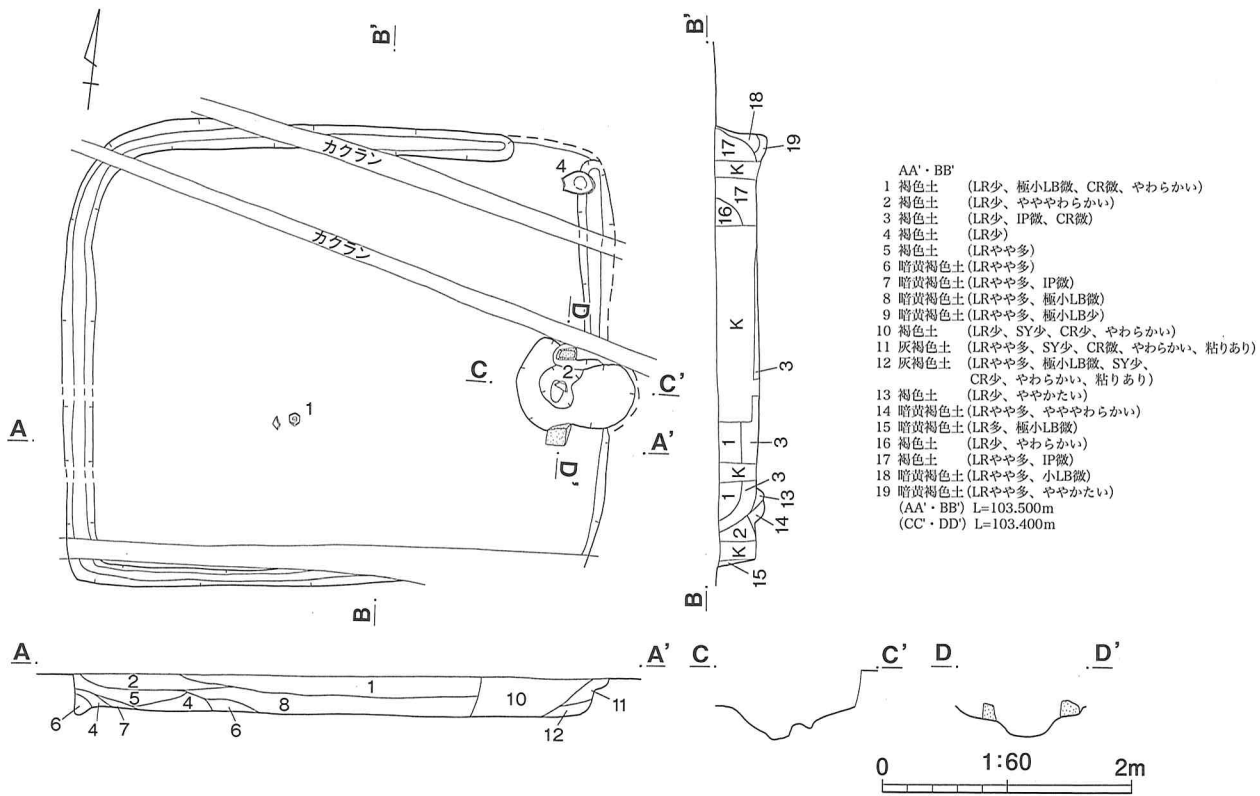


第13図 SI09

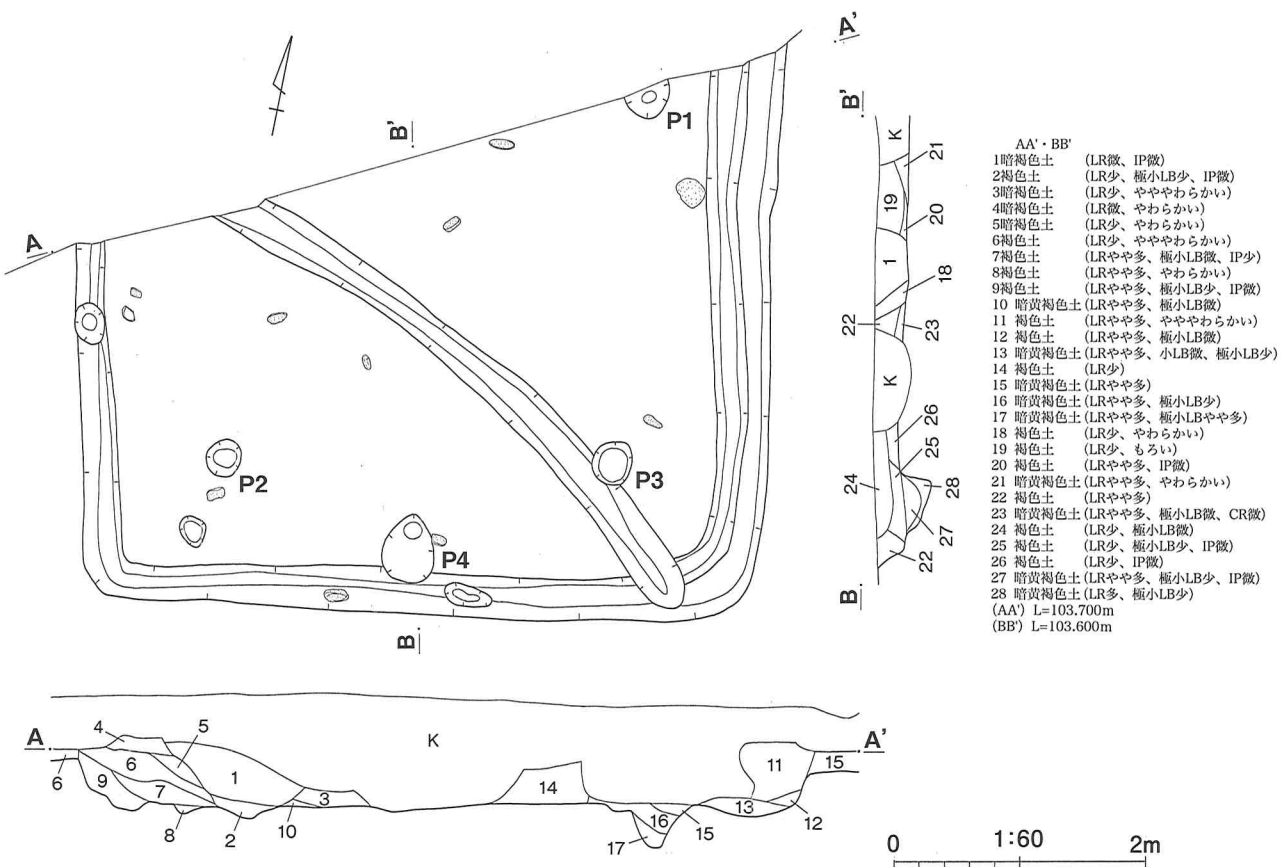


第14図 SI10

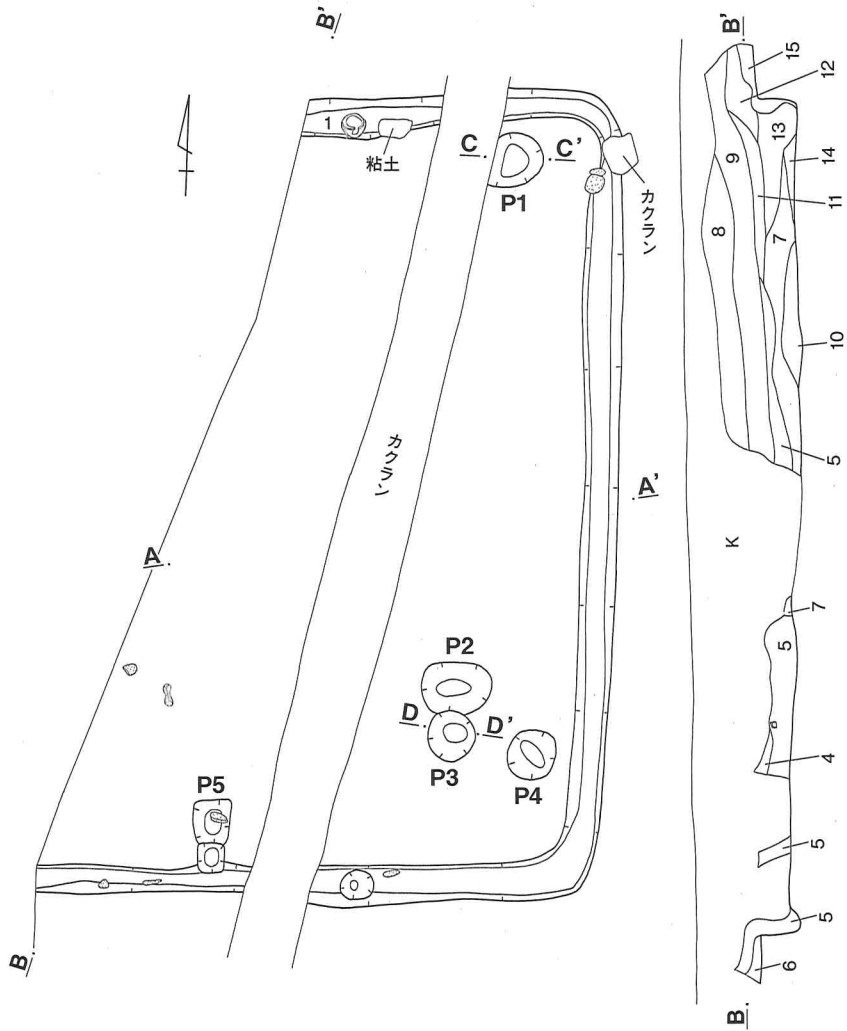




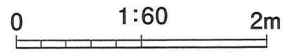
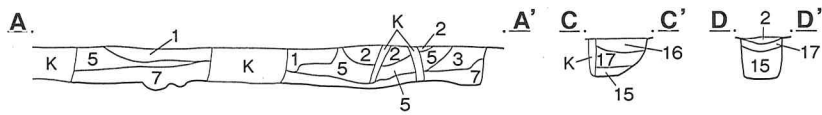
第15図 SI11



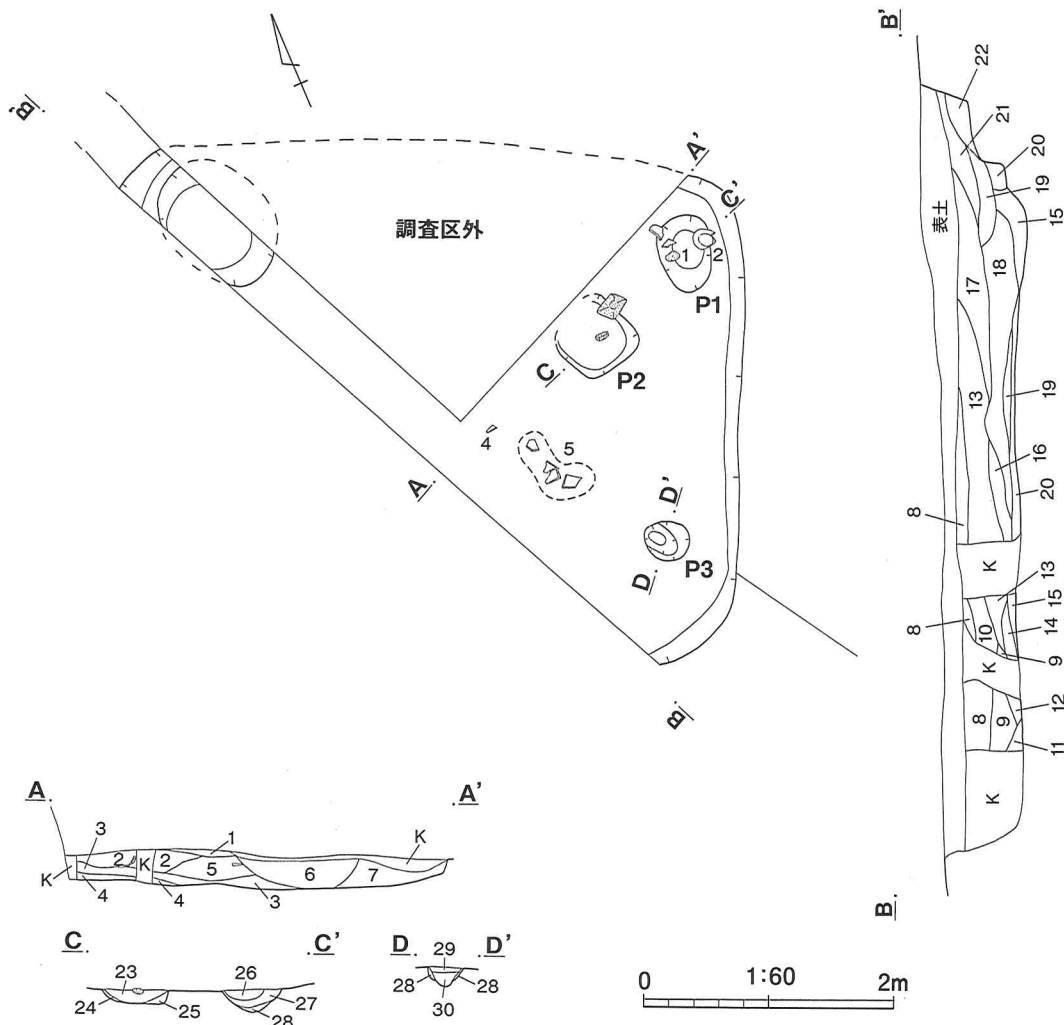
第16図 SI12



- AA'・BB'  
 1 黒褐色土 (極小LB微、IP微、やわらかい)  
 2 暗褐色土 (極小LB少、やわらかい)  
 3 褐色土 (極小LB多、IP少、しまりあり)  
 4 黒褐色土 (極小LBやや多、IP微、しまりあり)  
 5 暗黄褐色土 (極小LB多、IP微、しまりあり)  
 6 黄褐色土 (ローム主体、やわらかい)  
 7 暗黄褐色土 (極小LBやや多、IP少、しまりあり)  
 8 暗褐色土 (極小LB微、やわらかい)  
 9 黒褐色土 (極小LB少、IP微、しまりあり)  
 10 暗黄褐色土 (大LB、極小LB多、しまりあり)  
 11 暗褐色土 (極小LBやや多、IP微、SY微、しまりあり)  
 12 褐色土 (極小LB多、SY、CR、しまり強)  
 13 暗褐色土 (極小LB多、SYやや多、しまりあり)  
 14 暗黄褐色土 (ローム主体、SY)  
 15 黄褐色土 (ローム主体、しまりあり)  
 16 暗褐色土 (LR多、やわらかい)  
 17 暗黄褐色土 (極小LB多、やわらかい)  
 (AA'・BB') L=103.500m  
 (CC'・DD') L=103.400m

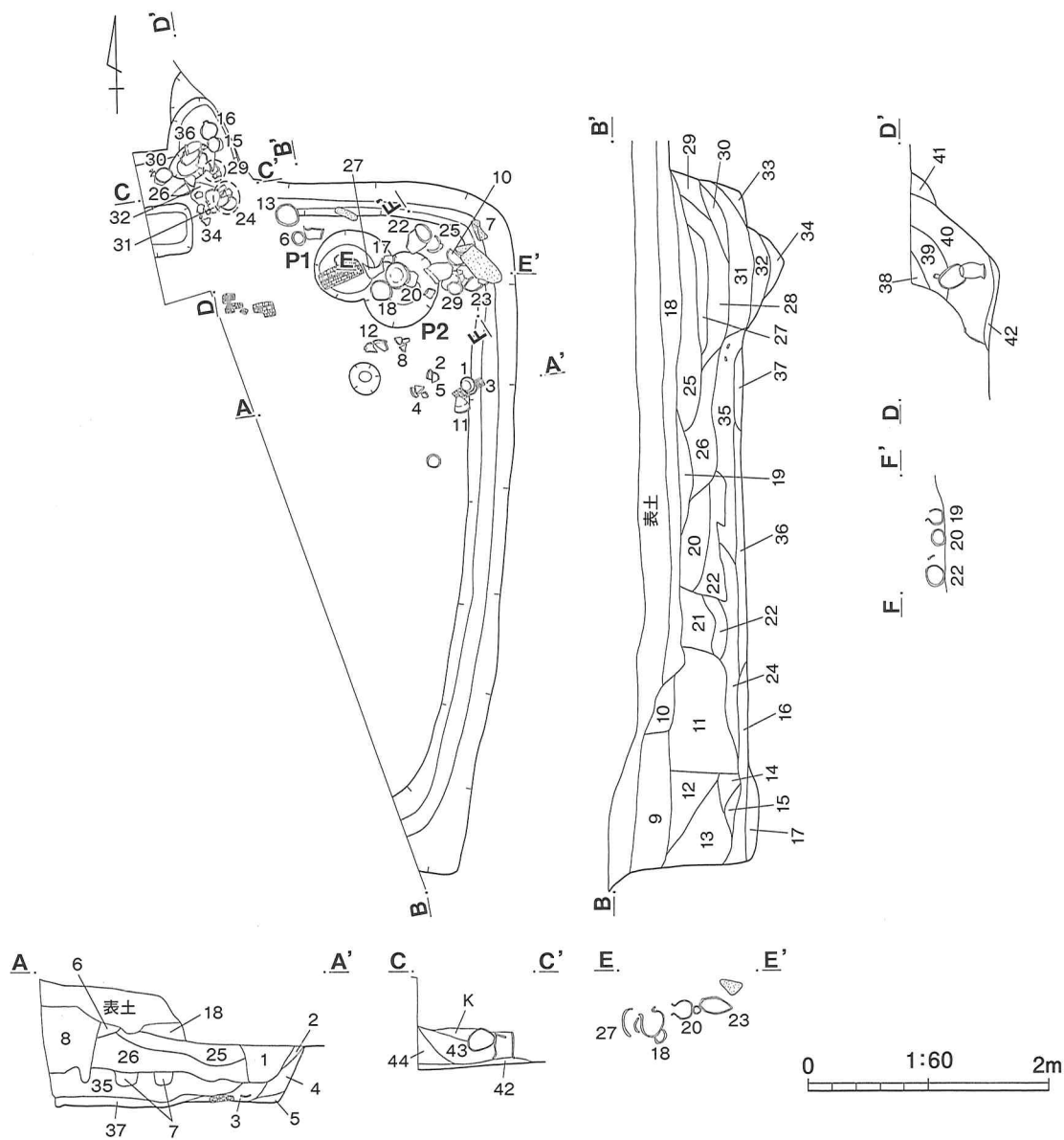


第17図 SI13



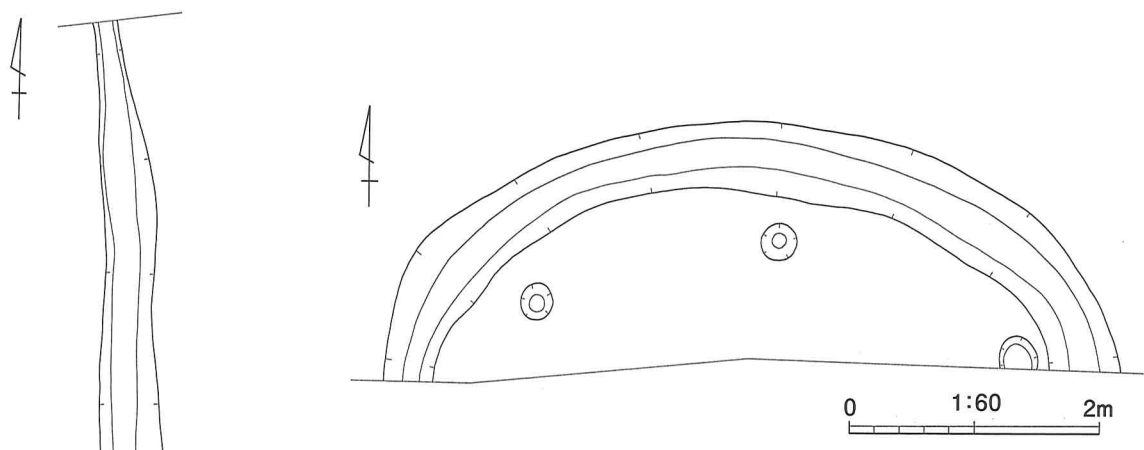
- |         |                                     |                                  |
|---------|-------------------------------------|----------------------------------|
| AA'・BB' | 1 暗褐色土 (LR少、極小LB少)                  | 18 暗褐色土 (LRやや多、極小LBやや多、小LB微、C)   |
|         | 2 暗褐色土 (LR少、極小LBやや多、SY微)            | 19 暗黄褐色土 (LR多、極小LB多、小LB少)        |
|         | 3 褐色土 (LRやや多、極小LB多、SY微)             | 20 黄褐色土 (ローム主体、かたい)              |
|         | 4 暗黄褐色土 (LR多、極小LBやや多)               | 21 暗褐色土 (LRやや多、極小LB少)            |
|         | 5 褐色土 (LRやや多、極小LB多、SY少)             | 22 褐色土 (LRやや多、極小LB少)             |
|         | 6 褐色土 (LRやや多、極小LB多、SYやや多)           | 23 暗黄褐色土 (LR多、SY、やややわらかい)        |
|         | 7 褐色土 (LRやや多、極小LB多、小LB少、SYやや多)      | 24 黄褐色土 (LR多、かたくしまる)             |
|         | 8 暗褐色土 (LR少、極小LB微、かたい)              | 25 明褐色土 (ローム主体、かたくしまる)           |
|         | 9 褐色土 (LRやや多、極小LB少、SY微、かたい)         | 26 暗褐色土 (LRやや多、極小LR少、SY、やややわらかい) |
|         | 10 暗褐色土 (LR少、極小LBやや多、かたい)           | 27 暗黄褐色土 (LR多、極小LB微、やややわらかい)     |
|         | 11 暗黄褐色土 (LR多)                      | 28 黄褐色土 (LR多)                    |
|         | 12 黄褐色土 (LR多、極小LB多)                 | 29 暗褐色土 (LR少、やややわらかい)            |
|         | 13 黒褐色土 (LR少、極小LB少、IP微)             | 30 暗黄褐色土 (LR多、小LB少)              |
|         | 14 暗褐色土 (LRやや多、極小LBやや多、SY微、かたい)     |                                  |
|         | 15 暗黄褐色土 (LR多、極小LB多、かたい)            | (AA) L=103.100m                  |
|         | 16 暗褐色土 (LRやや多、極小LBやや多、CR微、SY微、かたい) | (BB) L=103.400m                  |
|         | 17 暗褐色土 (LRやや多、極小LB少、かたい)           | (CC) L=102.700m                  |
|         |                                     | (DD) L=102.500m                  |

第18図 SI14

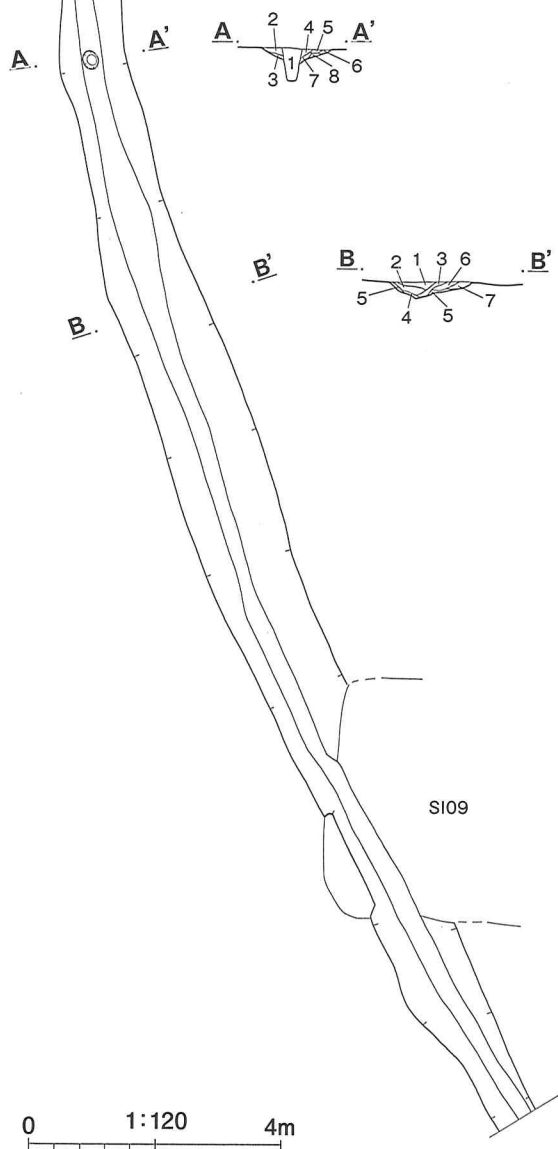


- AA'・BB'
- |    |                              |    |                                |
|----|------------------------------|----|--------------------------------|
| 1  | 暗黄褐色土 (LR少、極小LB少、かたい)        | 25 | 暗褐色土 (LR少、極小LB少、IP微、かたい)       |
| 2  | 褐色土 (LRやや多、極小LB少、かたい)        | 26 | 暗褐色土 (LR多、極小LB少、かたい)           |
| 3  | 暗褐色土 (LRやや多、小LB少、C、かたい)      | 27 | 暗褐色土 (LR少、極小LBやや多、かたい)         |
| 4  | 暗黄褐色土 (LR多、小LB少、SY微、かたい)     | 28 | 暗褐色土 (LRやや多、極小LB多、かたい)         |
| 5  | 暗黄褐色土 (LR多、小LBやや多、SY、かたい)    | 29 | 暗褐色土 (LRやや多、極小LB多、小LB微、かたい)    |
| 6  | 暗褐色土 (LR少、極小LB少、やややわらかい)     | 30 | 暗褐色土 (LRやや多、極小LBやや多、かたい)       |
| 7  | 暗褐色土 (LR少、極小LB少)             | 31 | 暗褐色土 (LRやや多、極小LB少、IP微、CR微、かたい) |
| 8  | 褐色土 (LR少、極小LB少)              | 32 | 暗褐色土 (LRやや多、極小LBやや多、IP微)       |
| 9  | 黒色土 (LR微)                    | 33 | 暗黄褐色土 (LR多、極小LBやや多、かたい)        |
| 10 | 黒褐色土 (LR微、極小LB微、やわらかい)       | 34 | 暗黄褐色土 (LR多、小LB多)               |
| 11 | 黒色土 (LR微、極小LB微、やわらかくもろい)     | 35 | 暗黄褐色土 (LR少、極小LBやや多、IP微、CR)     |
| 12 | 黒褐色土 (LR微、極小LB微)             | 36 | 暗黄褐色土 (LR多、極小LBやや多、かたい)        |
| 13 | 黒色土 (LR微、やわらかい)              | 37 | 暗黄褐色土 (LRやや多、極小LBやや多)          |
| 14 | 暗褐色土 (LR少)                   | 38 | 黒褐色土 (LRやや多、極小LB多、SY少、やわらかい)   |
| 15 | 暗褐色土 (LR少、極小LB少、CR少、かたい)     | 39 | 暗黄褐色土 (LR多、SY少)                |
| 16 | 暗褐色土 (LRやや多、極小LB少、CR、SY、かたい) | 40 | 赤褐色土 (LR多、SY多)                 |
| 17 | 暗黄褐色土 (LR多、小LBやや多、かたい)       | 41 | 褐色土 (LR少)                      |
| 18 | 暗褐色土 (LR少、極小LBやや多、IP微、かたい)   | 42 | 暗黄褐色土 (LB多)                    |
| 19 | 暗褐色土 (LR少、極小LB少、かたい)         | 43 | 暗黄褐色土 (LR多、SY、C)               |
| 20 | 黒褐色土 (LR少、極小LB微、やわらかい)       | 44 | 暗褐色土 (LRやや多)                   |
| 21 | 黒褐色土 (LR微、やわらかくもろい)          |    | (AA'・BB') L=102.800m           |
| 22 | 黒色土 (LR微、やわらかくもろい)           |    | (CC'・DD') L=102.500m           |
| 23 | 暗褐色土 (LR微、極小LB微、やわらかい)       |    | (EE'・FF') L=102.100m           |
| 24 | 暗褐色土 (LR少、極小LBやや多、IP微、CR)    |    |                                |

第19図 SI15



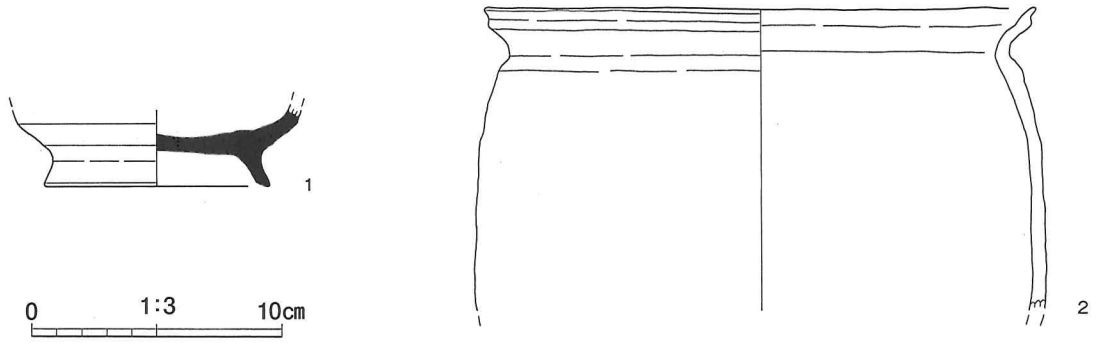
第21図 SX01



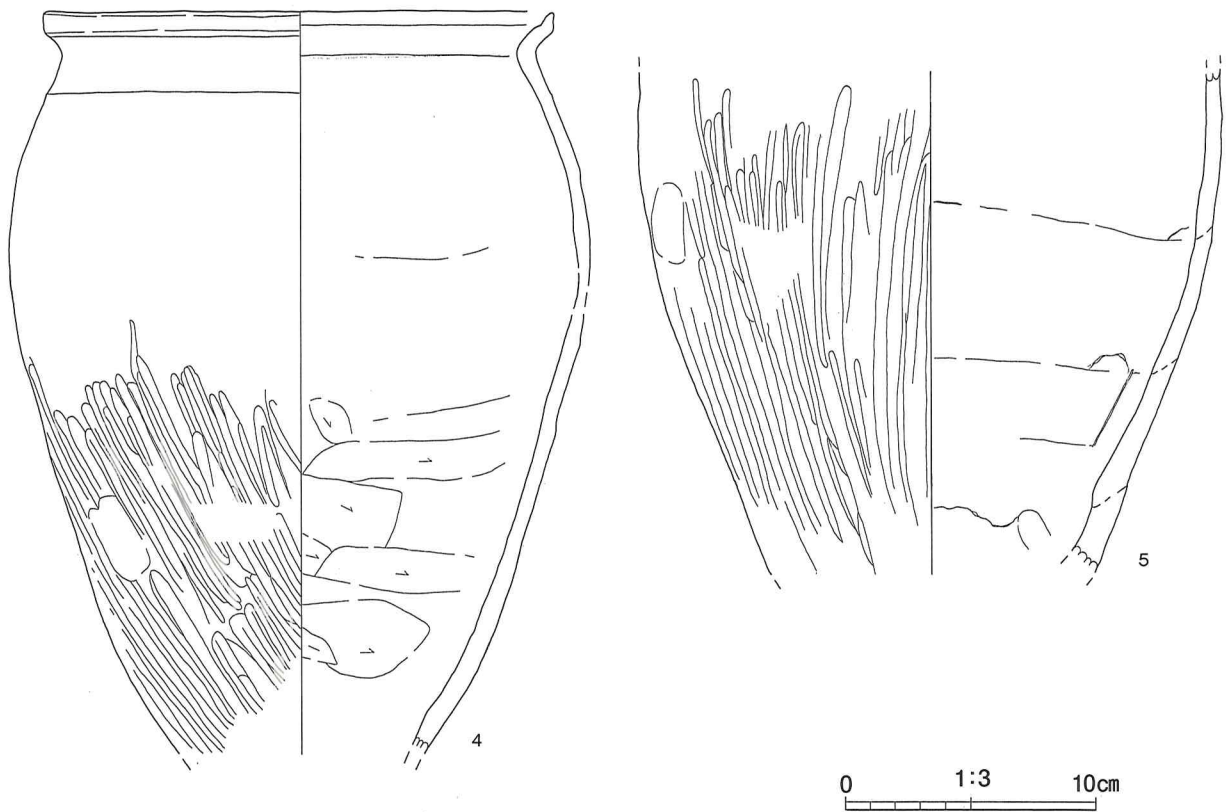
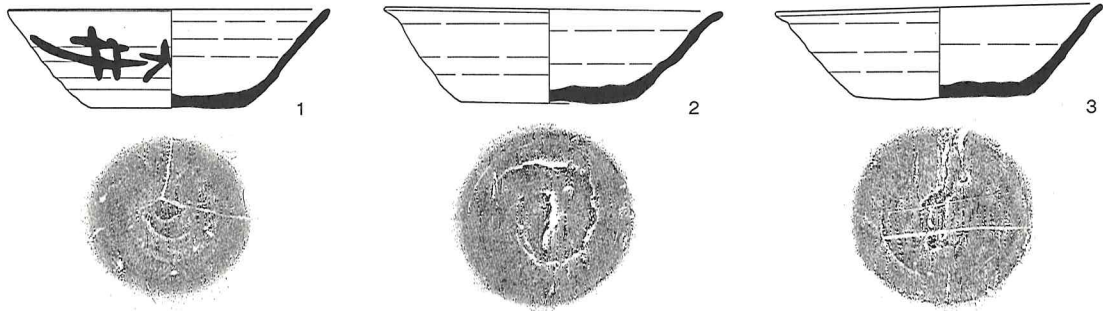
- AA'
- 1 褐色土 (LR少、極小LB微、やわらかくもろい)
  - 2 褐色土 (LR少)
  - 3 暗黄褐色土 (LRやや多、極小LB少)
  - 4 褐色土 (LR少)
  - 5 褐色土 (LRやや多)
  - 6 褐色土 (LRやや多、やわらかい)
  - 7 褐色土 (LR少、やわらかい)
  - 8 暗黄褐色土 (LRやや多)
- L=103.400m

- BB'
- 1 褐色土 (LR少、IP微)
  - 2 褐色土 (LR少、やわらかい)
  - 3 褐色土 (LRやや多、やわらかい)
  - 4 暗黄褐色土 (LRやや多、極小LB微、やわらかい)
  - 5 暗黄褐色土 (LRやや多)
  - 6 褐色土 (LR少)
  - 7 褐色土 (LRやや多)
- L=103.400m

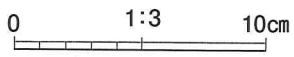
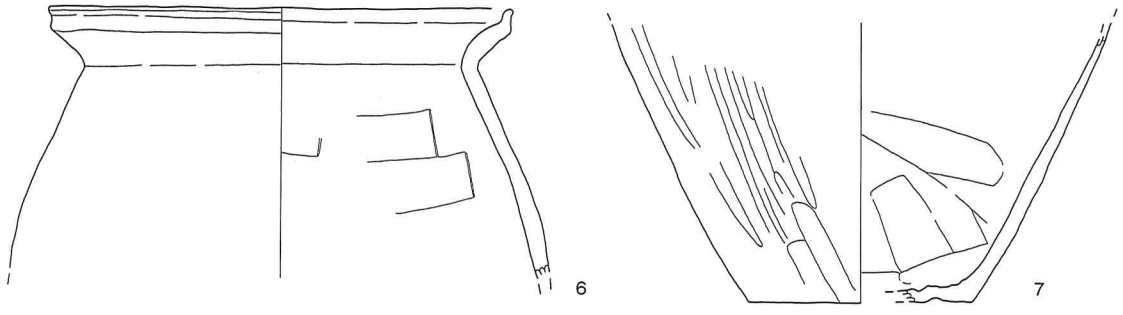
第20図 SD01



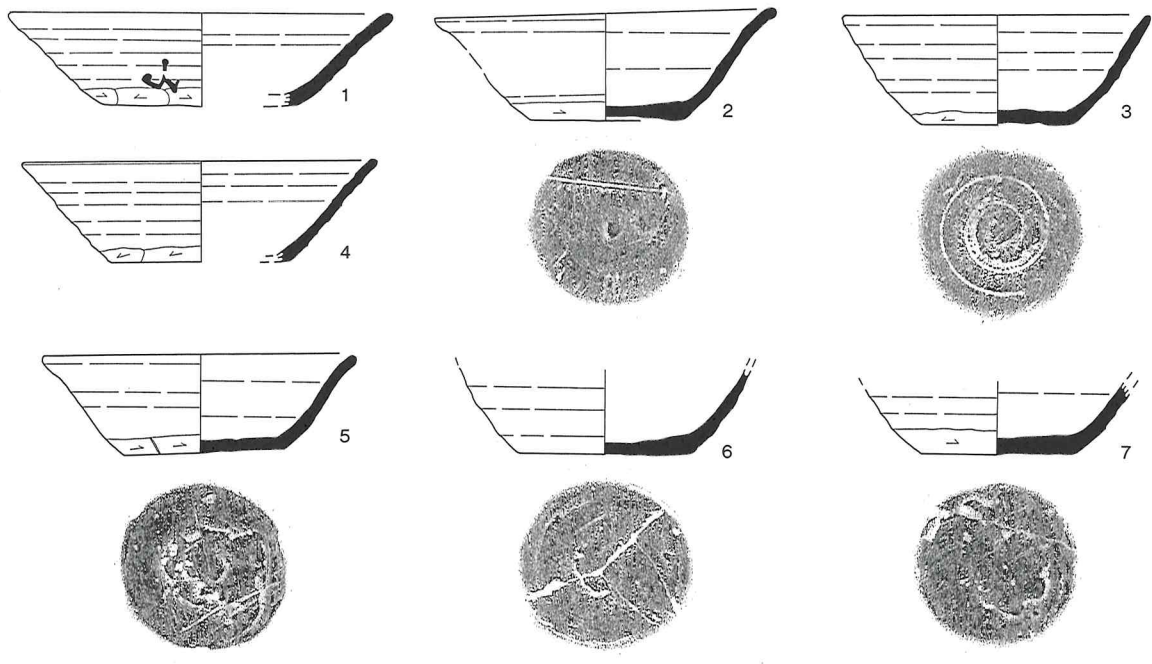
第22図 SI03 出土遺物



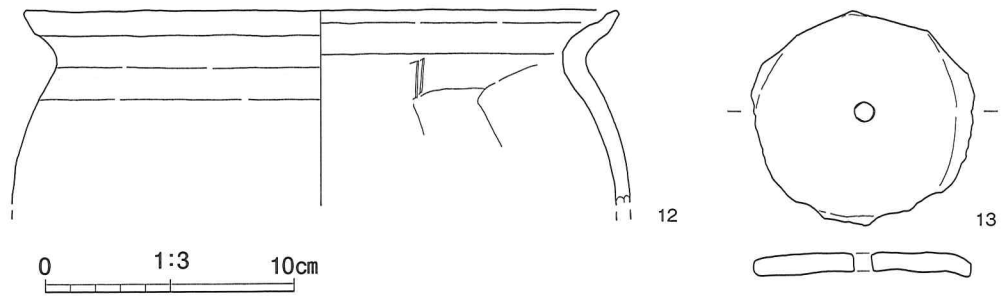
第23図 SI04出土遺物 (1)



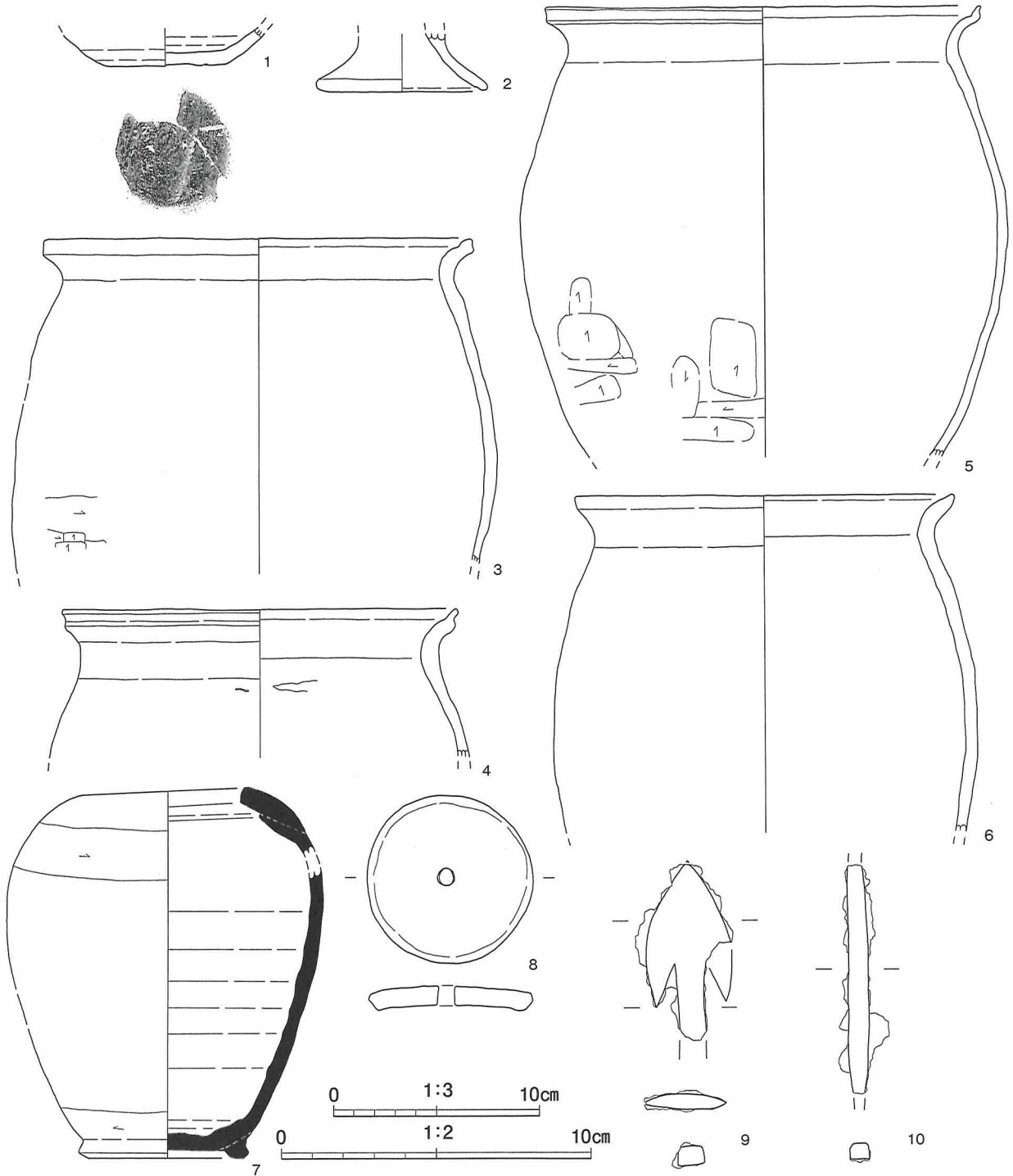
第24図 SI04出土遺物 (2)



第25図 SI05出土遺物 (1)

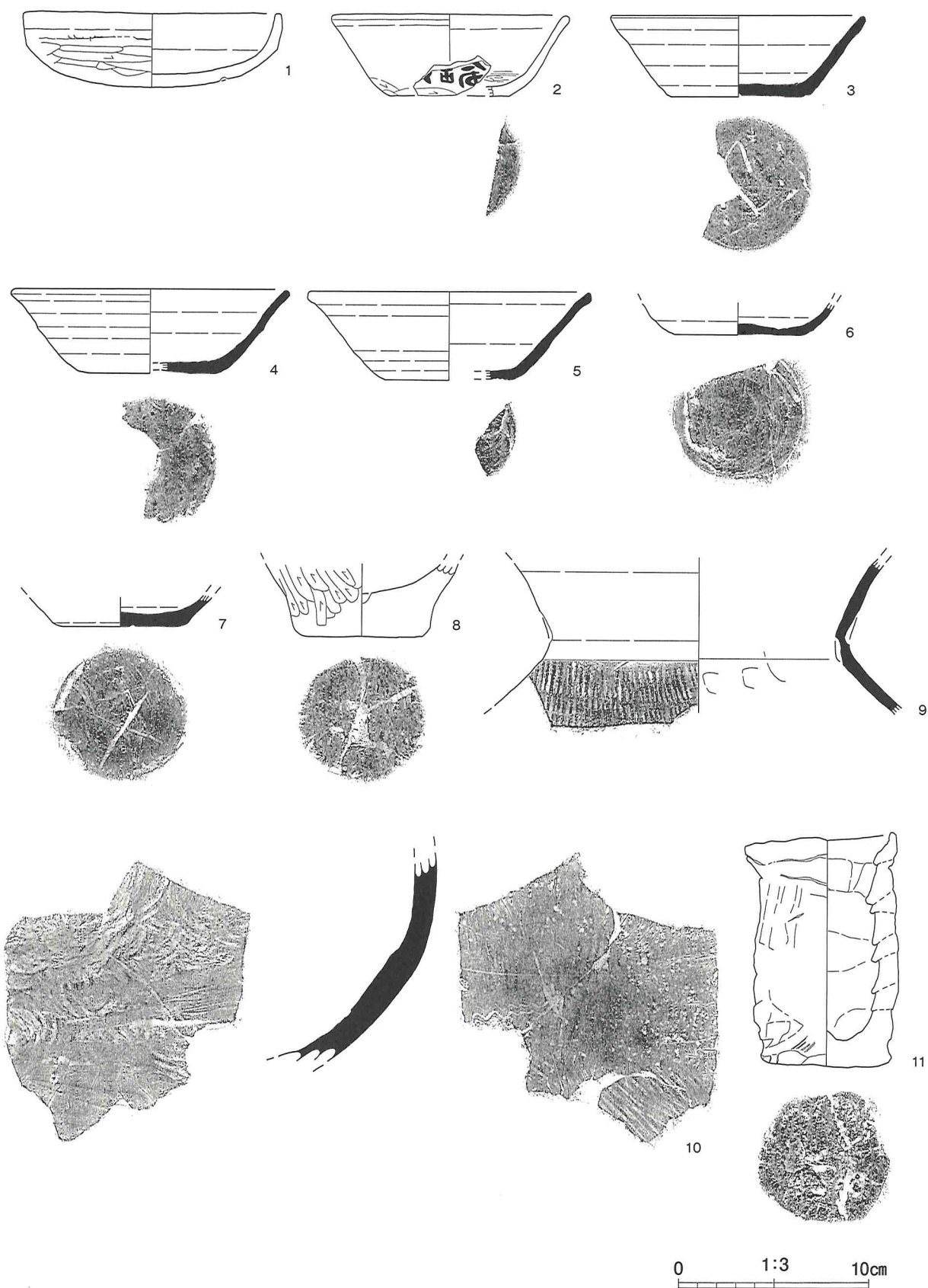


第26図 SI05出土遺物 (2)

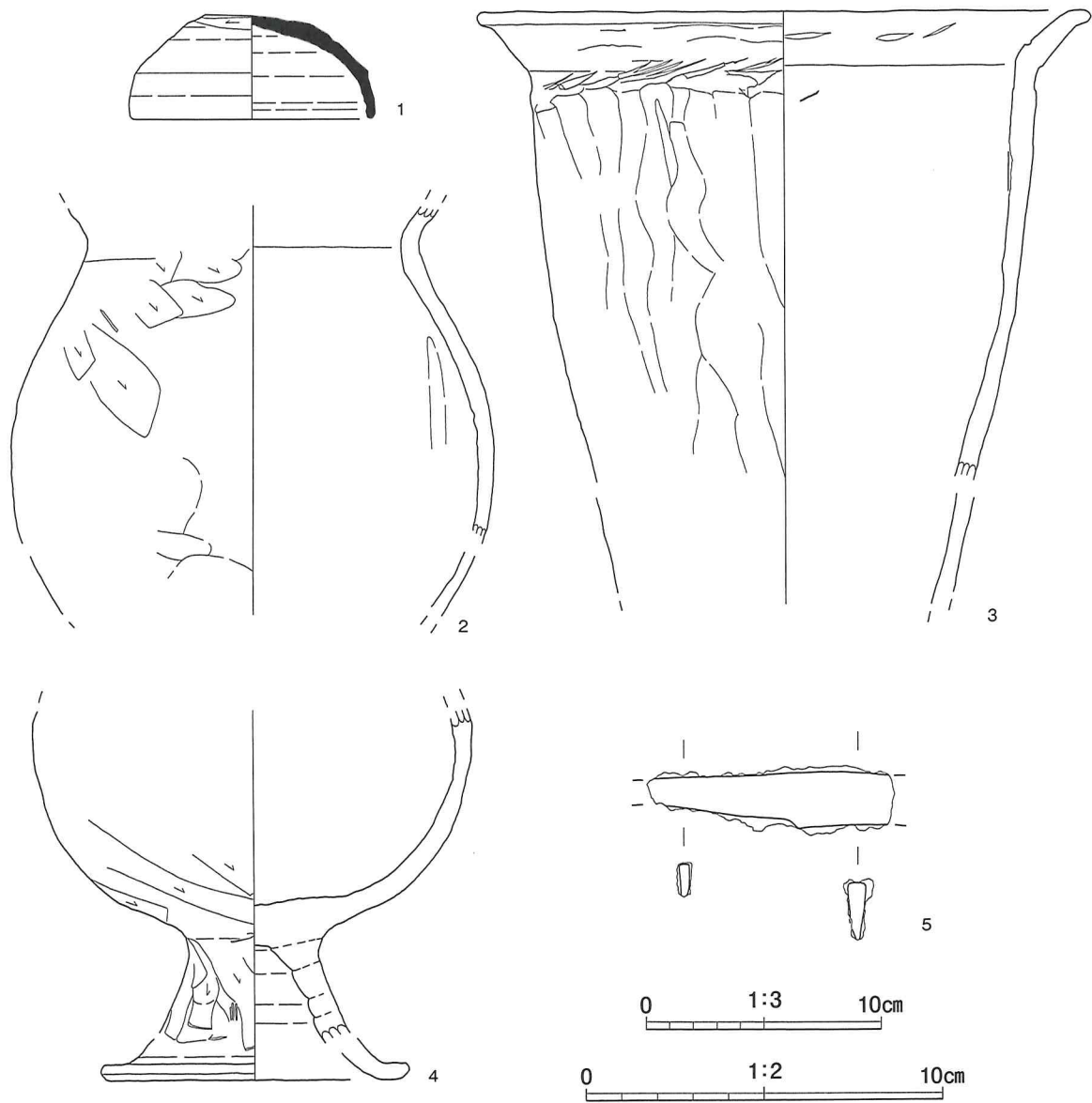


第27図 SI06出土遺物

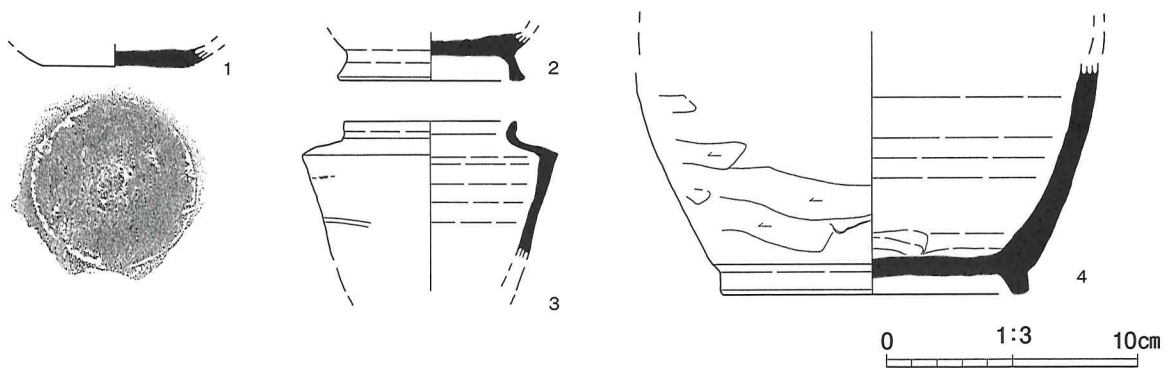




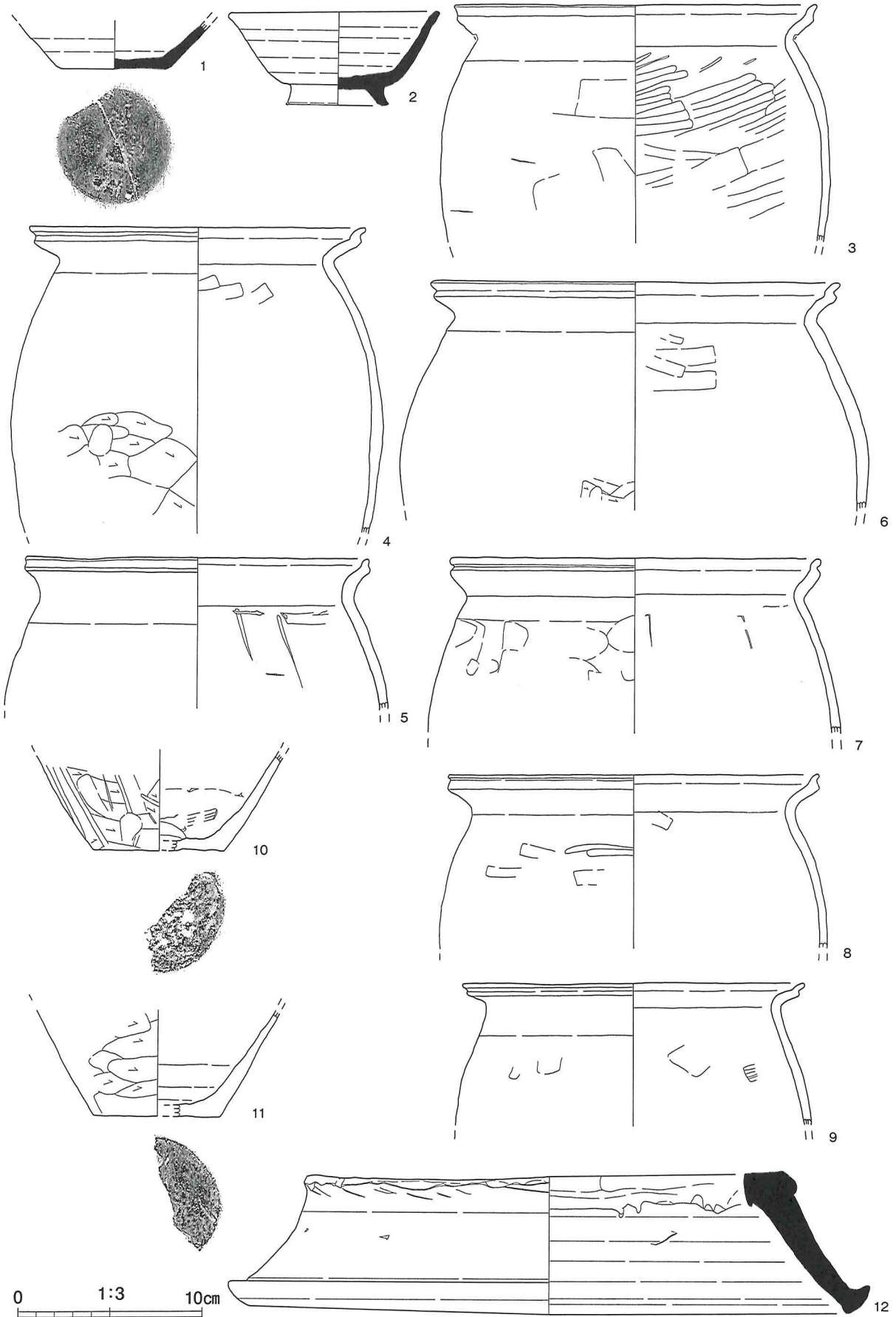
第28図 SI07出土遺物



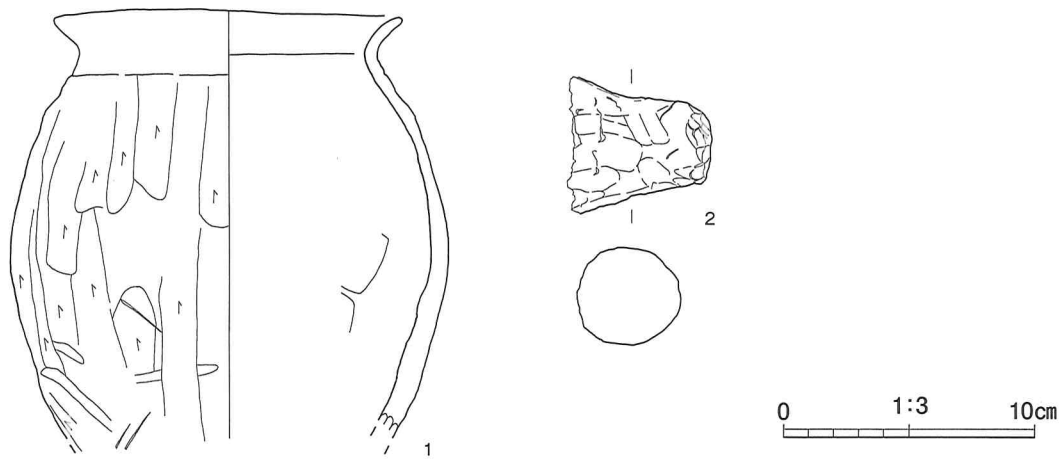
第29図 SI08出土遺物



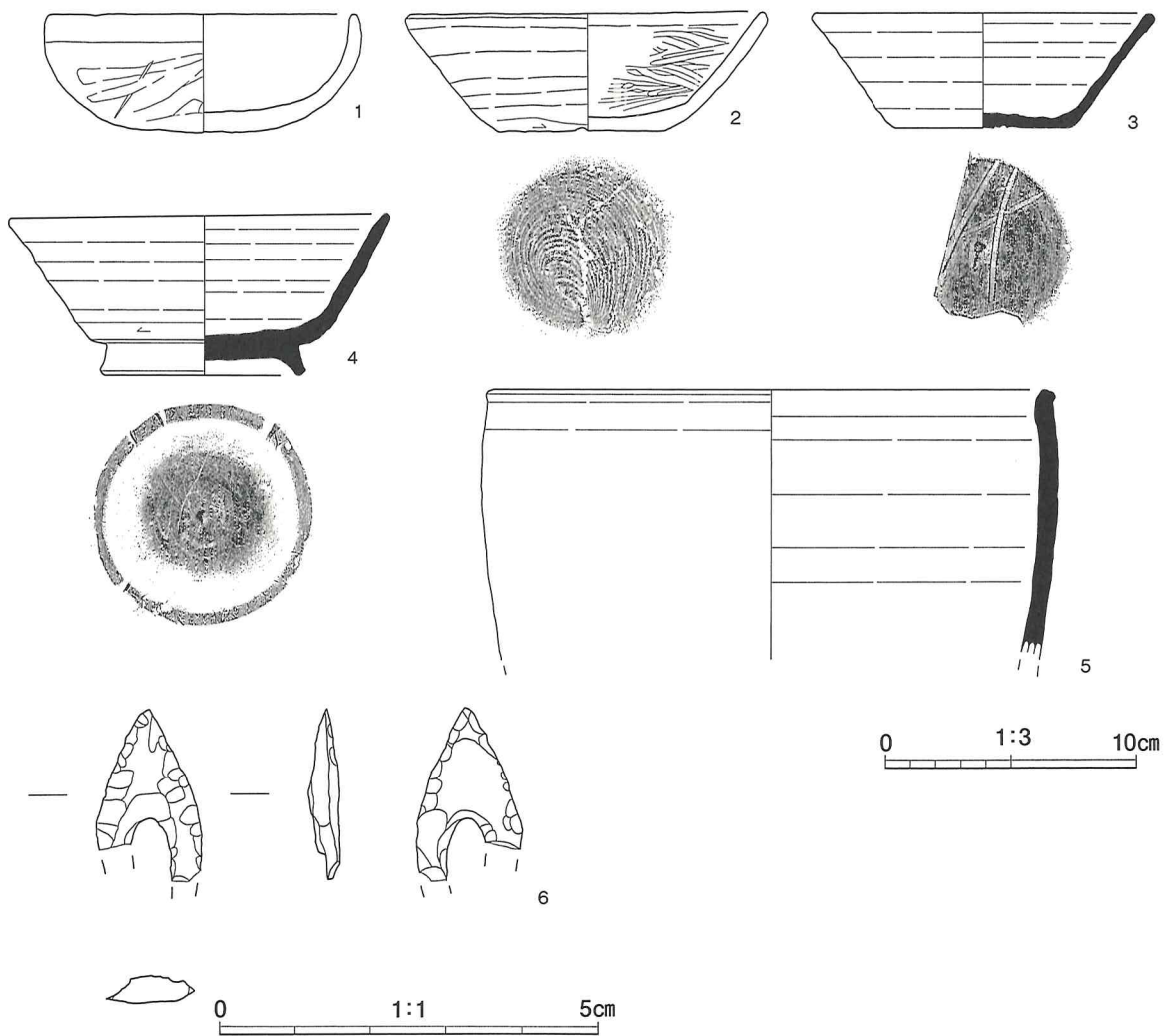
第31図 SI11出土遺物



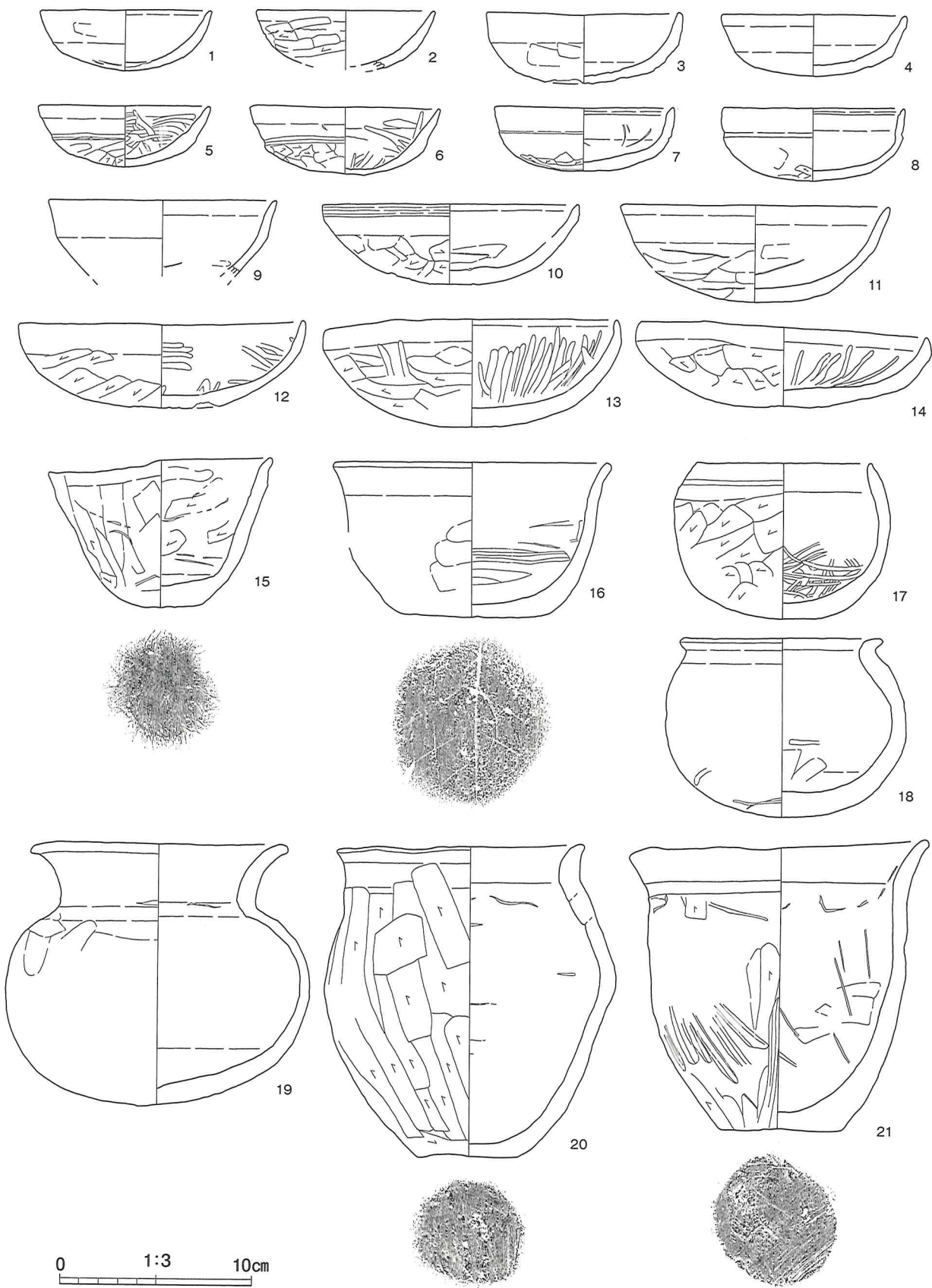
第30図 S110出土遺物



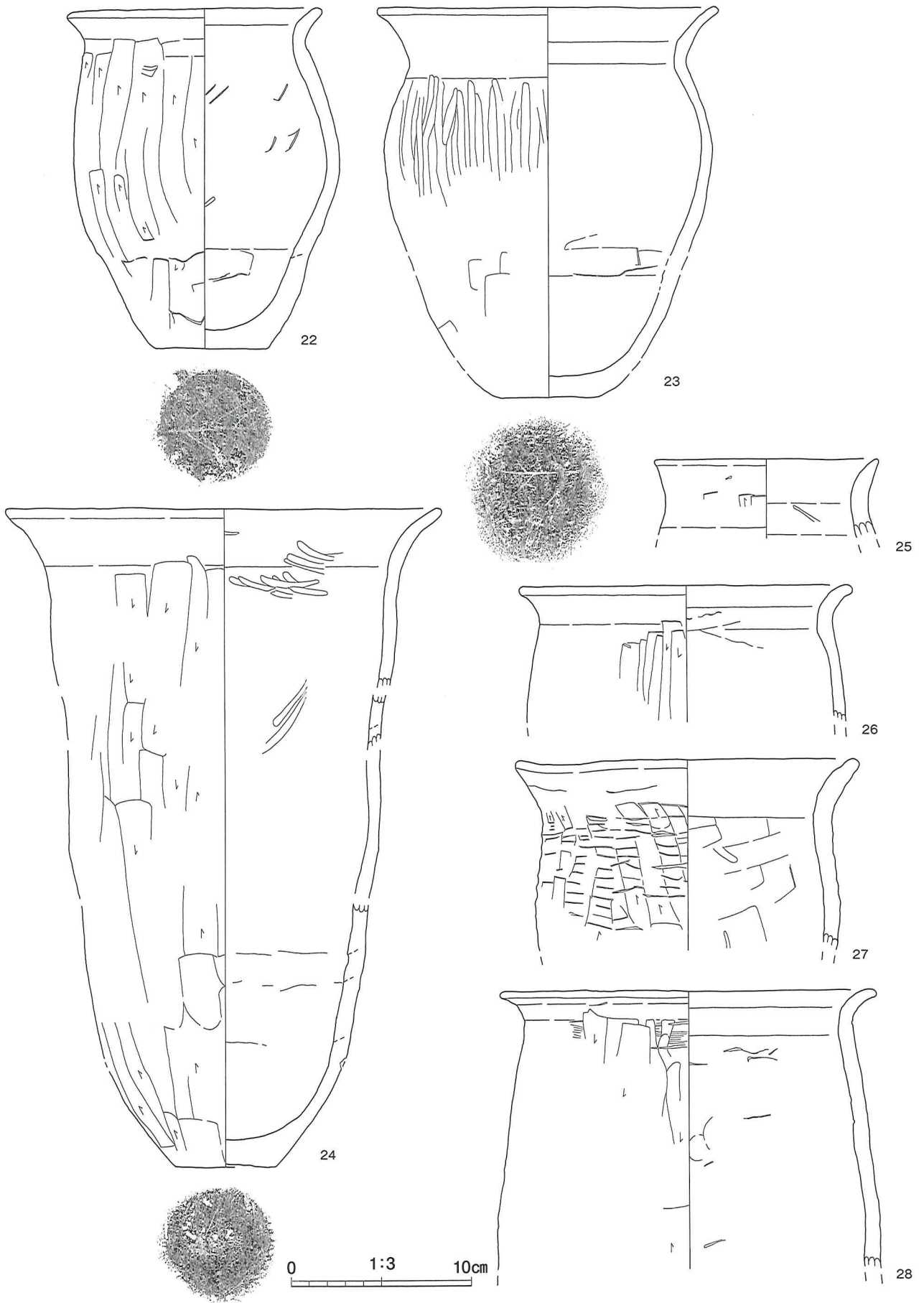
第32図 SI13出土遺物



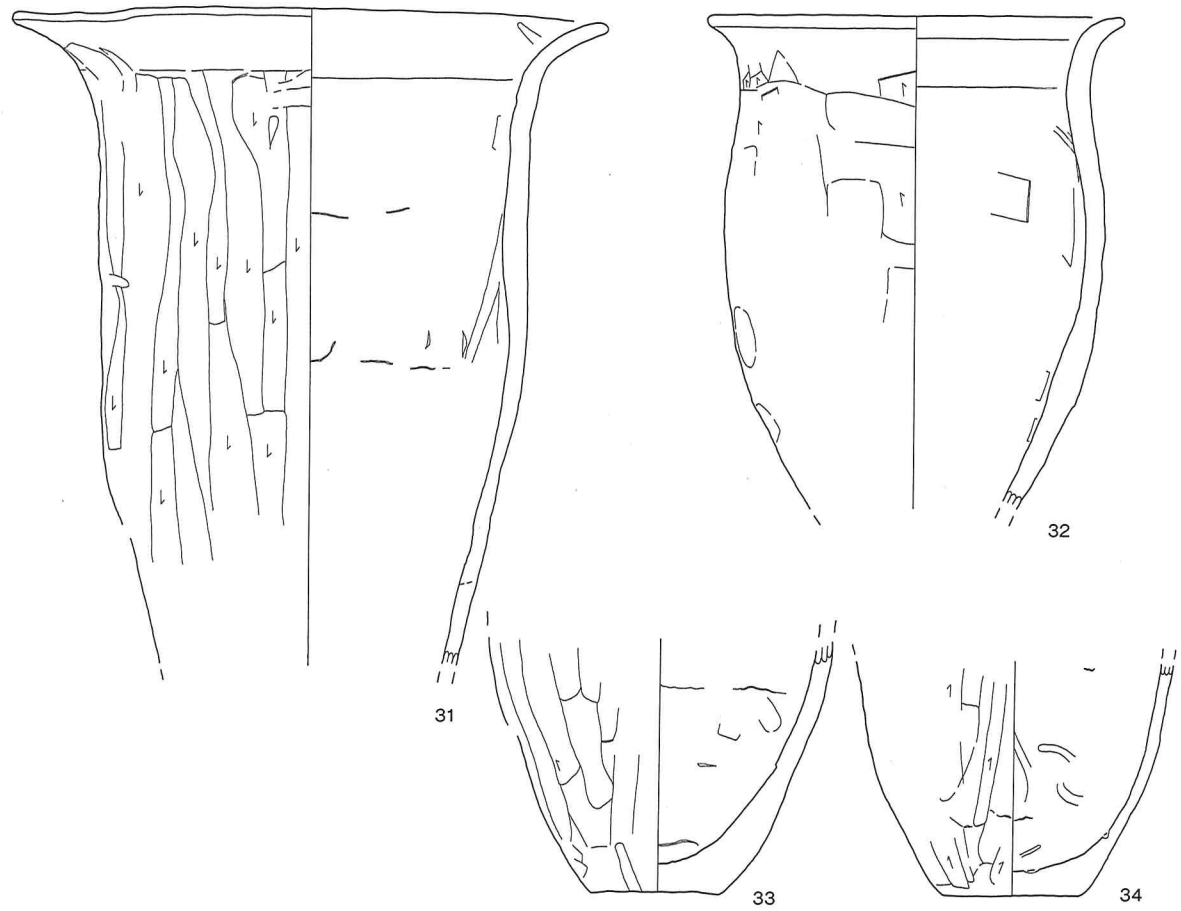
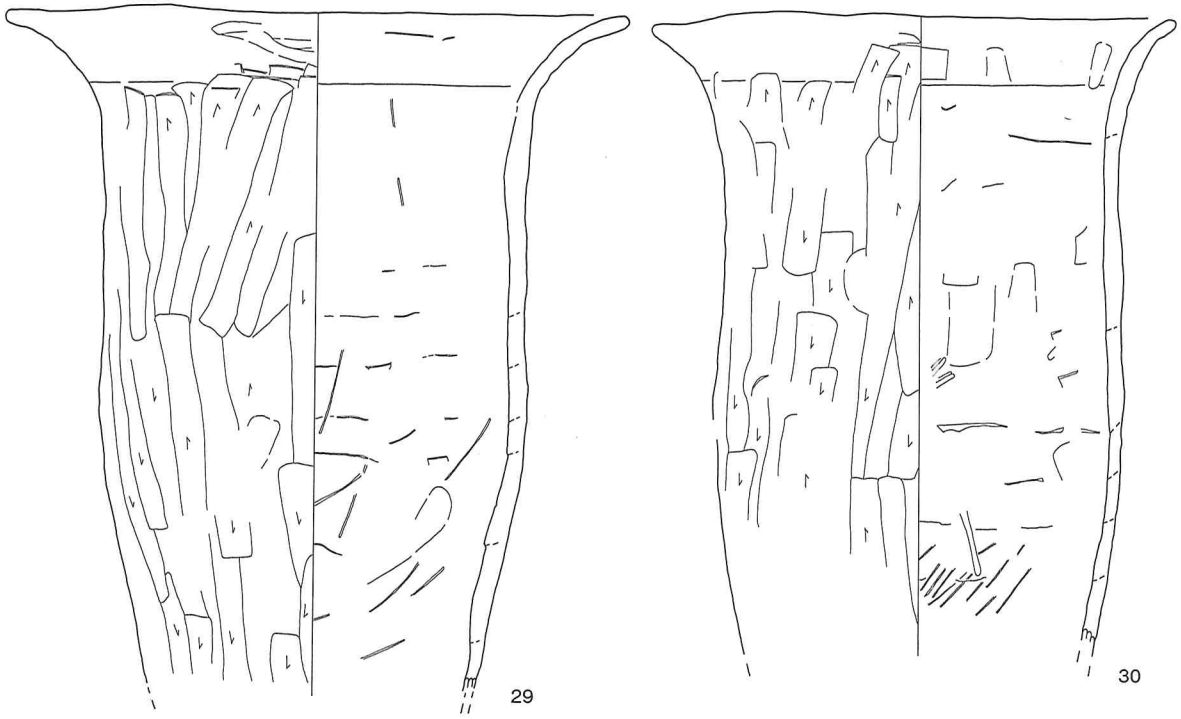
第33図 SI14出土遺物



第34図 SI15出土遺物 (1)



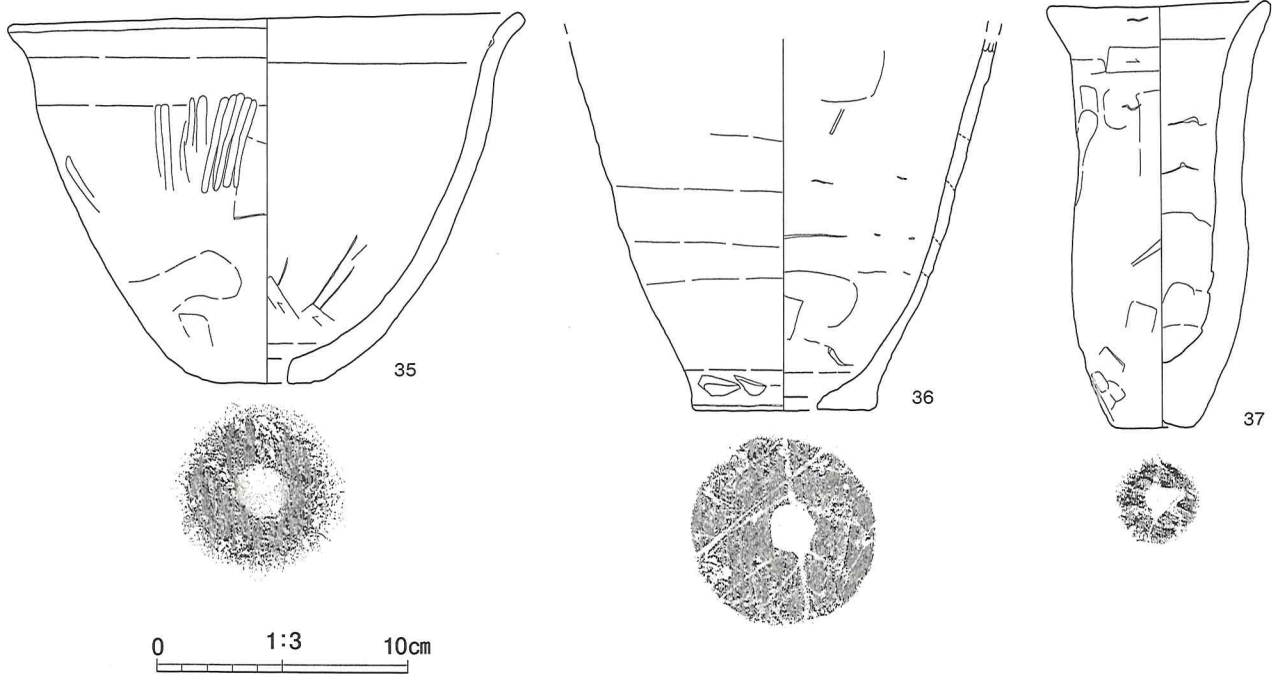
第35図 SI15出土遺物 (2)



0 1:3 10cm



第36図 SI15出土遺物 (3)



第37図 SI15出土遺物 (4)

第2表 SI03出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 高台付坏	-	(3.2)	9.0	左回転のロクロ成形。		灰(10Y5/1)	白色砂粒	良好	覆土下層	1/5残
2	土師器 甕	22.0	(12.0)	-	口縁部はくの字状に外反し、端部に稜を有する。	口縁部横ナデ。	にぶい橙(7.5YR7/4) 一部、明赤褐(2.5YR5/8)	細砂粒	良好	カマド内	1/4残

第3表 SI04出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 坏	12.8	3.9	6.1	右回転のロクロ成形。平底。	底部回転ヘラ切り。	灰(10Y5/1)	赤色スコリア粒 砂粒 黒色細砂粒	良好	覆土下層	5/6残 墨書「口井」
2	須恵器 坏	13.5	3.8	7.0	右回転のロクロ成形。平底。	底部回転ヘラ切り。	灰(10Y5/1)	白色砂粒 細砂粒	良好	床面直上	5/6残
3	須恵器 坏	13.0	3.8	7.2	右回転のロクロ成形。平底。	底部ヘラ切り。底部外面にヘラ記号。	灰(7.5Y5/1)	細砂粒	良好	床面直上	6/7残
4	須恵器 甕	20.2	(29.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、端部は垂直に立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴部外面下半は縦方向にヘラナデ。	橙(5YR6/6)	雲母 白色細砂粒 赤色スコリア粒	良好	覆土下層	3/5残
5	土師器 甕	-	(20.0)	-	長胴型。	外面ナデ後ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	外:にぶい黄(2.5Y4/2) 内:暗灰黄(2.5Y4/2)	雲母 細砂粒 赤色スコリア粒	良好	覆土中層	1/5残
6	須恵器 甕	18.4	(10.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、端部は垂直に立ち上がる。	口縁部横ナデ、内面ヘラナデ。	にぶい橙(7.5YR6/4)	細砂粒 雲母	良好	覆土下層	1/10残
7	土師器 甕	-	(11.0)	8.9	平底、木葉痕。	外面ヘラナデ、スス付着。内面ナデ。	明赤褐(5YR5/6)	細砂粒、雲母	良好	覆土下層	1/16残

第4表 SI05出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 坏	(15.2)	3.7	(7.7)	ロクロ目を残して底部から口縁部にかけて緩やかに広がる。	底部周縁ヘラケズリ。	にぶい褐(7.5YR5/3) 口縁部、黒(2/0)	雲母、細砂粒	良好	埋土中	1/6残 墨書
2	須恵器 坏	13.5	4.5	6.1	平底。口縁端部が外反する。	底部周縁ヘラケズリ。底部外面ヘラ記号。	灰白(5Y7/1) 橙(5YR7/6)	砂粒	普通	覆土中層	2/3残
3	須恵器 坏	12.2	4.3	6.1	右回転ロクロ成形。平底。	底部回転ヘラ切り。	黄灰(2.5Y6/1) 浅黄(2.5Y7/3)	白色細砂粒 砂粒、雲母	良好	埋土中	1/3残
4	須恵器 坏	14.0	4.0	(7.0)	右回転ロクロ成形。平底か。	底部周縁ヘラケズリ。	にぶい黄褐(10YR5/3) 口縁部、黒褐(2.5Y3/1)	雲母、砂粒	良好	覆土中層	1/3残
5	須恵器 坏	12.4	4.1	6.3	右回転ロクロ成形。平底。口縁端部は外反する。	底部周縁ヘラケズリ。	灰白(7.5Y7/1)	細砂粒	良好	覆土下層	5/6残
6	須恵器 坏	-	(3.4)	6.9	右回転ロクロ成形。平底。	底部回転ヘラ切り。	灰(7.5Y5/1)	砂粒 白色細砂粒	良好	埋土中	1/3残



No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
7	須恵器 坏	—	(2.9)	6.1	右回転クロコ成形。平底。	底部、底部周縁ヘラ切り。	灰(10Y5/1)	砂粒 白色細砂粒	良好	埋土中	1/5残
8	須恵器 坏	—	(2.9)	6.2	右回転クロコ成形。平底か。	底部回転ヘラ切り。体部下半までヘラケズリ。	灰(10Y5/1)	白色砂粒 細砂粒	良好	覆土下層	1/4残
9	須恵器 坏	—	(3.4)	7.3	右回転クロコ成形。平底。	底部ヘラケズリ。	灰赤(2.5YR4/2)	白色細砂粒	良好	覆土か	1/3残
10	土師器 甕	17.0	(8.3)	—	口縁部はくの字状に外反し、端部は短く外反しなから立ち上がる。口縁部の一部は粘土を貼り直している。	口縁部横ナデ。内面ヘラナデ。	にぶい褐(7.5YR5/4)	雲母、細砂粒	良好	覆土下層	1/6残
11	土師器 甕	18.6	(6.3)	—	口縁部はくの字状に外反し、口縁端部は短く垂直に立ち上がる。	口縁部横ナデ。内面一部ヘラケズリ。	橙(5YR6/6)	細砂粒、雲母	良好	カマド内	1/10以下残
12	土師器 甕	23.6	(7.7)	—	口縁部はくの字状に外反し、端部がやや立ち上がる。	口縁部横ナデ。	明赤褐(5YR5/6) 一部、赤褐(2.5YR6/8)	細砂粒、雲母	良好	覆土下層	1/10残
No	器種	法量 (cm)			特徴		色調	胎土	焼成	出土位置	備考
13	紡錘車	径：8.5～8.7 厚：0.8、孔径：0.8			土師製。坏底部を転用。		にぶい褐(7.5YR5/4)	微細砂粒	普通	覆土下層	

第5表 SI06出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 坏	—	(1.8)	5.5	右回転クロコ成形。平底。	底部ヘラケズリ。内外面にスス付着。	にぶい褐(7.5YR5/3) 一部、にぶい赤褐(5YR5/4)	白色細砂粒 細砂粒	良好	埋土中	1/5残
2	土師器 台付甕	—	(2.8)	8.3	脚部のみ残。	全面ナデ。	橙(7.5YR6/6)	微細砂粒	良好	埋土中	脚部3/4残
3	土師器 甕	20.6	(16.2)	—	口縁部はほぼ直角に外反、端部は短く垂直に立ち上がる。口縁部歪みあり。	口縁部横ナデ。胴部一部ヘラケズリ。	明赤褐(2.5YR5/6)	細砂粒 白色細砂粒	良好	床面直上	1/2残
4	土師器 甕	19.2	(7.2)	—	口縁部はくの字状に外反し、端部はつまみ上げ。	口縁部横ナデ。	にぶい褐(7.5YR5/4)	細砂粒、小石 白色砂粒	良好	覆土中層	1/10残
5	土師器 甕	21.2	(21.7)	—	口縁部はくの字状に外反し、端部は垂直につまみ上げている。球胴型。	口縁部横ナデ。胴部下半一部にヘラナデ。外面にスス付着。	明赤褐(2.5YR5/8) 一部、黒褐(5YR2/1)	雲母微量 細砂粒	良好	床面直上	1/2残
6	土師器 甕	18.4	(16.4)	—	口縁部はくの字状に外反、端部は短くやや立ち上がる。口縁部歪みあり。	内外面ともに摩擦が激しく、調整不明。	橙(7.5YR6/6) 一部、橙(2.5YR6/8)	白色細砂粒	良好	カマド内	1/2残
7	須恵器 無頸壺	7.8	18.0	8.2	クロコ成形。短い脚部を有する。口縁部は風船技法を用いて成形。	上部、下部にヘラケズリ。口縁部と脚部接着時の調整か。	にぶい赤褐(5YR5/4) 所々、黒褐(7.5YR3/1)	白色細砂粒 細砂粒、砂粒	良好	カマド内	3/4残
No	器種	法量 (cm)			特徴		色調	胎土	焼成	出土地点	備考
8	紡錘車	径：8.0～8.1 厚：0.9、孔径：0.8			須恵製。高台付坏底部を転用。		灰(7.5Y6/1)	白色細砂粒	良好	床面直上	完形
No	器種	残存部			法量 (cm)		鎌身形態	重量 (g)	出土地点	備考	
9	鉄鎌	鎌身部～頸部			(鎌身部)長：4.65、幅：(2.8)、厚：(0.55) (頸部)長：(2.5)、幅：0.9、厚：0.55		腸袂三角鎌	10.32g	埋土中		
10	鉄鎌	頸部			長：(7.4)、幅：0.65、厚：0.55		—	6.83g	埋土中	無茎か	

第6表 SI07出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 坏	(13.4)	3.9	—	丸底。口縁部がやや立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部から底部にかけてヘラケズリ。口縁部内外面に黒色処理か。	にぶい橙(7.5YR6/4)	黒色微細砂粒	良好	覆土下層	1/2残
2	土師器 坏	(13.6)	4.2	(6.2)	平底。口縁端部はやや外反する。	底部、底部周縁ヘラケズリ。底部内面ヘラミガキ。内面黒色処理。	外：橙(7.5YR6/6) 黒褐(10YR3/1) 内：黒(N1.5/)	細砂粒 雲母	良好	埋土中	1/5残 墨書「他田口」
3	須恵器 坏	(13.2)	4.2	(6.8)	右回転クロコ成形。平底。	底部ヘラケズリ、ヘラ記号か。	黄灰(2.5Y4/1)	細砂粒、小石 白色細砂粒	良好	覆土上層	1/2残
4	須恵器 坏	(14.4)	4.4	(6.4)	右回転クロコ成形。平底。口縁端部がやや外反する。	底部ヘラケズリ。外面底部から体部にかけてヘラの痕跡。	灰白(2.5Y7/1) 一部、にぶい黄橙(10YR7/3)	細砂粒	良好	埋土中	1/3残
5	須恵器 坏	(14.6)	4.6	(6.8)	右回転クロコ成形。平底。口縁端部がやや外反する。	糸切痕。	黄灰(2.5Y4/1)	細砂粒、小石 白色細砂粒	良好	覆土上層	1/5残
6	須恵器 坏	—	(1.7)	(6.8)	右回転クロコ成形。平底。	底部回転ヘラケズリ。	灰黄(2.5Y7/2)	細砂粒、小石	良好	埋土中	1/5残
7	須恵器 坏	—	(1.6)	7.0	右回転クロコ成形。平底。	底部ヘラケズリ、ヘラ記号。	にぶい褐(7.5YR5/3) 底部、灰(5Y6/1)	細砂粒、小石	良好	埋土中	1/6残
8	土師器 甕	—	(3.8)	6.2	厚手。	底部から胴部に向けてヘラケズリ。	にぶい橙(7.5YR7/4)	細砂粒 白色細砂粒	良好	埋土中	1/10残 底部外面に植物繊維状のものが付着。
9	須恵器 甕	—	(7.3)	頸部径(15.6)	頸部はくの字状に外反。	外面縦方向の平行叩き目。	暗灰黄(2.5Y4/2)	細砂粒 白色微細砂粒	良好	覆土下層	1/15残
10	須恵器 甕	—	(10.8)	—	球胴型。	外面ヘラケズリ後、2条1組の縞描波状文。内面同心円文ด้วย具痕、ナデ。	外：灰白(2.5Y7/1) 内：灰白(5Y7/1) 器内：橙(5YR6/6)	砂粒、小石 白色細砂粒	良好	覆土下層	1/15残
11	土師器 壺蓋?	8.0	12.2	6.8	手捏ね。	輪模み痕。	外：にぶい黄橙(10YR5/3) 一部、褐灰(10YR4/1) 内：黒褐(10YR3/1)	砂粒 白色砂粒	普通	覆土下層	ほぼ完形

第7表 SI08出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 坏蓋	10.2	4.4	4.5	右回転ロクロ成形。丸みを帯びている。体部に稜がわずかに確認できる。	上部ヘラケズリ。	外: 灰(10Y6/1) 内: 灰(7.5Y6/1)	砂粒 白色細砂粒	良好	覆土下層	完形
2	土師器 甕	-	(17.1)	-	球胴型。	頸部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデの痕跡。	外: 黒(10YR2/1) にぶい黄橙(10YR6/3) 内: にぶい橙 (7.5YR6/4) 灰黄褐(10YR5/2)	細砂粒	普通	床面直上	1/3残
3	土師器 甕	26.0	(25.0)	-	長胴型。口縁部はくの字状に開き、端部は短く外反。	口縁部横ナデ、ヘラケズリ。胴部外面ナデ、ヘラケズリ。	外: にぶい黄橙 (10YR7/3) 一部、黒(5Y2/1) 内: 浅黄橙(10YR8/3)	細砂粒、小石 黒色細砂粒	良好	覆土下層	1/3残
4	土師器 脚付壺	-	(16.6)	13.0	球胴型の胴部にハの字状に広がる脚部を有する。	外面ヘラケズリ。内面スス付着。	外: 橙(5YR6/6) 内: 橙(2.5YR6/6)	砂粒、小石	良好	床面直上	1/2残
No	器種	残存部			法量 (cm)			重量 (g)	出土地点	備考	
5	刀子	茎部〜刃部			(茎部)長:(4.1)、幅:0.9、厚:0.3/(刃部)長:(2.7)、幅:1.4、厚:0.5			11.10g	床面直上		

第8表 SI10出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 坏	-	(2.6)	5.6	右回転ロクロ成形。平底。		灰オリーブ(5Y5/2)	細砂粒、小石	良好	埋土中	1/3残
2	須恵器 高台付坏	(11.3)	5.1	5.4	右回転ロクロ成形。脚部は低く、ハの字状に開く。口縁端部はわずかに外反する。		外: 褐灰(10YR4/1) 内: 黄灰(2.5Y6/1)	細砂粒 白色細砂粒	良好	覆土下層	完形
3	土師器 甕	(19.6)	(12.7)	-	口縁部はほぼ直角に外反し、稜を2段もつ。口縁端部つまみ上げ。	口縁部横ナデ、胴部外面ヘラナデ、内面ヘラ磨き、ヘラナデ。ススの付着あり。	赤褐(2.5YR4/6) 口縁一部、黒(N1.5/)	細砂粒、小石	普通	覆土下層	1/10残
4	土師器 甕	(18.0)	(16.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、稜をもって口縁端部はつまみ上げながら外反。	口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ。	外: 橙(7.5YR7/6) 内: 灰白(7.5YR8/2)	細砂粒、小石 黒色微細砂粒	普通	床面直上	1/10弱残
5	土師器 甕	(18.4)	(8.1)	-	口縁部はやや短くくの字状に外反し、端部はつまみ上げ。	口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ調整か。スス付着。	外: 橙(2.5YR6/8) 内: 橙(5YR7/6)	細砂粒	良好	貯蔵穴内	1/10残
6	土師器 甕	(21.8)	(15.2)	-	口縁部はくの字状に外反し、稜をもって口縁端部はつまみ上げながら外反。	口縁部横ナデ、胴部外面一部ヘラケズリ、内面一部ヘラナデ。	外: 橙(5YR6/6) 内: 橙(7.5YR7/6) 浅黄橙(7.5YR8/3)	砂粒 黒色細砂粒	普通	床面直上	1/10残
7	土師器 甕	(20.0)	(9.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、端部は短くつまみ上げ。	口縁部横ナデ。胴部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外: にぶい赤褐 (5YR5/4) 褐(7.5YR4/3) 内: 灰褐(7.5YR4/2)	細砂粒	良好	埋土中	1/15残
8	土師器 甕	(19.8)	(9.3)	-	口縁部はくの字状に外反し、口縁端部はつまみ上げ。	口縁部横ナデ、胴部外面一部にヘラナデ。	外: 橙(5YR6/6) 一部、明赤褐(5YR5/8) 内: 明赤褐(5YR5/6)	細砂粒、小石	良好	覆土下層	1/12残
9	土師器 甕	(18.4)	(7.6)	-	口縁部はほぼ直角に外反し、稜をもつ。口縁端部はつまみ上げながら外反。	口縁部横ナデ。	外: 橙(5YR6/6) 内: にぶい橙 (7.5YR6/4)	細砂粒	良好	カマド内	1/16残
10	土師器 甕	-	(5.4)	(7.0)	平底。	底部、胴部外面ヘラケズリ。	外: 明赤褐(5YR5/6) 内: 橙(5YR6/6)	砂粒 黒色細砂粒	良好	埋土中	1/15残
11	土師器 甕	-	(5.8)	(6.8)	平底。	底部ヘラケズリ、底部周縁から胴部にかけてヘラケズリ。内面ナデ。	外: 明赤褐(5YR5/6) 一部、橙(2.5YR7/8) 内: 浅黄橙(10YR8/3)	黒色細砂粒 小石	普通	覆土下層	1/16残
12	須恵器 器台	-	7.8	34.5	ロクロ成形。脚端部は跳ね上がるようにつまみ上げている。	内側に釉付着。	灰(5Y5/1) 一部、浅黄(2.5Y7/3) にぶい橙(7.5YR6/4)	微細砂粒 白色砂粒	良好	貯蔵穴内	完形

第9表 SI11出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器 坏	-	(0.9)	6.0	左回転ロクロ成形。平底。		灰(5Y5/1)	細砂粒 白色砂粒	良好	床面直上	1/5残
2	須恵器 高台付坏	-	(1.9)	7.4	左回転ロクロ成形。ハの字状に広がる脚部を有する。		灰(10Y5/1)	細砂粒、小石	良好	カマド内	1/6残
3	須恵器 短頸壺	6.8	(6.7)	-	ロクロ成形。直角に曲がる肩部をもち、後門部は短く立ち上がる。		灰(5Y4/1) 一部、暗灰(N3/) 灰(5Y5/1)	細砂粒、小石	良好	埋土中	1/8残
4	須恵器 長頸壺か	-	(10.4)	12.0	左回転ロクロ成形。短い脚部を有する。	外面ヘラケズリ。	外: 灰(5Y5/1) 灰黄(2.5Y6/2) 黒(2.5Y2/1) 内: 黄灰(2.5Y6/1)	細砂粒、小石 白色微細砂粒	良好	床面直上	1/5残?

第10表 SI13出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 甕	13.8	(17.7)	—	口縁部はくの字状に外反。全体的に歪みあり。	口縁部横ナデ。胴部外面スス付着、縦方向のヘラケズリ。	外:にぶい褐(7.5YR5/4) 一部、灰褐(7.5YR5/2) 内:橙(5YR6/6) 灰褐(5YR4/2)	細砂粒、砂粒 小石	普通	床面直上	1/3残
2	土師器 甕把手	—	(5.8)	—	中実。	全面ヘラケズリ。	橙(7.5YR6/6)	砂粒、小石 黒色細砂粒	良好		

第11表 SI14出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	12.2	4.7	(5.8)	丸底。口縁端部はやや内傾しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。外面体部から底部にかけてヘラケズリ。	にぶい黄褐(10YR7/4) 一部、黒(7.5YR2/1、N1.5/)	細砂粒	普通	覆土下層	3/4残
2	土師器 杯	(14.4)	4.7	6.5	平底。	体部外面ヘラナデ。底部糸切りの後、底部周縁ヘラケズリ。体部内面ヘラナデ、ヘラミガキ。内面黒色処理。	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 一部、黒(2.5Y2/1) 内:黒(2.5Y2/1)	砂粒、小石 黒色砂粒	良好	覆土下層	2/3残
3	須恵器 杯	(13.6)	4.7	(7.0)	平底。	底部外面ヘラ記号。	暗灰黄(2.5Y5/2)	白色砂粒 細砂粒	良好	埋土中	2/5残
4	須恵器 高台付杯	15.1	6.5	8.2	右回転クロコ成形。ハの字状に開く高台を有する。	底部外面にヘラ記号か。	黄灰(2.5Y4/1) 一部、灰褐(7.5YR4/2)	砂粒、小石 白色砂粒	良好	覆土下層	3/4残
5	須恵器 鉢	22.6	(10.7)	—	口縁端部は短く外反。		外:灰(7.5Y5/1) 内:灰(5Y5/1)	砂粒、小石 白色細砂粒	良好	覆土下層	
Na	器種	材質			法量 (cm)			重量 (g)	出土地点	備考	
6	石鏡	チャート			長: (2.4)、最大幅: 1.4、最大厚: 0.4			0.64g	埋土中		

第12表 SI15出土遺物観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	9.0	3.2	—	丸底。体部外面わずかに稜をつくる。口縁端部つまみ上げ。	内外面ともに摩耗が激しく、調整不明。外面ヘラナデか。	外:黒褐(2.5Y3/1) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	黒色細砂粒	普通	覆土下層	9/10残
2	土師器 杯	9.4	(3.0)	—	丸底。半球形。	口縁部横ナデ。体部ヘラナデ、ヘラケズリ。	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:赤橙(10R6/8)	細砂粒、砂粒	普通	覆土下層	2/3残
3	土師器 杯	10.2	3.7	—	丸底。口縁部は垂直に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ。内面黒色処理。	外:浅黄橙(10YR8/4) 内:浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒	普通	覆土下層	ほぼ完形
4	土師器 杯	(9.8)	3.2	—	丸底。体部外面に稜を有する。口縁端部つまみ上げ。	口縁部横ナデ。内面黒色処理。	外:浅黄橙(10YR8/3) 褐灰(10YR4/1) 内:にぶい黄橙(10YR7/2) 黒(10YR2/1)	砂粒 黒色細砂粒	普通	覆土下層	4/5残
5	土師器 杯	(9.0)	3.2	—	丸底。体部外面に稜をもつ。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。	外:黒(5Y2/1) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	砂粒、小石	普通	覆土下層	2/5残
6	土師器 杯	10.0	3.6	—	丸底。体部に稜を2段有する。口縁部はやや外反する。	体部下ヘラケズリ。内面ヘラナデ、ヘラミガキ。	黒(10YR2/1) にぶい黄橙(10YR7/3) 一部、橙(5YR6/8)	細砂粒、小石 白色砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
7	土師器 杯	9.4	3.4	—	丸底。体部中程に稜をもつ。	口縁部横ナデ。底部、底部周縁ヘラケズリ。内面に放射状にヘラを当てた痕跡。	黒(2.5Y2/1) 一部、にぶい橙(7.5YR5/3)	白色細砂粒 砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
8	土師器 杯	(9.6)	3.8	—	丸底。体部外面に沈線。口縁部つまみ上げ。	口縁部横ナデ。外面底部周縁ヘラケズリ。内面黒色処理。	外:褐灰(10YR5/1) 内:黒(N1.5/)	細砂粒	良好	覆土下層	3/5残
9	土師器 杯	12.0	(4.0)	—	体部外面に稜をもつ。口縁端部はやや外反。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、ヘラナデ。体部内面ヘラナデ。	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	砂粒 黒色細砂粒	良好	埋土中	1/6残
10	土師器 杯	(13.5)	4.2	—	丸底。口縁端部つまみ上げ。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	外:黒(7.5YR2/1) 内:褐灰(7.5YR3/1)	砂粒、白色砂粒	良好	床面直上	1/2残
11	土師器 杯	14.2	5.1	—	丸底。口縁端部はやや外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。スス付着あり。	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	白色細砂粒 砂粒、小石	良好	床面直上	3/5残
12	土師器 杯	(15.0)	(4.7)	—	丸底。口縁端部はやや垂直に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ、ヘラミガキ。	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	砂粒 黒色細砂粒	良好	覆土下層	3/4残
13	土師器 杯	15.7	5.7	—	丸底。口縁端部は内傾しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。内外面黒色処理。	黒(2.5Y2/1)	砂粒、小石 白色細砂粒	良好	覆土下層	9/10残
14	土師器 杯	(15.1)	4.5	—	丸底。口縁端部がやや内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面はナデの後放射状にヘラミガキ。	外:灰黄褐(10YR5/2) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	細砂粒、砂粒	良好	覆土下層	9/10残
15	土師器 鉢	11.7	7.8	—	やや平らな丸底。口縁端部は外反しながらつまみ上げ。	口縁部横ナデ。体部内外面ヘラケズリ、ヘラナデ。	外:黒褐(10YR3/2) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	砂粒 黒色細砂粒	良好	カマド内	ほぼ完形
16	土師器 鉢	(14.6)	8.1	—	平底。口縁部は緩やかに外反。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、ヘラナデ。体部内面ヘラナデ。底部外面に木炭痕。	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい褐(7.5YR5/4)	砂粒 白色細砂粒	良好	カマド内	3/5残

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
17	土師器 壺	9.2	8.1	—	丸底。口縁端部は短くつまみ上げ。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。	外: 褐灰(10YR4/1) 内: 黒褐(10YR3/1)	白色砂粒 砂粒、小石	良好	覆土下層	ほぼ完形
18	土師器 壺	10.6	9.4	—	丸底。口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。底部外面ヘラケズリ、ヘラミガキ。	外: にぶい橙 (7.5YR6/4) 内: 黒褐(5YR3/1)	砂粒、小石 白色細砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
19	土師器 小型甕	13.5	13.8	—	丸底。口縁部はくの字状に外反し、端部はさらに外反。	口縁部横ナデ。胴部外面上半ヘラナデ。	橙(2.5YR6/6) 一部、灰黄褐 (10YR4/2)	白色細砂粒 砂粒	普通	床面直上	ほぼ完形
20	土師器 小型甕	13.1	16.3	5.7	平底。口縁部はややくの字状に外反し、端部が短くさらに外反。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向のヘラケズリ。内面は摩擦が激しく調整不明。	外: 橙(5YR7/6) 内: 灰褐(7.5YR5/2)	砂粒多 小石	良好	床面直上	ほぼ完形
21	土師器 小型甕	15.7	15.3	6.5	平底。口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラケズリ、ヘラナデ。内面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリ。	外: にぶい橙(5YR6/4) 内: 橙(7.5YR7/6)	細砂粒、小石 白色砂粒	良好	カマド内	完形
22	土師器 小型甕	14.1	18.8	6.0	平底。口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラケズリ、ヘラナデ。胴部内面ヘラナデ、ヘラミガキ。底部外面にも木葉痕。	外: 浅黄橙(10YR8/3) 一部、黒褐(7.5YR3/1) 内: にぶい橙 (7.5YR3/1)	砂粒	良好	床面直上	ほぼ完形
23	土師器 甕	(19.0)	21.5	(6.0)	平底。口縁部はくの字状に外反。	底部に木葉痕。胴部外面上半ヘラミガキ、下半ヘラケズリ、ヘラナデ。	外: 橙(7.5YR7/6) 一部、橙(5YR6/6) 内: 赤褐(5YR4/6)	砂粒多 小石	普通	床面直上	7/10残
24	土師器 甕	(24.0)	(36.3)	5.6	平底。口縁部は緩やかに外反する。長胴型。	口縁部横ナデ。胴部外面縦方向のヘラケズリ、ヘラナデ。内面上部ヘラミガキ、下部ヘラナデ。	外: 橙(5YR6/6) 一部、にぶい 橙(7.5YR7/4) 内: 灰褐(7.5YR4/2)	砂粒 細砂粒	良好	カマド内	3/4残
25	土師器 甕	(12.4)	(4.4)	—	口縁部は緩やかに外反。	口縁部横ナデ。内外面ともにヘラ痕。スス付着。	外: にぶい橙(5YR6/4) 内: にぶい橙 (7.5YR7/4)	砂粒 白色細砂粒	良好	床面直上	1/8残
26	土師器 甕	(18.4)	(7.5)	—	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラケズリ。	外: にぶい橙 (7.5YR7/4) 内: 黒褐(10YR3/2)	砂粒 細砂粒	良好	カマド内	1/10残
27	土師器 甕	(19.0)	(10.5)	—	口縁部は緩やかに外反。	口縁部横ナデ。外面ヘラ痕。内面ヘラナデ。	外: にぶい橙 (7.5YR7/4) 内: にぶい黄橙 (10YR7/4)	砂粒 黒色細砂粒	良好	覆土下層	1/7残
28	土師器 甕	(20.8)	(15.4)	—	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラケズリ、ヘラナデ。	黒褐(10YR3/1)	砂粒、小石 白色細砂粒	普通	カマド内	1/16残
29	土師器 甕	(24.8)	(27.0)	—	口縁部は大きく外反。長胴型。	口縁部横ナデ。胴部外面縦方向のヘラケズリ、ヘラナデ。胴部内面、輪積痕。	外: 橙(5YR6/6) 内: にぶい橙 (7.5YR6/4)	砂粒 細砂粒 小石	普通	カマド内	1/3残
30	土師器 甕	(20.8)	(25.5)	—	口縁部は緩やかに外反。長胴型。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラ痕。	外: 灰褐(7.5YR4/2) 一部、橙(5YR6/6) 内: 灰黄褐(10YR4/2)	砂粒、小石 白色細砂粒	良好	カマド内	3/5残
31	土師器 甕	23.5	(16.0)	—	口縁部は大きく外反。長胴型。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向のヘラケズリ、ヘラナデ。胴部内面、輪積痕。口縁部内面スス付着。	外: 明赤褐(2.5YR5/6) 一部、にぶい橙 (7.5YR7/4) 内: 橙(7.5YR7/6)	砂粒 小石	良好	カマド内	3/5残
32	土師器 甕	(16.6)	(19.5)	—	口縁部は緩やかに外反。歪みあり。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラケズリ。	橙(5YR6/6) 外一部、にぶい黄橙 (10YR7/4)	細砂粒 砂粒、小石	良好	カマド内	1/3残
33	土師器 甕	—	(10.1)	5.0	平底。	胴部から底部周縁までヘラケズリ、ヘラナデ。底部、木葉痕。	外: にぶい黄橙 (10YR6/3) 内: にぶい橙(5YR7/4)	砂粒	良好	カマド内	1/4残
34	土師器 甕	—	(9.3)	(5.8)	平底。	胴部外面ヘラケズリ。	外: 灰黄褐(10YR4/2) 内: にぶい黄褐 (10YR5/3)	砂粒 白色微細砂粒	良好	カマド内	1/10残
35	土師器 甕	20.5	14.7	(4.0)	丸底に近い平底。単孔。口縁部は外反しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴部外面上半ヘラミガキ、下半ヘラナデ。歪みあり。	外: にぶい黄褐 (10YR6/4) 内: にぶい橙 (7.5YR7/4)	砂粒	良好	埋土中	ほぼ完形
36	土師器 甕	—	(14.7)	7.4	平底。単孔、焼成後の穿孔。	底部周縁外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部に木葉痕。	にぶい赤褐 (5YR4/4)	白色砂粒 砂粒	良好	カマド内	1/5?
37	土師器 塩壺?	(9.0)	16.9	3.0	平底、中央が窪む。口縁部は緩やかに外反。	口縁部横ナデ。口縁内面に指圧痕。体部外面ヘラナデ、ヘラケズリ、内面ヘラナデ。輪積痕。	外: にぶい黄橙 (10YR6/4) 内: にぶい褐 (7.5YR5/4)	砂粒、小石	良好	埋土中	9/10残

# Ⅲ おわりに

今回の鳥井戸遺跡の発掘調査においては、竪穴住居跡15軒、円形周溝遺構1基、溝1条等が確認された。最後に出土土器群等の検討から各遺構の年代を位置付けるとともに、集落の構成や変遷について若干考察し、まとめとしたい。

## 1 出土土器群の様相

今回出土した土器群は、器形や器種構成の特徴等から以下に示すとおり大きく2群に分けられる。

**第1群土器** (SI08・13・15) 坏・埴類は丸底の土師器坏が主体で、SI15では大小等の法量分化もみられる。甕類は土師器の長胴甕が主体で、口縁部径が最大径となるものがほとんどである。なお須恵器はまだ客体的であるが、SI08では小型化した蓋坏の伴出がみられる。

**第2群土器** (SI03～07・10・11・14) 坏・埴類は底部へう切りの須恵器坏が主体で、数は少ないが底部糸切りで内面黒色処理のロクロ土師器が共伴する。甕類は所謂「下野型」の土師器甕が主体で、口縁部のつまみが強く胴部上位に最大径を有するものが多い。なお墨書土器も一定量みられる。

これらの年代的位置付けについては、近隣の発掘調査(西刑部地区の大関台遺跡、東谷・中島地区の砂田遺跡・権現山遺跡等)成果等を参考にすると、第1群土器が古墳時代終末期の7世紀中ごろ、第2群土器が平安時代前期の9世紀中葉に位置付けることが可能である。

## 2 集落の構成と変遷

以上の竪穴住居跡出土土器群の検討から、本集落跡は次のようなII時期の変遷が考えられる。

**第I期** 第1群土器を伴出したSI08・13・15に加え、立地や主軸方位等からSI01・12も同時期とみられる。竪穴住居跡は一辺5～6mのやや大型のものが主体で、主軸方位はほぼ南北である。集落の立地は基本的には江川に面した台地東縁辺寄りであるが、次期に比してやや台地中央部寄りに展開する様子がみられる。

**第II期** 第2群土器を伴出したSI03～07・10・11・14に加え、規模や立地等からSI02・09も同時期とみられる。竪穴住居跡は一辺3～4mの小型のものが主体で、主軸方位は全体に10～20°前後東に振れている。集落の立地は、前期に比べてより台地東縁部に集中する傾向がみられる。なお最も北に位置するSI07は他に比して明らかに規模が大きく、集落の中心的な竪穴住居と考えられる。

古墳時代終末期から平安時代前期ということで、二つの時期には200年近い隔りがあるが、竪穴住居の小型化や集落の立地・構成等の変化を改めて確認することができたものと思われる。

(参考文献)

- 杉浦昭博・池田敏宏他 2001『大関台遺跡』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団  
津野仁・篠原浩恵・今平昌子 2007『東谷・中島地区遺跡群8 砂田遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団  
内山敏行 2010『東谷・中島地区遺跡群10 権現山遺跡北部・杉村遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

# 写真図版



調査地区表土除去状況（西から）



遺構確認状況（東から）

PL2

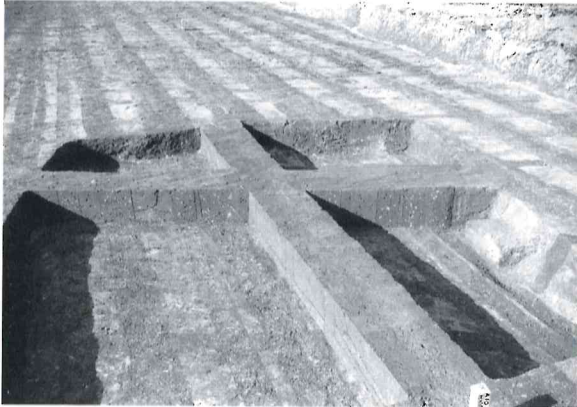


調査地区全景（東から）

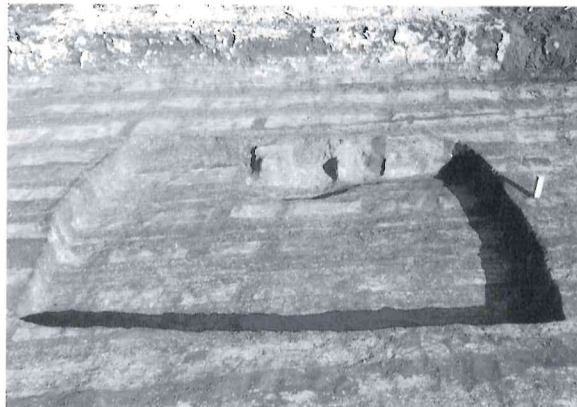


調査地区全景（西から）





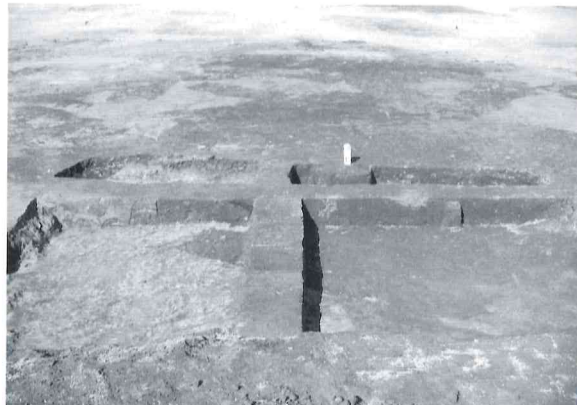
SI01土層断面 (西から)



SI01完掘状況 (南から)



SI01カマド (南から)



SI02土層断面 (南から)



SI02完掘状況 (南から)



SI03土層断面 (東から)

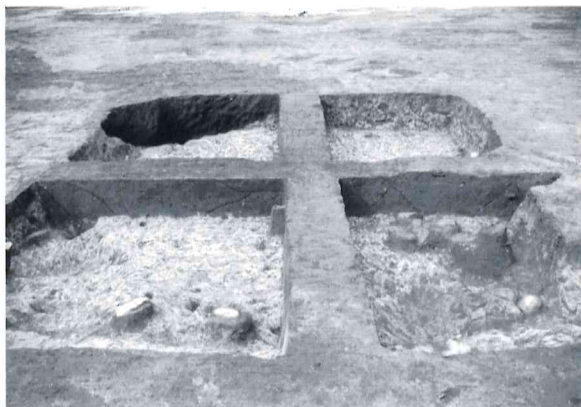


SI03完掘状況 (南から)

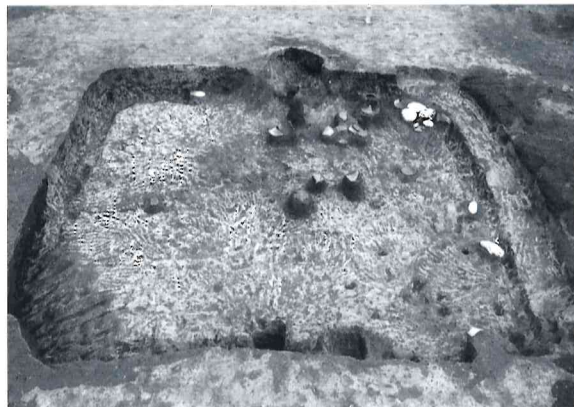


SI03カマド (南から)

PL4



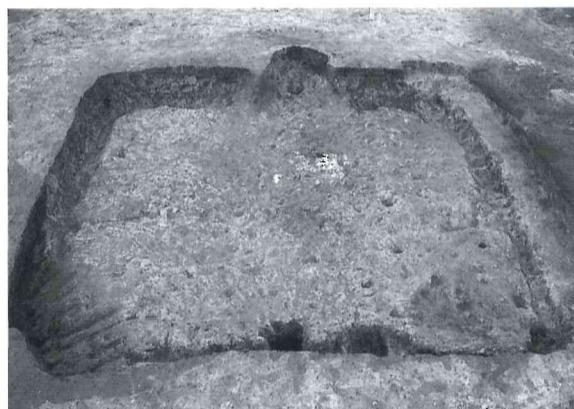
SI04土層断面 (東から)



SI04遺物出土状況 (南から)



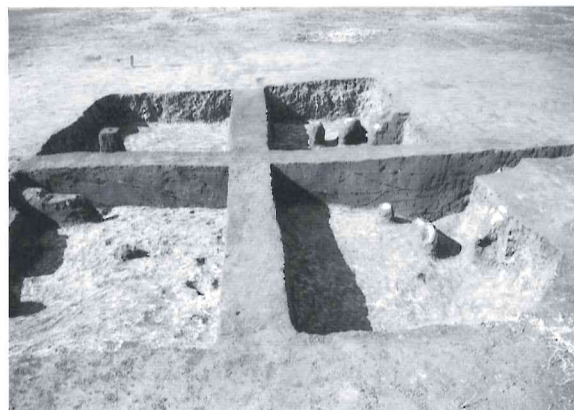
SI04北東コーナー部遺物出土状況 (東上から)



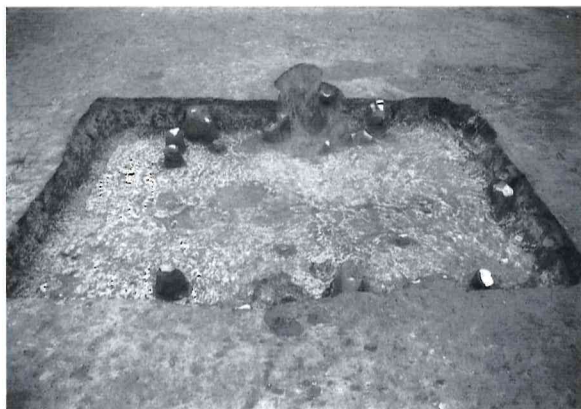
SI04完掘状況 (南から)



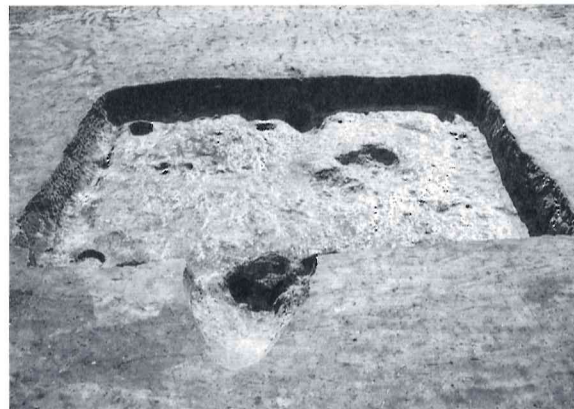
SI04カマド (南から)



SI05土層断面 (東から)



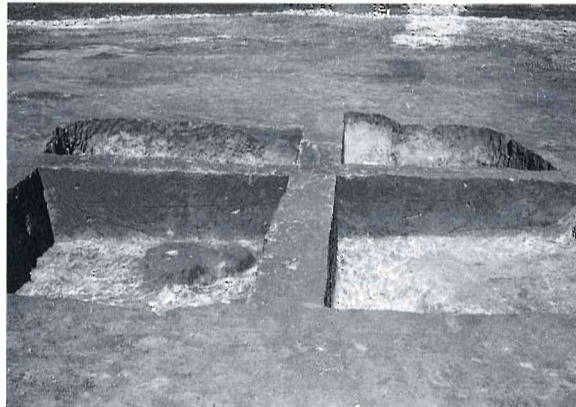
SI05遺物出土状況 (南から)



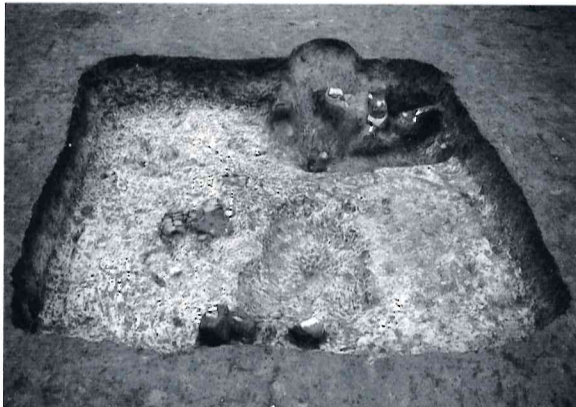
SI05完掘状況 (北から)



SI05カマド (南から)



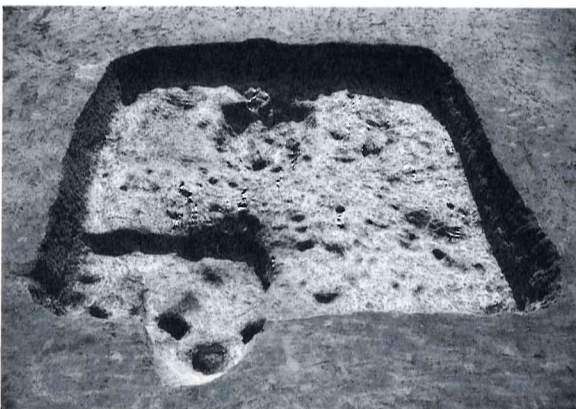
SI06土層断面 (南から)



SI06遺物出土状況 (南から)



SI06土師器甕出土状況



SI06完掘状況 (北から)



SI06カマド (南から)



SI07土層断面 (南から)



SI07遺物出土状況 (南から)

PL6



SI07完掘状況（南から）



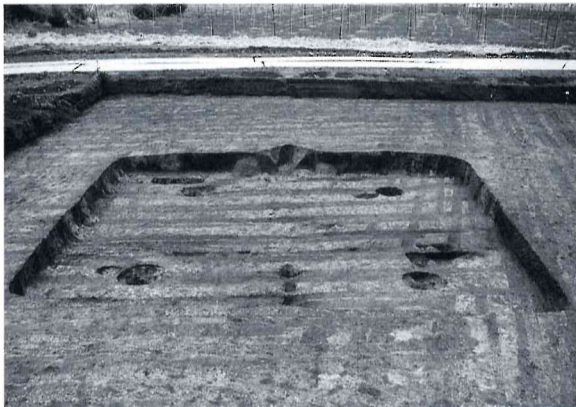
SI07カマド（南から）



SI08土層断面（東から）



SI08鉄器出土状況



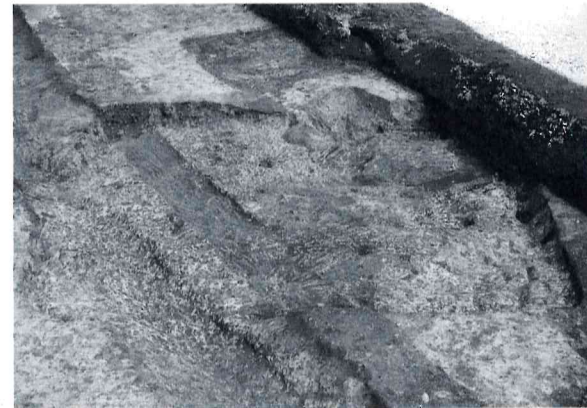
SI08完掘状況（南から）



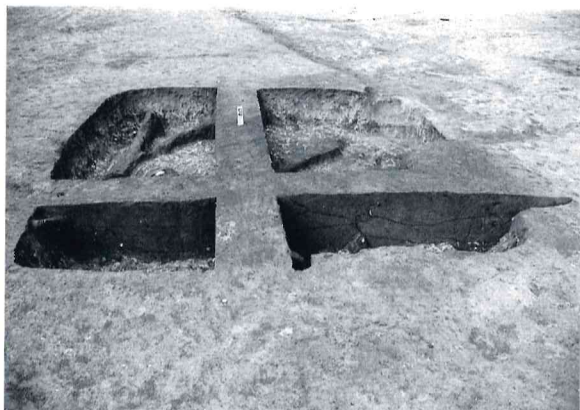
SI08カマド（南から）



SI09土層断面（南から）



SI09完掘状況（南から）



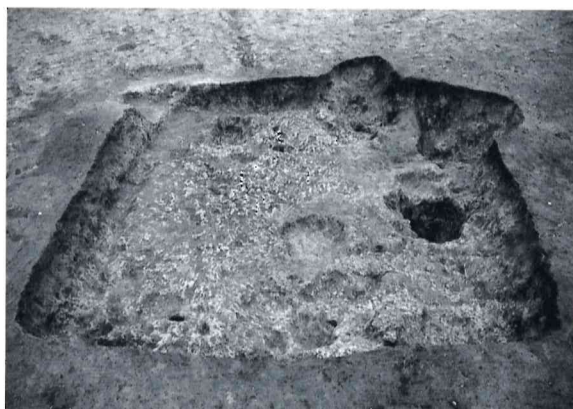
SI10土層断面（東から）



SI10遺物出土状況（北から）



SI10須恵器甕出土状況



SI10完掘状況（南から）



SI10カマド（南から）



SI11土層断面（南から）

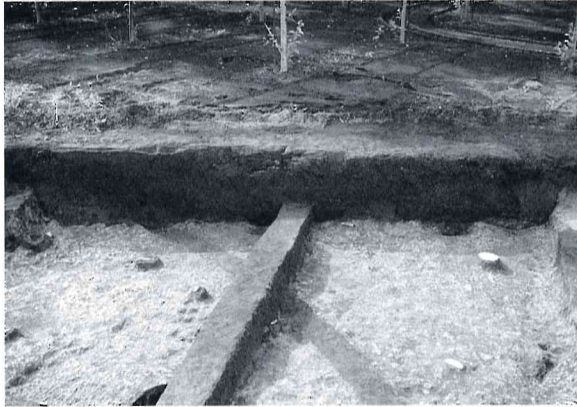


SI11完掘状況（南から）

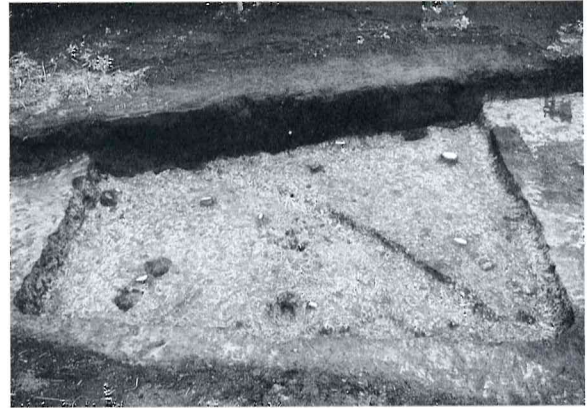


SI11カマド（西から）

PL8



SI12土層断面（南から）



SI12完掘状況（南から）



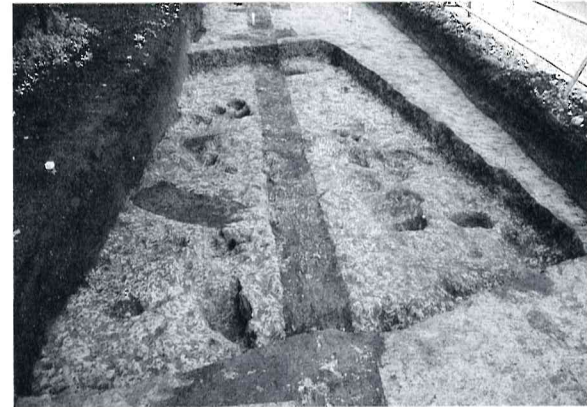
SI13調査風景（南から）



SI13土層断面（南から）



SI13土師器甕出土状況



SI13完掘状況（南から）



SI13調査区遠景（南から）



SI14土層断面（東から）



SI14完掘状況 (南から)



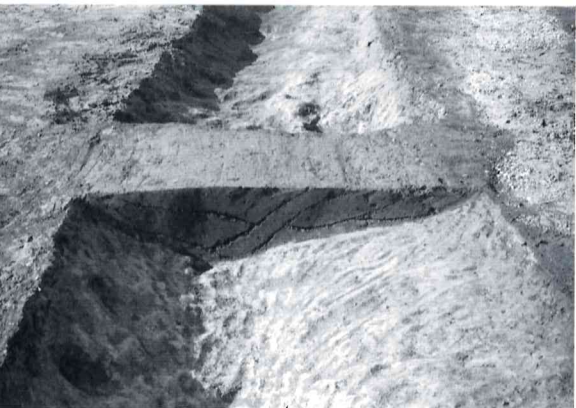
SI15遺物出土状況 (北から)



SI15完掘状況 (北から)



SI15調査区遠景 (南から)



SD01土層断面 (南から)



SD01完掘状況 (南から)

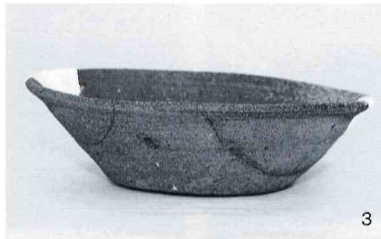
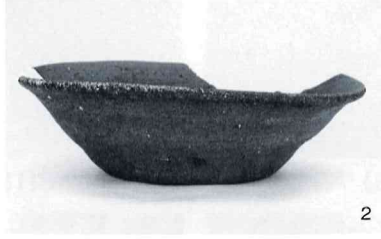
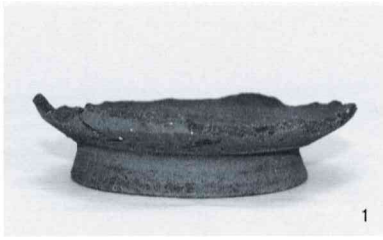


SD01完掘状況 (北から)



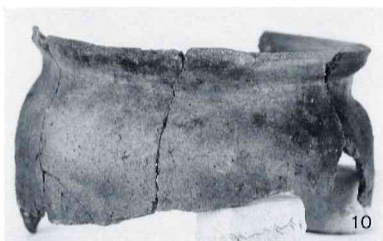
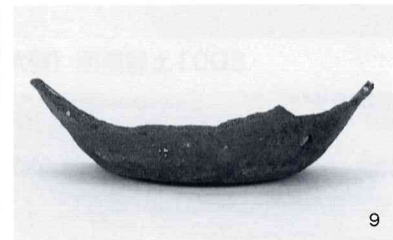
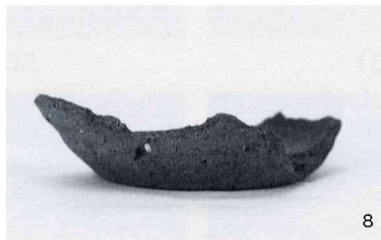
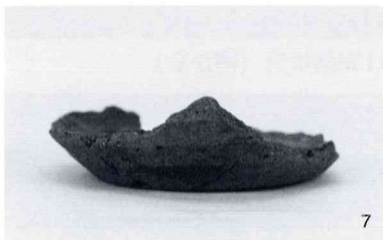
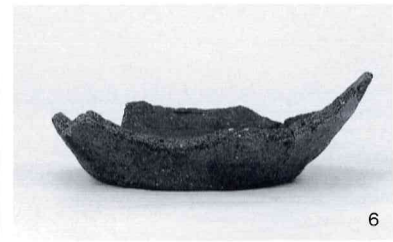
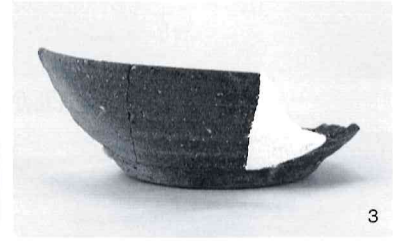
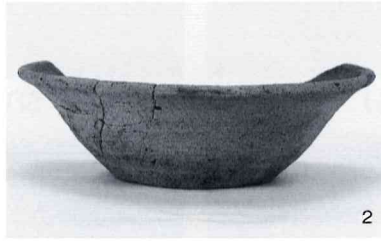
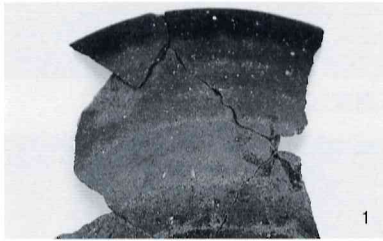
SX01完掘状況 (北から)

PL10



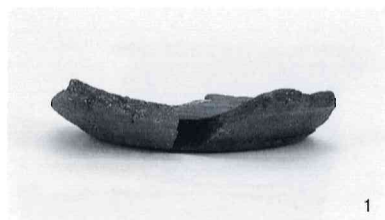
S103出土遺物

S104出土遺物



S105出土遺物





1



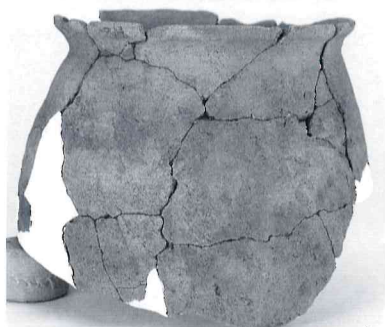
2



7



3



6



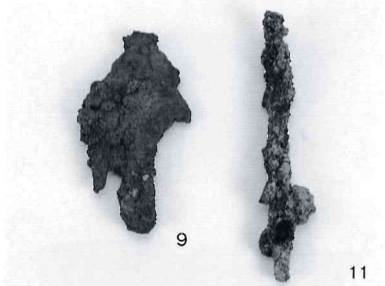
8



4



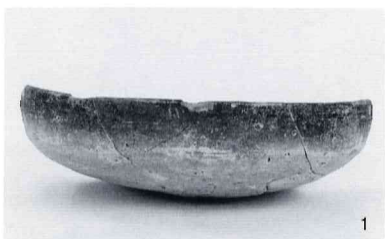
5



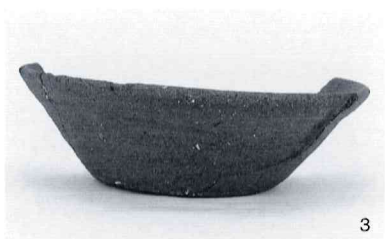
9

11

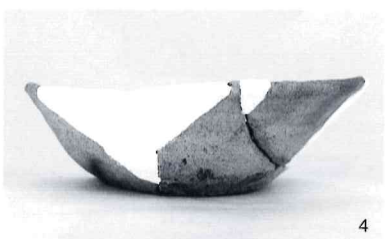
SI06出土遺物



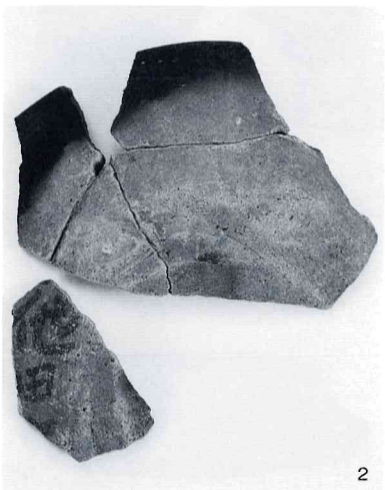
1



3



4



2



5



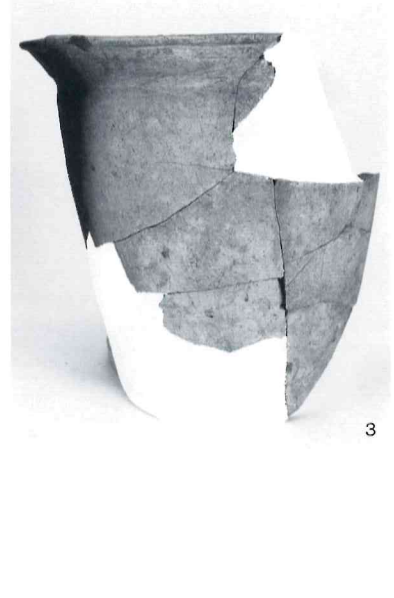
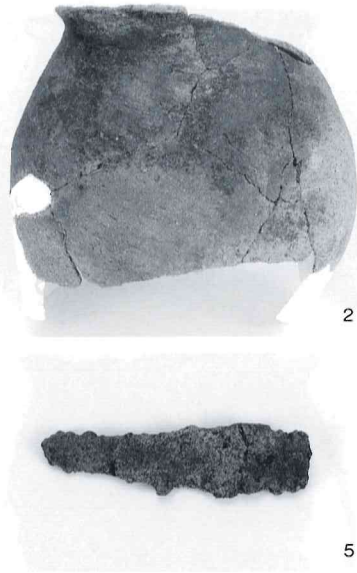
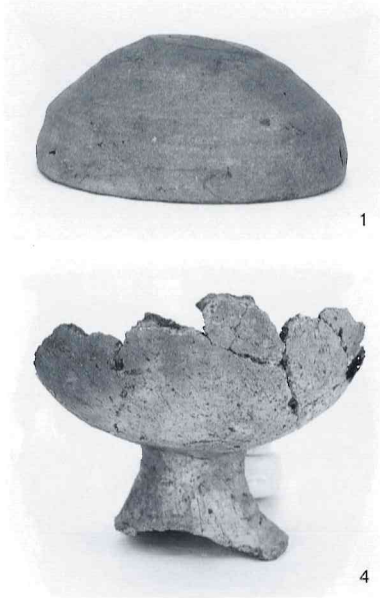
7



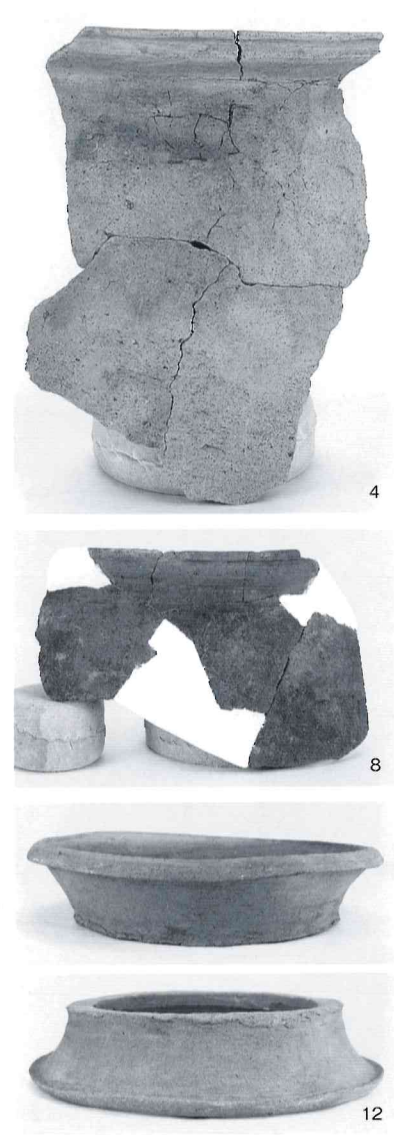
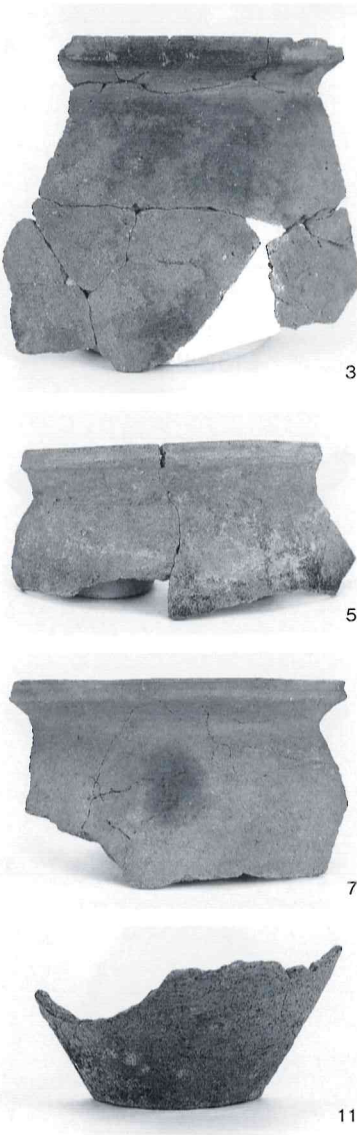
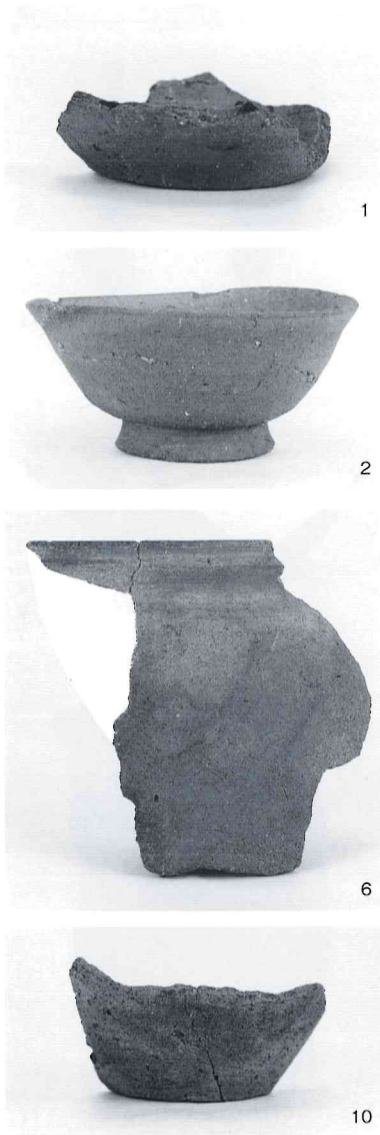
11

SI07出土遺物

PL12



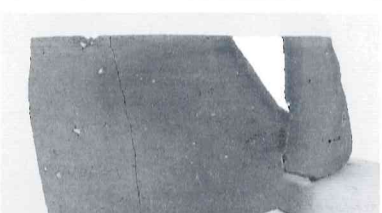
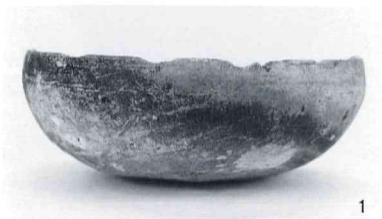
SI08出土遺物



SI10出土遺物

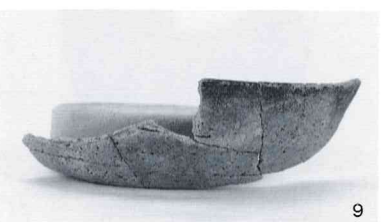
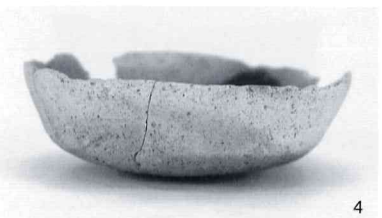
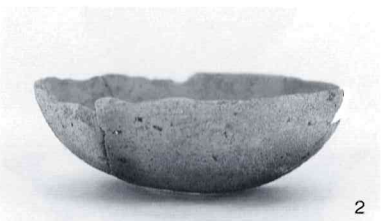


SI11出土遺物



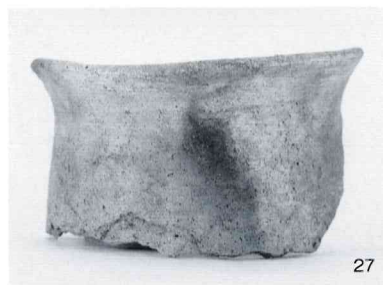
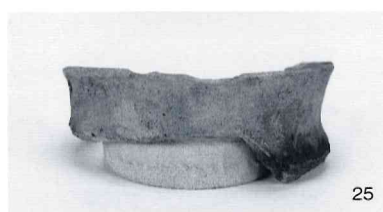
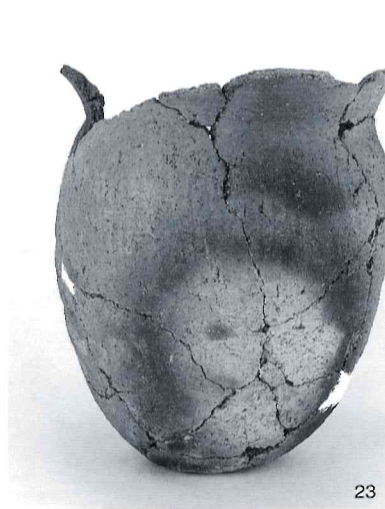
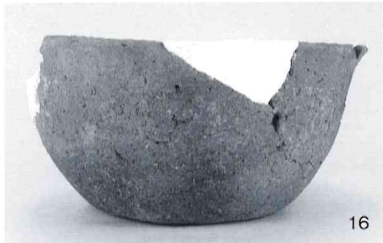
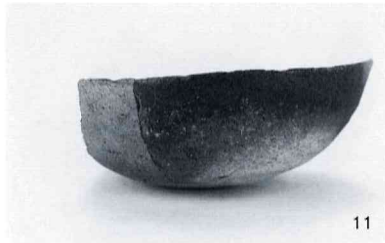
SI13出土遺物

SI14出土遺物

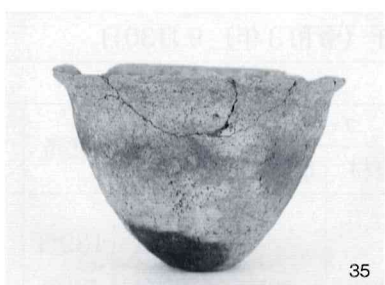
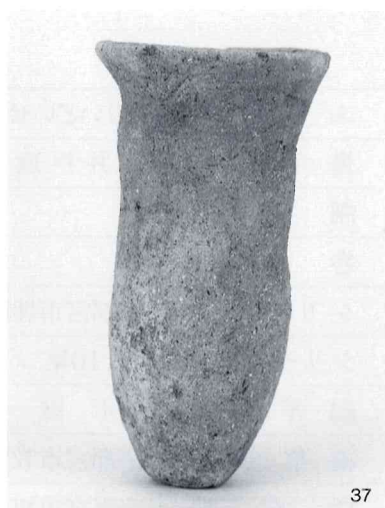


SI15出土遺物 (1)

PL14



SI15出土遺物 (2)



S115出土遺物 (3)

# 報告書抄録

ふりがな	とりいどいせき
書名	鳥井戸遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第110集
編著者名	梁木 誠 田續麻友子 清地良太
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 TEL028-632-2764
発行年月日	西暦 2021年(令和3年)9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とりいどいせき 鳥井戸遺跡	うつのみやし 宇都宮市 かみこもりやまち 上籠谷町	09201	3377	36度 30分 58秒	139度 58分 20秒	20080804 ～ 20150323	6,220	市道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鳥井戸遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡 15軒他	土師器、須恵器、 鉄器等	近隣では数少ない古代 集落の調査例。

---

---

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書 第110集

鳥井戸遺跡

発行 宇都宮市教育委員会

編集 宇都宮市教育委員会

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL 028-632-2764

発行日 令和3年9月30日発行

印刷 有限会社 印刷親友社

宇都宮市瑞穂3-9-11

TEL 028-656-3655

---

---